

日藝

日本大学芸術学部 2027

OPEN UP (), NICHIGEI

2026年度 入試広報カレンダー

2026年

6月 オープンキャンパス

8月 オープンキャンパス

10月 総合型選抜

11月 学校推薦型選抜

12月 外国人留学生選抜

校友枠選抜・帰国生選抜

編入学試験・転部試験

2027年

2月 一般選抜N全学統一方式(第1期) 学力検査型

一般選抜N全学統一方式(第1期) 専門試験併用型

3月 一般選抜N全学統一方式(第2期) 学力検査型

春のオープンキャンパス

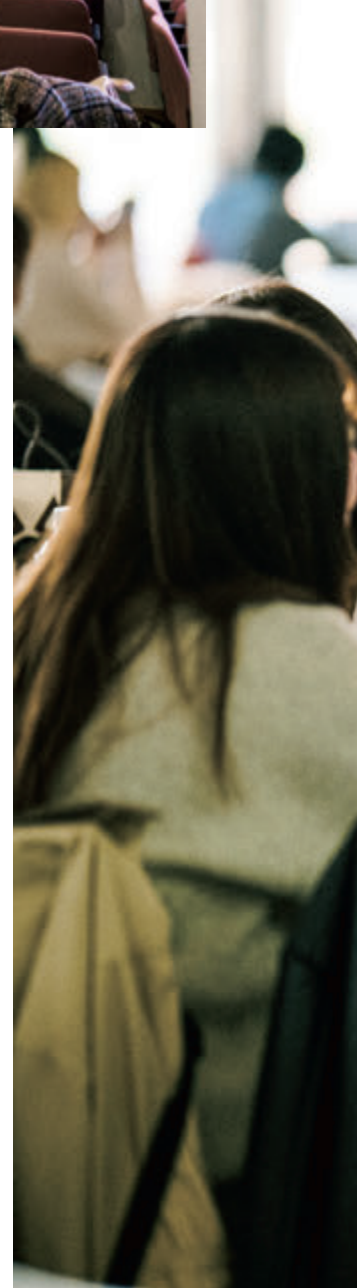
4月 入学式 新入生歓迎会

詳しくはWEBを
ご覧ください



上記の学校行事のほかに、
展覧会や演奏会、舞台等、
学外の方も参加でき、
各学科の多様な特色が感じられる
イベントを多数開催しています。



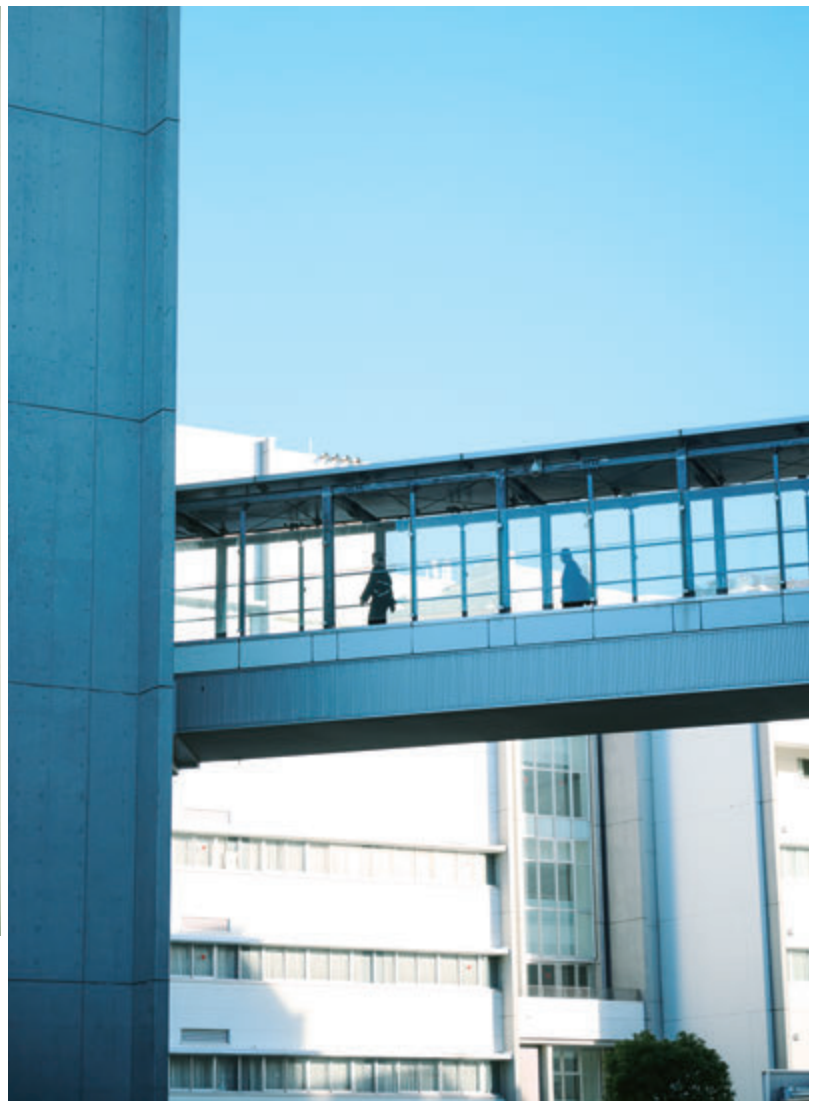


















今、人類に必要なものは 芸術です

日本大学芸術学部長

川上 央

Hiroshi Kawakami

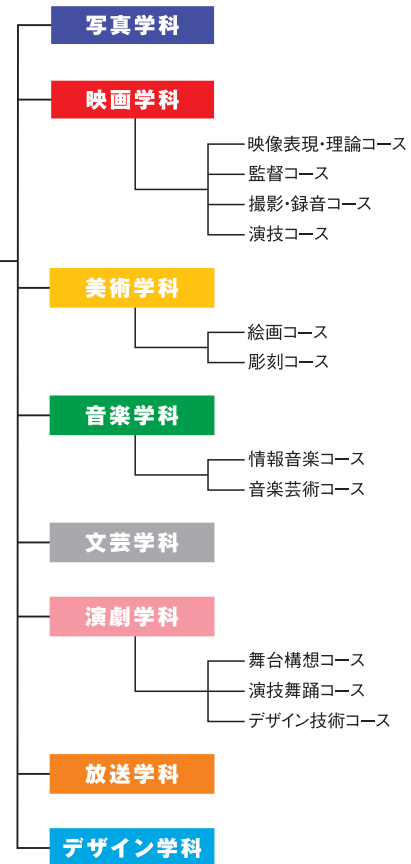
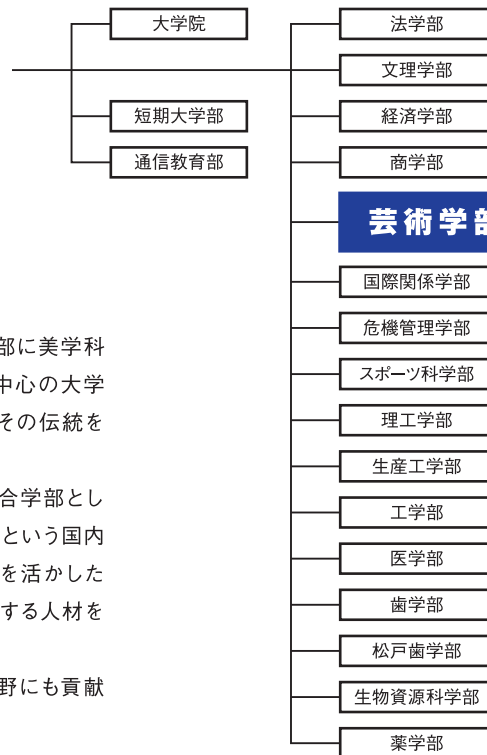
21世紀、人類は大きな変化の中にいます。インターネットによって、世界の人々が自由に繋がり、人種や性別、年齢や地位に関係なく、次々と新たなコミュニティが出現しています。これにより、20世紀までの価値観が崩壊し、地球規模で物事を考える時代になっています。これまでの社会構造では見えてこなかった、あるいは隠されていたような問題も露呈し、これまでの生活では得られなかったような情報を簡単にシェアできるようになっています。その結果、これまでの社会構造の中で長きにわたって作り出されてきた価値観が果たして正しいものであったのかという疑問を持たされています。疑問や不安が増え、社会や人に対する信頼自体が揺らいでいます。では、どうすれば良いのか、この現状を変えることができるのがアートやエンターテインメント、つまり、我々が追求する芸術なのです。

芸術と人間の繋がり歴史は古く、法学、科学、医学、経済学など、大学で学ぶどの分野よりもはるかに昔から存在しています。歌うこと、踊ること、描くこと、我々の専門分野は紀元前、ひょっとすると人類の誕生と共にあるのではないのでしょうか。つまり、芸術とは人間の営みそのものであり、芸術を追求することは人間を追求することなのです。ライブで感動したり、映画やドラマを見て泣いたり、舞台を見て笑ったり、戦場の写真を見て怒りを覚えたり、本を読んでうっとりしたり、人の心を動かすことが芸術学部の日々の学びです。社会とは人、人は心を持った生き物、その心を自在に動かせる芸術こそ、今の日本、そして世界に必要なものです。

総合大学という強み



日本大学



「日大」と「日藝」という 2つのアイデンティティ。

日藝の歴史は、1921年に日本大学法文学部に美学科が誕生したことに始まります。以来、実技中心の大学教育を行う国内初の芸術総合学部として、その伝統を築きあげてきました。

また、私たちは8つの学科を備えた芸術総合学部としてのアイデンティティを保ちつつ、日本大学という国内最大規模の総合大学としてのネットワークを活かした独自の教育システムで、芸術の発展に寄与する人材をこれまで輩出してきました。

これからも芸術分野、そしてそれ以外の分野にも貢献するための教育を続けていきます。

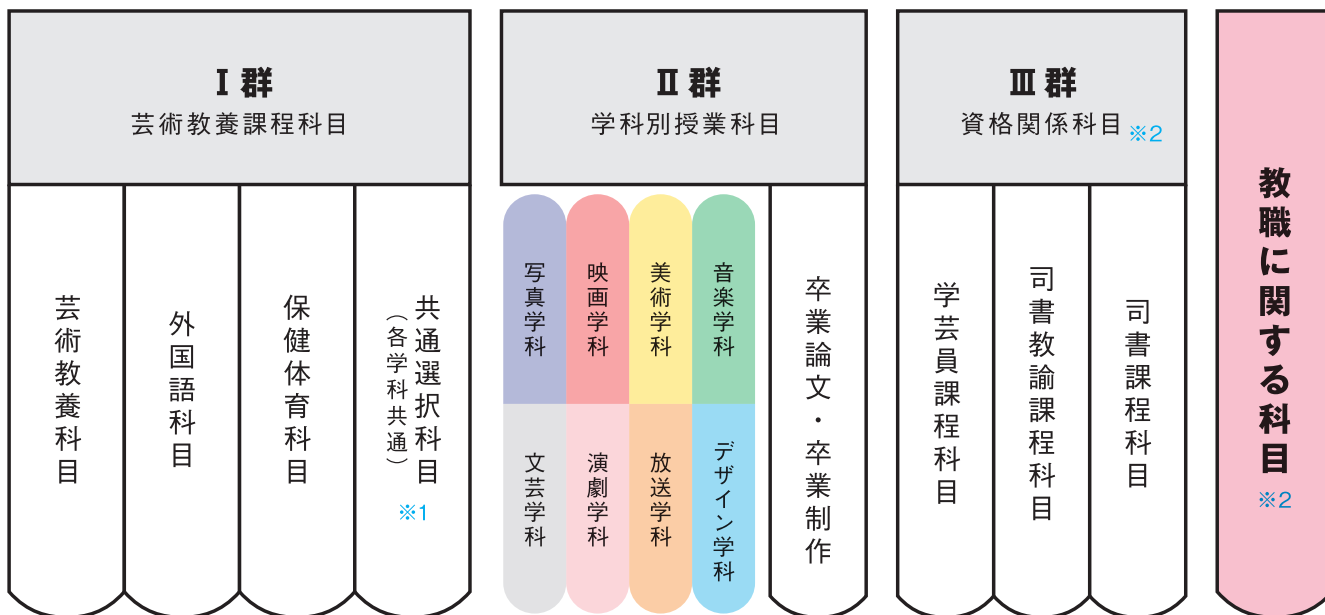
※学科・コースによっては専攻に分かれています。
詳細は各学科ページをご覧ください。



日藝のカリキュラム

4年間のカリキュラムは、学生全員を対象とした日本大学ならではの「全学共通教育科目」、芸術学部における「Ⅰ～Ⅲ群の学び」と「教職に関する科目」で構成されています。

「Ⅰ～Ⅲ群の学び」は、芸術・文化の基礎となる教養を身につけるⅠ群、学科ごとに専門性を高めるⅡ群、学芸員や司書教諭、司書といった資格取得のためのⅢ群からなります。



※1 芸術総合講座、連携型プロジェクト、海外語学研修など

※2 資格については89ページをご確認ください。

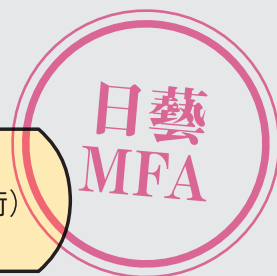
大学院

大学院芸術学研究科の教育理念

「自己の内なる興味」をもとに「自分なりのものの見方」で世界をとらえ、常識や既存の価値観にとらわれることなく柔軟に研究活動と創作活動を行うことができる研究者や幅広い実践活動を担うプロフェッショナルなアーティストを育成する専門教育を行います。

博士前期課程で取得できる学位

○ 制作・作品コース (修了要件: 修了制作+所定単位)	MFA: Master of Fine Arts = 修士(芸術)
○ 論文コース (修了要件: 修了論文+所定単位)	MA: Master of Arts = 修士(芸術学)



※コースは原則として入学試験受験時に選択していただきます

※令和7年度以前入学者が取得できる学位は、MA: Master of Arts = 修士(芸術学)のみ

※博士後期課程で取得できる学位は、DA=博士(芸術学)のみ

日藝MFA

「日藝MFA」は、アートと世界を学び、アートとビジネスを考え、創作とセルフプロデュース能力を養うことで、自らの道を切り拓いていく事を目的とします。

“学部4年+大学院博士前期課程2年”の専門教育で世界を目指す扉をひらきます。

図書館

豊富な芸術専門資料を誇る日藝図書館。
写真集やアートブック、マンガなどの書籍や多数の映像作品を所蔵する「8学科を有する日藝の多様さ、関心分野の広さが反映された図書館」となっています。古くは15世紀から現代に至るまでの、大変価値のある歴史的資料を所蔵しており、年に数回企画展にて公開をしています。
その他にも専門教員による資料解説、各界の著名人をゲストにお招きしたトーク等、多様なイベントを開催しています。

詳しくはWEBを
ご覧ください



主な開講科目

アート思考特論【制作・作品コース必修科目】

… アートビジネス思考についての理解を深めるための科目

アート思考論Ⅰ

… 法と著作権についての理解を深めるための科目

アート思考論Ⅱ

… アートマネジメントビジネスについての理解を深めるための科目

アート思考研究Ⅰ

… アートマネジメントと税法についての理解を深めるための科目

アート思考研究Ⅲ

…世界中の人々の感情を動かす「世界基準のストーリーコンテンツ」を生み出す人材の育成をするための科目

芸術学特論【論文コース必修科目】

… 高度な芸術観や海外の歴史、芸術・文化・思想についての理解を深めるための科目

日藝MFA
の特色ある
講師陣

- ・秋元雄史 講師 (担当科目：アート思考特論)
- ・中山淳雄 講師 (担当科目：アート思考論Ⅱ)
- ・山田兼司 講師 (担当科目：アート思考研究Ⅲ)

詳しくはWEBを
ご覧ください



8つの学科の枠を超えて学ぶ

芸術教養課程

すべての学科の学生が
履修可能

他分野の学生からの
刺激も受けながら
学べます

芸術や文化の基礎知識、人間や社会、自然、異文化、そして健康への理解を深める課程です。芸術に関する基礎理論から大学院を視野に入れた演習まで、様々な科目を選択することができます。

① 芸術教養科目

文化芸術に関する幅広い教養や総合的視野を身につけるための科目。知の多様性を満ち、基礎学力を強化します。



ピックアップ
授業

メディア・リテラシー

芸術や創作のフィールドとなる「メディア」について学び、メディア創造のための素地を養います。メディア芸術の読み解きから、最新のメディア産業の構造に至るまで、幅広い論点を扱います。

芸術と心理

「芸術療法」や「イメージと象徴」等をテーマに取り上げ、芸術と心理学の関係性を学びます。古代の神話・昔話から現代のポップカルチャーまで、様々な作品に触れながら、人間の成長や再生の過程における表現の重要性について考察します。

【芸術教養科目】

加藤亮介 教授 櫻井欽 教授 高久暁 教授 山本守和 教授 吉野大輔 教授 小堀裕子 専任講師

② 外国語科目

英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、中国語、日本語（留学生）のなかから学びたい言語を選択し、読解力やコミュニケーション能力を磨きます。多様な関心やキャリア形成に応じて、複数の地域の言語と文化を学習することができます。



英語クラスの会話授業

【外国語科目】

久保陽子 教授 ジュリアン マニング 教授 齋藤山人 准教授
松浦恵美 准教授 鈴木優 専任講師 山崎亮介 専任講師

③ 保健体育科目

ヒトの身体や健康、運動に関する知識を学ぶ講義科目と、実際に身体を動かして行う実技科目を開講。実技科目では、バドミントンや卓球、トレーニング系種目や、ゴルフ、スキー、スケートなどのシーズンスポーツも開講しています。



体育実技
「コンディショニング・トレーニング」の
授業の様子

【保健体育科目】

小沢徹 教授 畑瀬聡 准教授

芸術総合講座

社会に出てから必要になる知識を第一線で活躍する外部講師から学ぶことができる実践的な講座です。

広告企画実務

電通・博報堂・資生堂といった企業のアートディレクターやCMプランナー、クリエイティブディレクターなど実際に広告制作に関わる方々、映像作家、音楽作家、広告写真家、様々な表現のプロデューサー、webでのプランニングやイベントプランニングなどの多様な分野での実務経験のある講師をお招きする授業です。

プロデュース実務

テレビ局、出版社、アニメ制作企業等のメディアコンテンツ戦略から、鉄道会社の都市計画まで、幅広いクリエイティブの現場からプロデューサーをお招きし、多面的に「プロデュース」の最前線を学習します。所属学科の学びで培った専門性と社会との接点を見つながら、プロデューサーレイヤーの視点を獲得することを目的としています。

【サイバーエージェント冠講座】

コンテンツ・ビジネス実務

株式会社サイバーエージェントとの産学連携講座です。映像、マンガ、アニメ、ゲーム、スポーツなどに関わるコンテンツ戦略の最新動向を扱います。サイバーエージェントグループの様々な領域から講師陣をお招きし、「最初のビジネス視点」を養います。

もう一つのヨーロッパの芸術

チェコ共和国・ポーランド・ウクライナ・ハンガリー・ボスニア ヘルツェゴビナ・モルドバ共和国・スロベニア・クロアチアといった各国の博物館キュレーターや学芸員を講師に迎え、「もう一つのヨーロッパの芸術」をテーマに、ヨーロッパにおける芸術の歴史から外れた側面に焦点を当て、事例を取り上げながら比較検討する授業です。

著作権と文化・メディア契約

あらゆる芸術分野の関係者にとって必須の知識となった「著作権」と各ジャンルの「ビジネス」のしくみや、ネット化による変化を基本から学ぶ授業です。エンターテインメントに携わる弁護士や作家、マンガ編集者、音楽、映像、デザインといった実務経験のあるゲスト講師をお招きします。

映像ビジネス

サイバーエージェントやNetflixと提携し、様々なジャンルでブレイクスルーを行うコンテンツスタジオBABEL LABELのメンバーによる授業です。映画業界を中心に日本からアジア、世界に向けてIP(知的財産)ビジネスを含む様々なジャンルのプロの話の聞き、現在の問題や将来像について考え、各自のキャリアプランに役立てることを目標としています。



その他の実施講座(過年度の講座を含む)

- ・映像コンテンツプロデュース論
- ・アートと社会(展示系)

連携型プロジェクト

芸術プロジェクトをベースにした実践型・参加型の学習です。企業・行政・地域社会、他学科の学生や教員との連携とプロジェクトを実現するなかで、様々なスキルを身につけていきます。

日藝スタートアップ

日藝のクリエイションと企業がシナジーを生み出し、新しい「ビジネスの共創」を目的とした実践的な授業。「産学の距離を極限まで近づける」ことを重視し、日藝と企業でチームを組んだ産学講師たちが、最新のケーススタディを提供し、学生たちと共にグループワークを進めます。講師が学生の伴走者となり、リアルなビジネス創造の現場を共有することを目指します。



令和7年度の事例
幻冬舎、テレビ朝日、サイバーエージェントの担当者が、ビジネスアイデアにフィードバックをしている様子。

太陽ホールディングス連携 場作りと企画立案

建物のリノベーションとその活用方法を協働作業によって企画立案、実践していく授業です。太陽ホールディングスと連携し、旧社屋における空間、企画を提案し、DIYによる協働作業と作品制作により具体化していきます。



産官学連携プロジェクト

企業(産) × 行政(官) × 日藝(学)
コラボレーション

8学科の学生がキャンパスから飛び出し、様々な立場の人たちと交流しながら、日藝で得た学びがどのように社会や地域に関わりを持つのかを体験する貴重な機会です。

× 西武不動産 × 秩父市 秩父文学祭



令和の文豪を見だし、秩父の新たな魅力を発信。

西武不動産、秩父市と連携し、秩父市の豊かな自然や歴史、文化を背景に新たな才能の発掘と地域活性化を目指す「秩父文学祭」を実施。

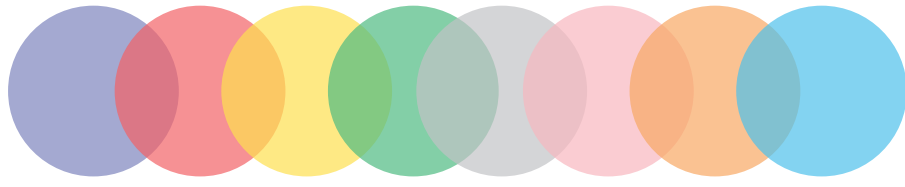
新たに「秩父短編文学賞」を設立し、秩父宮記念市民会館にてファイナリスト受賞作品の表彰および、俳優による朗読会を実施するなど、産官学が一体となって、地域の新たな魅力を発信しました。

× 富里市 富里市地域活性プロジェクト



複数の学科の学生が協働し、様々な形で地域活性を試みる。

毎年6月に行われるスイカロードレースのメッセージボードや写真撮影用のパネル、PRポスターやPR動画等を制作したり、市内の図書館にて学生による写真展や映画祭を開催。現地のリサーチや取材を通して地域を深く理解し、魅力を発信するプロジェクトを継続して行っています。



アイデアを、
社会へ!

× 生活クラブ 生活クラブ連携プロジェクト



学生が畜産の現場を取材し、得た体験を表現に落とし込む。

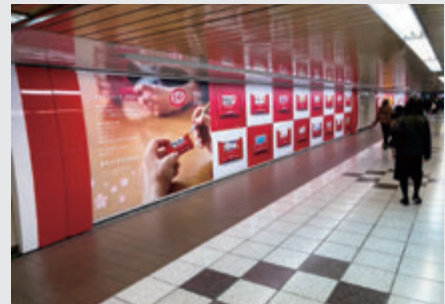
テーマは「食料自給」。生活クラブが生産者と共に実施している、飼料から加工まで一貫した自給を目指す取組みを学生が取材。命が食べものとなる過程に真摯に向き合い、それぞれの学生ならではの手法で、動画・冊子・ポスターなどに表現します。



× ネスレ × VML & Ogilvy Japan

キットカット受験生応援キャンペーンのポスター&動画を制作。

ネスレが製造するチョコレート菓子「キットカット」。毎年行われる受験生応援キャンペーンに芸術学部が協力。学生が制作した受験生への想いを込めた大型広告やポスター広告、動画が展開されました。



N.U. Cosmic Campus

アーティスト×エンジニア、学部の枠組みを越えて宇宙に挑む。

芸術学部と理工学部が連携し、「未来の科学者・エンジニア」と「未来のアーティスト・クリエイター」による宇宙開発を実践するプロジェクトです。「N.U. Cosmic Campus」というプロジェクト名のとおり、宇宙をひとつのキャンパスとして捉え、様々なミッションに挑んでいきます。



日藝賞

NICHIGEI
AWARD FOR EXCELLENCE

各界に多彩な人材を輩出している日藝。特にメディアやクリエイティブの世界には出身者が多く、同級生や先輩・後輩と仕事を介して出会うケースも多いようです。

そこで、校友との繋がりをさらに深めるために創設されたのが「日藝賞」。かつて日藝に在籍していたことのあるすべての出身者を対象に、その年に最も活躍した人物を独自に表彰することで、出身者への敬意を表すとともに、在学生への励みとしています。在学生、教職員、校友会役員などによる投票をもとに決定します。

【プロフィール】

ラブレターズ [らぶれたーず]

溜口佑太郎 [ためぐち・ゆうたろう]：1985年埼玉県生まれ。映画学科卒業。

塚本直毅 [つかもと・なおき]：1984年静岡県生まれ。文芸学科卒業。放送作家としても活動。日本大学芸術学部在学中に出会い、卒業後の2008年にアマチュアとして第1回キングオブコントに出場。

1回戦敗退に終わるも、2009年4月に正式に「ラブレターズ」を結成し、同年同大会では2回戦進出、2010年同大会では3回戦進出と実績を積む。2011年1月からASH&Dコーポレーションに正式所属し、同年7月には初の単独ライブを開催。また、同年のキングオブコントで初の決勝進出を果たし、飛躍の年となる。

2014年、2016年、2023年にも同大会での決勝進出を重ね、2024年同大会で悲願の優勝を果たす。

同会1本目に披露した、引きこもりの息子を巡る夫婦の掛け合いを描いたコント「光」では、笑いとともに大きな感動を呼び、SNSを中心に話題となった。



キングオブコント2024 決勝ネタ「光」

第20回 日藝賞／日藝アンバサダー

ラブレターズ

お笑い芸人

我々が日藝賞とは！嬉しい！

私に通っていた時代はちょうど江古田校舎が改修工事と真ん中で、映画学科の私たちは何度も撮影が「工事のドリル待ち」で止まりました。

しかし、あの不遇な時代がこうやって素晴らしい賞に化けて帰ってくるとは人生捨てたもんじゃありませんね。

あのドリル待ちのお陰で、卒業してからイライラすることなんて殆どありませんし、日藝は全てを教えてくださいました。

本当にありがとうございました！

溜口佑太郎 (2007年映画学科卒)

在学中にこの賞が誕生して、「こんな煌びやかな賞ができたんですね」と、半ば他人事のように思っていた学生でしたが、

地道に続けているといい事もあるんだなど、

どうにもならなかった過去を肯定してもらえたような気がして、とても嬉しいです。

受賞ついでに「卒業生にはどんな方々がいるんだっけ」と、Wikipediaを眺めていたら、僕らの名前はなくて身が引き締まりました。

引き続き、賞に恥じぬよう活動して参ります！ありがとうございます！

塚本直毅 (2008年文芸学科卒)



詳しくはWEBを
ご覧ください



日藝賞歴代受賞者

第 1 回



三谷 幸喜
脚本家

佐藤 隆太
俳優

第 2 回



大石 芳野
ドキュメンタリー写真家

爆笑問題
太田光・田中裕二/
タレント

第 3 回



宮藤 官九郎
脚本家

真田 広之
俳優

第 4 回



市川 團十郎
歌舞伎俳優

宮嶋 茂樹
報道カメラマン

第 5 回



林 真理子
作家

青山 剛昌
漫画家

第 6 回



松井 龍哉
ロボットデザイナー

船越 英一郎
俳優

第 7 回



よしもと ばなな
作家

森田 公一
作曲家

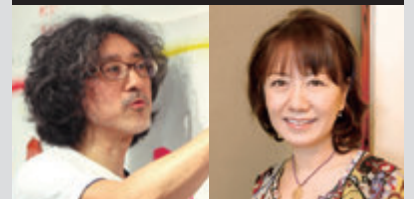
第 8 回



松崎 しげる
歌手

坂田 栄一郎
写真家

第 9 回



荒井 良二
絵本作家

中園 ミホ
脚本家

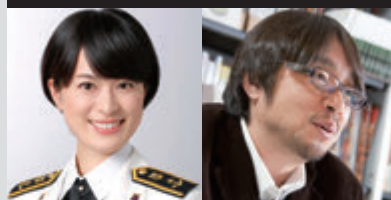
第 10 回



中村 獅童
俳優

池松 壮亮
俳優

第 11 回



三宅 由佳莉
海上自衛隊ボーカリスト

小山 薫堂
放送作家

第 12 回



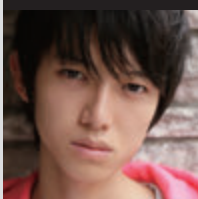
片瀬 須直
映画監督

第 13 回



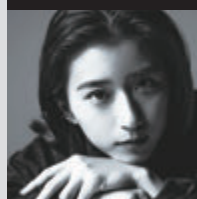
小野 大輔
声優

第 14 回



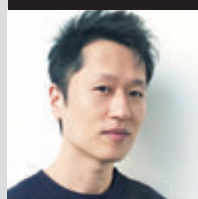
本郷 奏多
俳優

第 15 回



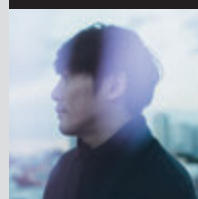
黒島 結菜
俳優

第 16 回



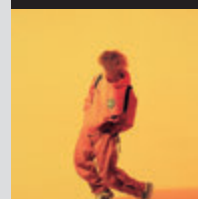
中村 至男
グラフィックデザイナー

第 17 回



藤井 道人
映画監督・脚本家

第 18 回

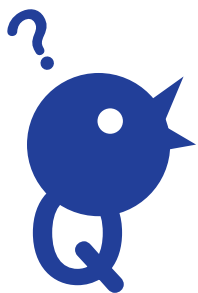


Vaundy
マルチアーティスト

第 19 回



吉田恵里香
脚本家・小説家



日藝・よくある質問



Q. 日藝の授業は専門的なことばかり学ぶのでしょうか？

A. デッサンや楽器の演奏、舞踊など実技試験を課している学科・コースについては、1年次からその技術があることを前提としている授業もあります。一方、演技についてなどは、経験のない方でも十分対応することが可能な授業もあります。

Q. デザイン学科と演劇学科デザイン技術コースの違いは？

A. 演劇学科ではコース再編があり、新たにデザイン技術コースができました。ここでは、劇場空間での舞台芸術における美術・照明・衣裳・音響・舞台監督について専門的に学ぶことができます。デザイン学科では、ブランディングや広告といったビジュアルコミュニケーションデザイン分野、自動車や家電、家具や文具などのプロダクトデザイン分野、住宅、公共施設、商業空間のような建築デザインを学ぶことができます。

Q. 音響や照明を学びたい場合は？

A. 映画関係での技術者をを目指す場合は映画学科、テレビ・ラジオ業界の場合は放送学科、舞台関係の場合は演劇学科といったように、音響や照明についても表現する媒体によって学びの内容が異なります。ご自身の興味のある業界から学科を調べることをお勧めします。

Q. 有名な声優さんが卒業しているが、どの学科で学べる？

A. どの学科においても声優のみを専門的に学ぶことはできません。声優の道に進んだ卒業生の多くは大学の学びとは別に声優養成所などでの経験を経て活躍されています。

Q. サークル活動やアルバイトをする時間はありますか？

A. 授業によって、制作にかかる時間や課題に取り組む時間が必要となります。このため課外活動の時間を拘束されるケースはあります。しかし、まったく自由な時間がないわけではありませんので、在学生のみなさんは自主制作・サークル・アルバイトなど自分のやりたいことにも積極的に取り組んでいます。

Q. 映画学科演技コースと演劇学科演技舞踊コース(演技専攻)はなにが違うの？

A. 両学科とも演技をするということは基本的に一緒です。しかし、映画学科で求められる演技は「フレームの中」での演技で、性別や年齢など等身大の表現となることが多いです。一方、演劇学科では「劇場」空間での演技となり、声の出し方や身体表現、戯曲の読み方などが異なります。

Q. 服飾を学ぶことはできますか？

A. 服飾のみを専門的に学ぶカリキュラムはありません。ただし、演劇学科デザイン技術コースでは、衣裳を専攻することができるようになりましたので、舞台表現における衣裳を専門的に学ぶことが可能です。

Q. 4年間でかかる費用は？

A. 授業料等納入金は学科・コースによって異なり、1年間で152万円～172万円となります(詳細は募集要項及び右QRコードから学部サイトをご覧ください)。このほか入学手続時には入学金26万円が必要となります。また、カメラなどの機材を必要とする学科・コースは、入学後に20～40万円程度のカメラ代などがかかる場合もあります。個人差はありますが他にもPC・ソフト・画材・材料費などの消耗品代がかかります。



Q. 芸術学部に入學して就職できますか？

A. フリーランスという選択肢を選ぶ人もいますが、就職希望者の就職率は例年90%前後あり、多くの卒業生はまず企業に就職しています。芸術学部ではサポートセンター(就職指導課)が設置されており、面談や就職活動に必要な情報提供、1年生から受講できる就職講座などの支援をしています。

Q. 入学後に学科を変えることはできますか？

A. 11月頃に転科試験を実施しており、合格すれば所属学科を変更することができます。しかし、学科専門科目は学び直しとなるので決して望ましいことではありません。







写真学科

Photography



より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[写真学科 HPへ](#)



専任教員

秋元貴美子 教授
齋藤巧一郎 教授
佐藤英裕 教授

西垣仁美 教授
服部一人 教授
穴吹有希 准教授

GOTO AKI 准教授
鈴木麻弓 准教授
鳥海早喜 准教授

八木元春 専任講師
小池雄之 助教

幅広い芸術的教養と 高度な写真技術を身につけた プロフェッショナルを目指す

出来事を記録する、イメージを発信する。
多様化するデジタルコンテンツの分野でも
重要な役割を担う写真家やマルチクリエイター
を目指し、時代のニーズに対応した教育を行います。



学びのポイント

2 多彩な授業

写真界の第一線で活躍している様々な
分野の写真家や研究者などを講師として
招き、多彩な授業を展開しています。
**最先端のデジタル技術から、銀塩、
古典技法まで幅広く学ぶことができます。**
また、他学科公開科目や連携授業など
写真を活用するための幅広い知識・技術も
身につけられます。

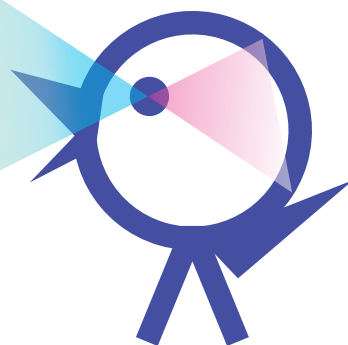
1 写真を学ぶ3本の柱

- 表現技術を学ぶ実習
- 制作のための技術理論
- 表現や研究を行うための表現理論

という3本を軸にカリキュラムを構成
しています。様々な角度から写真と向き合い、
技術のみならず、その本質を追求します。
伝統に基づきながら、最新の状況・情報に
目を配り、現代の写真の可能性を
見据えます。

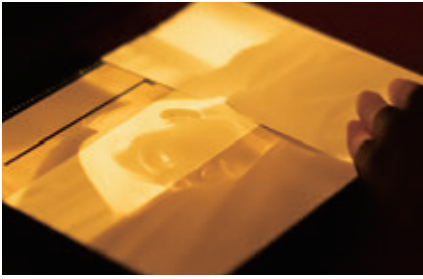
3 作品収集と公開

約10万点に及ぶ卒業制作をはじめ、
**歴史的に貴重な資料や写真作品などを、
積極的に収集しています。**収集作品は、
教育・研究に活用すると同時に、学内での
展覧会を通して一般の方々にも広く公開
しています。
また、**学生選抜者による学外ギャラリー
での作品展**を毎年実施しています。



4年間の流れ

	実 習	理 論
1 年	<p>●写真基礎Ⅰ・Ⅱ</p> <p>光の認識、写真表現の仕組み、カメラの操作から撮影、デジタルのプリントシステムから仕上げ方法まで、写真のあらゆる基礎知識に関する講義・実習を行います。</p>  <p>●写真拡張技術Ⅰ</p> <p>黒白フィルムによる撮影・現像・プリントシステムを使った作品を制作し、銀塩写真の基礎を身につけます。</p> 	<p>●写真史Ⅰ</p> <p>写真技法と写真表現の変遷をたどり、写真先進国・欧米の写真の歴史について、基礎的な知識を修得します。</p> <p>●写真史Ⅱ</p> <p>幕末・明治から現代に至る日本の写真史をひも解き、日本独特の写真のあり方について理解を深めます。</p> <p>●イメージングプロセス論Ⅰ・Ⅱ</p> <p>銀塩及びデジタル写真における作画プロセスの基本的な理論を学びます。</p> <p>●写真光学</p> <p>光の性質やレンズの特性など、写真撮影に必要な写真光学の基礎を身につけます。</p> <p>●写真色彩学概論</p> <p>写真制作に必要な色彩知識、色の組み合わせ方やその特性を把握します。</p> <p>選択科目</p> <p>「写真基礎研究Ⅰ」などを選択できます。</p>
2 年	<p>●写真基礎Ⅲ・Ⅳ</p> <p>小型・大型カメラの基礎技術やスタジオライティングなどを学び、それぞれの特徴を生かした作品を制作します。</p>  <p>選択科目</p> <p>「ポートレート」「ファインプリント」「画像処理」「プレゼンテーション」を選択できます。</p>	<p>●写真作家作品研究Ⅰ～Ⅵ</p> <p>写真誕生から現代までに生み出された名作と、その時代に活躍した写真家について見識を深めます。</p> <p>選択科目</p> <p>「カメラメカニズム」「写真表現文化論」「写真伝達情報論」などを選択できます。</p>
3 年	<p>●プレゼミナールⅠ・Ⅱ</p> <p>表現方法への理解を深め、技術を発展させながら制作・実験・研究に取り組み、発表を通して各自の方向性を探ります。</p>  <p>選択科目</p> <p>「広告写真」「報道写真」「建築写真」「古典技法」「サイエンスフォト」「動画撮影」「動画編集」に加えて「デザイン手法」や「インターンシップ」など、幅広い写真制作の授業を、各自の興味と将来を見据えて選択できます。</p>	<p>●写真芸術学Ⅰ・Ⅱ</p> <p>写真論や写真芸術論を通し、「写真とは何か」という写真芸術の本質的な問題について考えます。</p>  <p>選択科目</p> <p>「新聞写真」「文化財写真」「アートマネージメント」「特別写真講座Ⅱ」などの理論、ドローンや写真の編集の仕方などを学ぶ科目があります。</p>
4 年	<p>●ゼミナールⅠ・Ⅱ</p> <p>一人ひとりの将来を見据えた個人指導を中心に、専門的かつ実践的な理論・制作の演習を行い、「卒業制作」や「卒業論文」にまとめられます。</p>  	



写真拡張技術

写真学科では必ず全学生が銀塩写真の技術と表現を修得します。鶏卵紙や塩化銀紙、サイアノタイプなど19世紀に活用された古典技法を扱った科目もあり、デジタル写真だけではなく多様な写真表現を学ぶことができます。



特別写真講座

毎週異なる分野のプロフェッショナルによる講義を行います。スポーツや鉄道、風景や写真といった各分野の写真家はもちろん、キュレーターや編集者を招き、写真に関わる様々な現場の話から自分の将来を考えるヒントが得られます。

こんな
授業が
あります



将来に繋がる大学生活が
送れるよう、
本気で写真に向き合うための
環境を整えています。



動画撮影・編集

デジタル一眼レフを使用した動画撮影・編集を身につけます。卒業後、写真だけでなく動画の撮影や編集を求められることも多い現状を踏まえ、写真学科に所属しながら映像分野の表現にも習熟することができます。



広告写真／ポートレート

大スタジオと5つの小スタジオを使い、静物写真のライティング技術や表現方法、ポートレート撮影をする際の技術やコミュニケーションについて実践的に学びます。プロ仕様の機材を使った実習です。



インターンシップ

制作会社・美術館・ギャラリー・写真家事務所・ブライダル・テーマパークなど、写真に関わる職場へ出向き、夏期休暇中に実務体験をします。現場でしか得られない体験が大きな成長につながります。

サイエンスフォト（ミルククラウン撮影）



写真表現技術V（建築写真）

写真拡張技術II（大型フィルムカメラ）



写真表現技術I・II（広告写真）人物撮影

施設

プロ仕様の機材・設備が充実しており、授業や各自の作品制作に利用できます。大スタジオでは、プロが実際にスタジオで使用する中判デジタルカメラで実習を行っています。



大スタジオ



写真ギャラリー



デジタルフォトラボ



機材センター

学科の活動

日芸祭などの学内イベントはもちろん、学外での企画展など、日頃の学びや作品制作の成果を発表する機会が多く用意されています。



写真表現技術Ⅳ（報道写真）



大暗室



卒展 芸術資料館



日芸祭 グループ展示

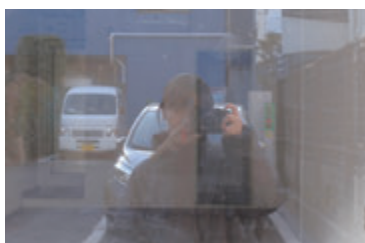
- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

2年

しん どう き ほ
眞道 希歩 さん



- ① 自分の好きなことを学べる大学を選びました。多分野の学生と学べる環境で多様な表現に触れながら写真を深めたいと思い、日藝に決めました。
- ② 写真表現Ⅲです。ポートレートの授業で、今年は授業の一環として、大学広告の撮影を担当し、代表の先生方を撮影するという貴重な経験ができました。
- ③ 徒歩旅行部に入っています。同期のメンバーとは部の活動以外でも遊びに行くことがあり、仲良く楽しく過ごしています。
- ④ 写真展に行ったり撮影に出かけたりしています。一緒に作品制作をすることもあり、同級生と展示することも目標の一つです。
- ⑤ 部活を通じて交流があります。どんなことを学んでいるのか、どんな作品を制作しているのか、話を聞くだけでも新しい世界が広がり、とても楽しいです。
- ⑥ 音楽から受けるイメージに注目しています。曲の雰囲気が色として浮かぶことが多く、その感覚が作品のトーンや空気感のヒントになっています。
- ⑦ 飲食料点小売のアルバイトをしています。学校の先輩に誘われ、小学校の運動会の撮影のアルバイトも経験しました。
- ⑧ 中学時代の吹奏楽部の顧問です。音楽を心から信じて私たちに向き合う姿に胸を打たれ、その全力さと信じる力は今も私の原動力になっています。
- ⑨ 具体的な進路はまだ模索中ですが、就職後も作品制作はしたいです。個展や写真集の制作にも挑戦してみたいです。
- ⑩ 作品について真剣に向き合い、高め合える仲間が身近にいるところです。また、目標を持って活動している人も多く、自分も頑張ろうと思える場所です。



2年

おお の こう し ろ う
大野 晃士郎 さん



- ① 先生方の授業に加えて、写真集やオリジナルプリントを沢山収集していたり、総合的に写真への理解を深められる環境だからです。
- ② 写真作家作品研究です。写真家の作品を鑑賞して、写真史の流れを学びます。特に写真好きにはたまらない授業です！
- ③ 珈琲研究会に入っています。毎年、日芸祭では喫茶店を開いています。今年は自家焙煎の豆からネルドリップでコーヒーを淹れ、3日間で1400杯売りました。仲間とイベントを運営する貴重な経験になりました。
- ④ よく写真展を巡っています。もちろん私の個展にも毎年みんなで集まっています。
- ⑤ 外国語の授業はもちろんのこと、教職や学芸員課程の授業でたくさんの他学科の仲間と繋がれます。例えば、演劇学科の学生の劇団の公演のポスターや舞台の写真を撮影して手伝えることもあります。
- ⑥ 「写真祭」です。仏・アルル国際写真祭やKYOTOGRAPHIE (京都国際写真祭) のように、たくさんの写真展を同時期に近隣で開催して、街全体で写真を盛り上げるイベントの活気には圧倒されます。
- ⑦ 広告や、物件や店舗の建築を撮り、様々な現場で学んでいます。写真以外ではジャズ喫茶のお手伝いをしています。
- ⑧ 先輩方です。数多くの著名な写真家の方々がいらっしゃるのももちろん、思わぬところで日藝の先輩に出会ったり、仕事をすることがたくさんあります。皆様から、周りの人々との繋がりを大切にすることを学んでいます。
- ⑨ 引き続き写真の勉強に励みます。休みの日には旅に出て撮影したり、ドライブしたり、音楽を聴いて過ごす。この日常を続けていけるように頑張ります。
- ⑩ 自分の好きなこと、大切にしたいこと、やりたいことが明確な多くの仲間がいます。様々な分野で、意識の高い仲間たちから常に刺激を受けられる環境で勉強できることが魅力です。



○卒業後の進路

新聞社や雑誌社、広告代理店、写真スタジオ、写真事務所などを中心に、撮影制作を通して培ったコミュニケーション能力や表現力を活かした職業に就く学生もいます。

【過去5年間の実績】

AOI TYO Holdings/朝日新聞社/朝日新聞出版/アフロ/アマナ/荒川区/イノ・メディアプロ/(一社)家の光協会/イケア・ジャパン/環境省(九州地方環境事務所)/ギアハウス スタジオギア/キタムラ/キャノンマーケティングジャパン/クッポグラフィ/京王エージェンシー/警視庁職員信用組合/KPSホールディングス/講談社ビジネスパートナーズ/光潮社/コジマ/佐藤写真/サンエックス株式会社/産業経済新聞社/産業編集センター/J-WAVE/時事通信社/資生堂/信濃毎日新聞/小学館スクウェア/松竹映像センター/城北信用金庫/上毛新聞社/SUPER STUDIO/スタジオエビス/セメダイン/ソニー・ミュージックアーティスト/ダイヤモンドヘッド/第一生命保険/中日新聞社/TBSスパークル/電通クリエイティブX/東京アドデザイナーズ/学校法人東京女子医科大学/東北新社/トミーテック/日産自動車販売/博報堂プロダクツ/羽田エアポートエンタープライズ/林写真館/パラゴン/ビームス/ビックカメラ/広島東洋カープ/富士巧芸社/ベネッセコーポレーション/ベネッセスタイルケア/ベルジャヤ京都ディベロップメント/防衛省陸上自衛隊/富士フィルムイメージングプロテック/星野リゾート・マネジメント/北海道新聞社/堀内カラー/毎日新聞社/マナマナ/山梨県庁/ユザワヤ商事/ヨドバシカメラ/読売新聞社/らんくスタジオ/リオクリエイティブ/レイルマンフォトオフィス/六本木スタジオ/WOWOW エンタテインメント ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

有安杏果 (シンガーソングライター、写真家) 高橋智史 (フォトジャーナリスト)
 飯沢耕太郎 (写真評論家) 瀧波ユカリ (漫画家)
 井津建郎 (写真家) 野口里佳 (写真家)
 今城純 (写真家) 濱田祐史 (写真家)
 大石芳野 (写真家) 平間至 (写真家)
 大塚寧々 (俳優) 藤岡亜弥 (写真家)
 小澤太一 (写真家) 細倉真弓 (写真家)
 忽那汐里 (俳優) 本郷奏多 (俳優)
 黒島結菜 (俳優) ホンマタカシ (写真家)
 小林真梨子 (写真家) 宮嶋茂樹 (報道カメラマン)
 坂田栄一郎 (写真家) 三好耕三 (写真家)
 沢渡朔 (写真家) 村上悠太 (鉄道写真家)
 篠山紀信 (写真家) 山崎友也 (鉄道写真家)
 高梨豊 (写真家) ほか



映画学科

Cinema



より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[映画学科 HPへ](#)



専任教員

大谷尚子 教授
奥野邦利 教授
上倉泉 教授

古賀太 教授
齊藤裕人 教授
清水和貴 教授

志村三代子 教授
玉木則順 教授
鳥山正晴 教授

増田治宏 教授
芦谷耕平 准教授
穴澤勇樹 准教授

小山正太 准教授
森山舞子 助教

映画・映像界の スペシャリストになるための 高度な専門知識と技術を指導

時代とともに進化する映像文化を新たな視点でとらえ、「芸術創造」と「情報伝達」の両面から探求していきます。

4つのコースに分かれ、それぞれの目的に適したカリキュラムのもと、学生一人ひとりにきめ細かな指導を行っています。



学びのポイント

2 豊富な科目

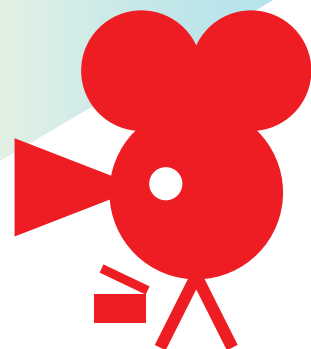
「映画芸術学」「日本映画史」「外国映画史」「シナリオ論」といった全コース共通の必修科目のほか、コースごとに段階制の科目を設定。また、選択科目として理論や歴史、研究方法、表現技術を学ぶことができます。4年次には集大成として、**卒業論文・卒業シナリオ・卒業研究・卒業制作**に取り組めます。

1 4つのコース

- 映像表現・理論コース**：
評論家や研究者、シナリオライター、映像メディアの制作者を育成。
2年次より理論・批評、映像、シナリオ、アニメーションの中から専攻を選択します。
- 監督コース**：映像作家を育成します。
- 撮影・録音コース**：
映像技術のプロフェッショナルを育成します。
- 演技コース**：映像メディアの演技者を育成する4コースを用意。コースごとに高いレベルの専門知識と技術を身につけていきます。

3 アワード

芸術学部による卒業制作等への表彰に加え、映画学科では**映画学科奨励賞**や**映画学科特別賞**などを授与しています。さらに、国内外の映画祭などにも積極的に参加しており、アメリカの学生アカデミー賞やドイツのオーバーハウゼン国際短編映画祭、国内ではSKIPシティ国際Dシネマ映画祭など、多数の入選・受賞歴があります。



4つのコースごとに
独自のカリキュラムのもとで
専門教育を展開しています。



映像表現・理論コース

理論・批評、シナリオ、映像、アニメーションの4つの専攻を軸に、映像の研究と創造の基礎課程を経て、2年次よりそれぞれの専攻に分かれて専門の研究、創作を行います。

理論の探究及び、映画のシナリオからアニメーション、メディアアートなど、様々な映像芸術の研究・企画・創作にアプローチしていきます。

専攻が分かれた後もコラボレーションをする機会があり、シナリオ専攻と映像専攻が合同で劇映画を制作し、理論・批評専攻が鑑賞してディスカッションをする課題に取り組みます。

また、日芸映画祭やインターンシップといった実践的な学びも充実しており、新たな映像ビジネスを開拓していく人材を育成しています。

1年次

全専攻の
基礎演習を実施

映像表現・理論コース

2年次以降

理論・批評専攻

シナリオ専攻

映像専攻

アニメーション専攻

新設

監督コース

ドラマ、ドキュメンタリー、アニメーションなどジャンルにとらわれず映像を用いた物語世界の構築がコースの基本理念です。そのための表現技術の修得や物語内容の追究を目的としてカリキュラムを構成しています。

また、映画制作におけるスタッフワークなどの重要性を「撮影・録音」「演技」コースとコラボレーションしながら身につけていきます。映画の演出のみならず脚本や撮影、編集技法など幅広い知識を持ったクリエイターの育成を目的としています。



撮影・録音コース

映画制作の根幹となる映像と音響の技術を修得するために、「撮影」「録音」の領域から実践的なカリキュラムを構成しています。

1年次より、フィルム・デジタルの両面から各種機材を用いた実習を中心に、表現技術のあり方を追究していきます。さらに、原理となる自然科学の知識も蓄え、深い技術的教養を育みます。2年次以降は、「監督」「演技」コースとの共同作業を行い、照明技術や特殊撮影、仕上げ作業に至るまで幅広く実践力を培います。3年次からは適性や志望分野で専攻を絞り、作品制作や研究活動に取り組みます。



演技コース

様々な媒体で活躍できる演技者の育成を目指して、実践的なカリキュラムを用意しています。

1年次では演技の基礎訓練、音楽・日舞・洋舞などによる身体表現、感情表現などを通して、演じるために必要な基礎力を育成します。「監督」「撮影・録音」コースと実習作品／卒業制作などを制作することで、映像制作に関する知識や現場への理解を深め、脚本の読み取りから、役作り、撮影やアフレコ作業といった様々な制作過程や、演技者としての日常訓練の方法を修得していき、映画人として必要なバイタリティーや体力、精神力を身につけていきます。



共通科目

日本映画史Ⅰ・Ⅱ [1年必修]

前期のⅠ、後期のⅡに分かれており、Ⅰでは、主として戦前までの映画の歴史を、Ⅱでは戦後を中心に学びます。Ⅰ・Ⅱを通して、外国映画とは異なる日本映画独自の展開を理解することになります。他学科公開の授業です。

アニメーションⅠ・Ⅱ [3、4年実習]

アニメーション制作を志す学生のための授業で、クリエイターの育成が授業の狙いです。実際に作品を制作することが目的であり、そのための技術的な手法を段階的に身につけていきます。

映画編集 [監督、撮影・録音コース、3年・必修]

1・2年次に学ぶ編集機材の取り扱いに続き、実際の編集作業への指導を通して「編集」がいかに映画を成立させるものであるかを理解するとともに、表現技術を修得します。「映像表現・理論」コースを対象とした授業も開講しています。

映像表現・理論コース



1年次

映像表現・理論Ⅰ・Ⅱ

映像の制作、シナリオの創作、論文の執筆を行い、それぞれの分野の基礎を学びます。学生たちは自身の適性を見極め、2年次の専攻を決めます。



2年次

映像メディア実習

モーショングラフィックスの基礎を理解し、デジタル合成の講義と実習作業を組み合わせながら知識・技術を修得します。



3、4年次

映画ビジネスⅢ・Ⅳ

前期のⅢ、後期のⅣに分かれており、Ⅲでは映画会社へのインターシップを通して、Ⅳでは学生が自分たちの手で映画祭を企画・運営することで、映画ビジネスの実際を学びます。

監督コース



2~3年次

映画演出Ⅳ・Ⅴ

劇映画やドキュメンタリー作品の撮影・演出・編集を行うことで、人間感情の表現手法や物語を映像として表現する際に考慮すべきことなど、映画演出の技法を「撮影・録音」「演技」コースとともに体得します。

撮影・録音コース



1年次

映画技術Ⅰ・Ⅱ

フィルム・デジタル両面の撮影機や録音機の取り扱いを基本として、短編の劇やドキュメンタリー作品を制作します。機器の取り扱いを覚えるとともに、それらを用いることでどのような表現が可能になるのかを理解します。

演技コース



2年次

映画演技Ⅲ・Ⅳ

1年次の映画演技Ⅰ・Ⅱで学んだ技術を、さらに発展させるために必要な感情の解放と集中を会得するための身体訓練を行います。また、オリジナルの台本を用いて、役作りの具体的な方法論を学びます。さらに、「監督」「撮影・録音」コースと合同で実際に作品を制作します。



他にも、
映画の制作者はもちろん、
映画評論家や研究者など、
映像関連のスペシャリスト育成を
目的とした授業が盛りだくさんです。

こんな
授業が
あります



映画芸術学
外国映画史
映像心理学
映画批評研究
シナリオ基礎
映像概論

CGI演習
メディアアート演習
映像企画発想論
前衛映画史
ドキュメンタリー映画史
撮影研究

録音研究
映画音楽
日舞
洋舞
発声表現
など

施設

映画制作に必要なあらゆる設備が揃っています。



録音スタジオ1
2台のデジタルミキシングコンソールを備えた、ステージダビングやスタジオ収録を使い分けられる180㎡の録音スタジオ。



ビデオオンライン室とDLP上映ができるビデオ試写室。最終的な作品作りはこの設備を使用して行われます。



現像機室
カラー、モノクロすべてのフィルムが処理できるように、35mm・16mm兼用現像機4台と水洗式フィルムクリーニングマシンを設置。



撮影スタジオ
初心者にも扱いやすいように設計された走行、回転可能な電動リモートコントロールによるライティングワゴンが備えられています。

学科の活動

「日藝映画祭 はたらく×ジェンダー」2025



2025年で15年目をむかえた映画学科映像表現・理論コースによる学生映画祭。これまでに「映画祭1968」(2011)、「新・女性映画祭」(2012)、「監督、映画は学べますか?」(2013)、「ワーカーズ2014」(2014)、「ニッポン・マイノリティ映画祭」(2015)、「信じる人をみる 宗教映画祭」(2016)、「映画と天皇」(2017)、「朝鮮半島と私たち」(2018)、「スポーツの光と影」(2019)、「中国を知る」(2020)、「ジェンダー・ギャップ映画祭」(2021)、「領土と戦争」(2022)、「移民とわたしたち」(2023)、「日藝芸映画祭 声をあげる」(2024)と開催してきました。

在学生の作品



『蟹眼』(2021年度 卒業研究)
第8回アジア大学生映画祭 最優秀アニメーション賞
ISCA2022 (INTERNATIONAL STUDENTS CREATIVE AWARD 2022) 松本俊夫賞



『まる』
(2022年度 卒業制作)
TOHOシネマズ学生映画祭 ショートフィルム部門 グランプリ
日本映画テレビ技術協会 2022年第41回青い翼大賞 (撮影技術)
映文連アワード2023 審査員特別賞
JPPA AWARDS 学生の部 映像技術部門 審査員奨励賞



『ボウル ミーツ ガール』
TOHOシネマズ学生映画祭
ショートフィルム部門グランプリ GEMSTONE賞
渋谷インディペンデント・フィルム・フェスティバル U22部門 最優秀賞
仙台ショートピース短篇映画祭 『新しい才能に会おう』プログラム上映
下北沢映画祭 準グランプリ 小田急電鉄賞
札幌国際短編映画祭 最優秀国内作品賞

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

映像表現・理論コース
シナリオ専攻 3年

まつやま みずき
松山 瑞希さん



- ① 父の影響で幼い頃から映画が好きで、中学生の時には「映画が学べる大学に進学する」と決めていました。田舎育ちで東京に行きたいという思いもあったので日藝を志望しました。
- ② シナリオ専攻の授業（ゼミ）です。プロの脚本家の先生に講評をいただける貴重な機会なので、絶対にめ切を落とさないことと、常に100%の力で課題に取り組むことを心がけています。
- ③ 入っていません。
- ④ 友人と一緒に自主制作映画を作っています。シナリオ専攻は授業で他コースの人と関わることが少ないので、他のコースの友人との制作はとても刺激になっています。
- ⑤ 自主制作の現場で、出演者や美術として参加している他学科の学生に出会えることが多々あります。
- ⑥ アニメです。ご縁があり某アニメ制作会社でアニメ脚本の研修を受けさせていただいているので、勉強として様々なジャンルのものをチェックするようになりました。
- ⑦ カフェで働いています。客層が幅広く様々なお客さんに会えるので、観察してキャラクターを作る時の参考にさせてもらっています。
- ⑧ 姉です。私は人見知りな上に捻くれた性格をしているので、誰にでも優しく誰とでもすぐに仲良くなってしまう姉の性格に憧れています。
- ⑨ やっぱ脚本家になりたいです。卒業後の明確な進路は全然決まてないのですが、就職したとしてもコンペ用に脚本を書き続けていられたいかなと思っています。
- ⑩ 同じ夢を追う仲間に出会える！

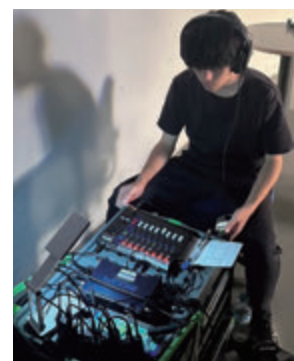


撮影・録音コース
録音専攻 3年

にしおか しゅんご
西岡 駿悟さん



- ① 映画の音響について学びたいと思い、当初は実家に近い関西の大学を探していましたが、映画制作が盛んな東京で学びたいと考え、日藝を志望しました。
- ② 実習の授業です。監督コースや演技コースと合同で撮影をし、編集から仕上げまで行うので、様々な経験ができ、学びの多い授業です。
- ③ 入っていません。
- ④ 自主制作映画を作っています。時間やお金など様々な制約がある中で、仲間と工夫して撮影するのはとても楽しいです。
- ⑤ 自主制作の現場で他学科の学生と出会うことがあります。
- ⑥ 音楽ライブに行くことです。元々音楽鑑賞が好きだったので、生の音が生む迫力に圧倒されてから、気になるアーティストが出演するライブは行くようにしています。
- ⑦ 居酒屋で働いています。常連のお客さんと話せて楽しいし、賄いも出るのでとても助かっています。
- ⑧ 祖母と母です。コミュニケーション能力が高く、人とすぐ仲良くなれるところ。また失敗も面白おかしくしてしまう話術も尊敬しています。
- ⑨ 映画やドラマ、アニメなど映像の音響効果に携わる仕事に就きたいと考えています。また5年後には、ひとつの作品を任されるようになりたいです。
- ⑩ 第一線で活躍されている方々が先生として教えに来てくださるなど、非常にクオリティの高い学びを得ることが出来ます。また撮影現場で多くの先輩方が活躍されており、「日藝生」というだけで信頼していただける場面もあり、日藝のネームバリューを実感しています。



○卒業後の進路

映画制作の現場などでフリーランスとして活動するだけでなく、映画、アニメ、テレビ、CMなどの関連会社に就職する人も多くいます。

【過去5年間の実績】

ARTONE FILM / AOI TYO Holdings / いすゞ自動車 / IMAGICA エンタテインメントメディアサービ / IMAGICA Lab. / UUUM / A-1Pictures / NHK テクノロジーズ / 太田プロダクション / オスカプロモーション / オムニバス・ジャパン / カルチュア・エンタテインメント / ギークビジュアルズ / キタムラ / キノフィルムズ / キヤノンITソリューションズ / キヤノンマーケティングジャパン / 共同エディット / フジサンケイグループ / クリーク・アンド・リバー社 / クリエイティブネクサス / 群馬テレビ / ケーブルテレビ / 国立研究開発法人国立がん研究センター / サイバーエージェント / サウンドインスタジオ / サウンドラウンド / SANKYO / RSK 山陽放送 / サンライズ / サンライズプロモーション東京 / サンリオエンタテインメント / JCOM / JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント / 松竹ナビ / スクウェア・エニックス / スタートプロモーション / スターツ出版 / スタジオコロリド / スペースシャワーネットワーク / ティ・ジョイ / TBS アクト / TBS スパークル / TBS テレビ / TYO / デジタル・ガーデン / 電通クリエイティブキューブ / 電通クリエイティブX / 東映日経映像 / 東映エージェンシー / 東映ラボ・テック / 東京映像美術 / 東宝芸能 / 東宝スタジオサービス / 東北新社 / 独立行政法人国立美術館 / 日活 / 日経映像 / 日経ビデオバンク / 日テレアクセス / 日テレ・テクニカル・リソース / 日本映画放送 / バカ・ザ・パッカ / バンダイ / バンダイナムコフィルムワークス / びえろ / ピラミッドフィルム / フジテレビジョン / ベネッセコーポレーション / ポニーキャニオン / マッドハウス / MAPPA / ロボット / WOWOW エンタテインメント ほか

※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

青木研次（脚本家）
池松社亮（俳優）
伊澤彩織（スタントパフォーマー、俳優）
井之脇海（俳優）
今村圭佑（撮影監督）
入江悠（映画監督）
大原櫻子（俳優・歌手）
岡本玲（俳優）
沖田修一（監督）
笠松則通（撮影監督）
梶原岳人（声優）
片瀬須直（アニメーション監督）
金子ありさ（脚本家）
河合勇人（監督）
寒竹ゆり（監督、脚本家）
北瀬佳範（ゲームプロデューサー）
蔵原惟繕（映画監督）
ゴリ（ガレッジセール）（お笑い芸人、脚本家、演出家）
佐藤隆太（俳優）
真田広之（俳優）
柴崎幸三（撮影監督）

高橋栄樹（映像作家、監督）
立川譲（アニメーション監督）
瀧口佑太郎（ラブレターズ）（お笑い芸人）
近森真史（撮影監督）
月永雄太（撮影監督）
ツジトモ（漫画家、イラストレーター）
富田和彦（録音技師）
富永昌敬（映画監督）
富野由悠季（ディレクター）
内藤剛志（俳優）
中沢敏明（映画プロデューサー）
乃木坂太郎（漫画家）
羽住英一郎（監督）
蓮見翔（ダウ90000）（お笑い芸人、脚本家、演出家）
伴一彦（脚本家）
深作欣二（映画監督）
福田卓郎（脚本家、演出家）
藤井道人（監督）
船越英一郎（俳優）
松岡錠司（監督）
山口まゆ（俳優）
山田智和（映像作家、監督）
吉谷彩子（俳優）
ほか

美術学科

Fine Arts



より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[美術学科 HPへ](#)



専任教員

飯田竜太 教授
鞍掛純一 教授
笹井祐子 教授

瀬島匠 教授
田中修二 教授
福島唯史 教授

坪井麻衣子 准教授
大橋朋美 専任講師
金子貴富 助教

古井彩夏 助教

個性に寄り添う少人数教育で 人間本来の創造力を伸ばし 新しい美術を創り出す

歴史的にも大きな役割を担ってきた美術はいま、
科学技術や生活様式の急速な進歩により、
多様な変化を遂げています。

専門性を高めるカリキュラムと少人数教育で、
過去から現在、未来へと繋がる
普遍的な美術の「本質」を探ります。



学びのポイント

2 創作演習と 共通演習

各専攻の制作実習は段階的に行い、

1年次は基礎、

2年次は基礎からの発展や、隣接する技術を
体得していきます。

3年次からは応用と個人制作が始まり、

4年次は卒業制作に取り組みます。

また、1年次には「**デザイン、版画基礎、彫塑**」
という**共通カリキュラム**を実施。

美術全般の基礎を養い、表現に関する
視野を広げます。

1 コースと専攻

絵画コース、彫刻コースという2コース制
のもとに、**絵画専攻、版画専攻、彫刻専攻、
地域芸術専攻**で構成されています。

演習や実習・創作活動と並行し、理論・歴史部門、
研究部門の科目も充実しており、作家育成と
同時に、美術教員、学芸員、批評家などアートに
携わる多様な人材の育成に力を入れています。

3 学外プロジェクト と特別講義

東京23区内の**芸術総合大学**としての
地の利も活かし、美術館や展覧会での
作品鑑賞により見識を深めます。

また、地域との交流も大切にし、地域アート、
芸術祭、工房などの施設見学などにも積極的に
参加しています。

学内でも現在活躍中の作家や評論家による
特別講義などを行い、時代や社会との
接点を広く設けています。



2コースで構成され、美術全般に通じる基礎を学びながら、「実技」と「理論」の両面から知識・技術・表現力を磨きます。

絵画コース

●絵画専攻

絵画の基礎及び普遍性を重んじ、4年間じっくりと腰を据えて「絵画」を学び「絵」を描けるのが、絵画専攻の最も大きな特徴です。日藝のキャッチフレーズは「ふつうじゃない、が、ふつうです」ですが、「普通」とは「普遍に通ずる」ということ。そのためには、まず揺るぎない基礎を培うことが何より重要であり、その先にこそ「絵画」を学ぶ本質が現れてきます。

特に1・2年次は、デッサン及び油彩で「人体」を描くことを基本に据え、西欧近代以降の色、形、コンポジション、そして絵画空間の考え方を体得します。日藝絵画での4年間で、絵画による表現の確立と同時に、個々の自立を目指します。



●版画専攻

版画専攻では描くことの基礎的な力を身につけるため、対象の中にある構造を理解し具体化することでデッサン力を高めます。そして、イメージを写し取る版画表現の基礎から応用までを学びます。また、鉛筆による細密描写やムービングによるドローイング、ペンによるイラストや製本による絵本制作、活版印刷によるイメージとことばのコラボレーションなどの授業を通じ、感性を磨きます。

紙が持つ可能性にも着目し、表現や素材の幅を広げていきます。表現を深めることにより、個々の作家としての自立を目指します。



彫刻コース

●彫刻専攻

現代の芸術の枠組みは非常に柔軟で、変化が目まぐるしく、その価値を判断することは簡単ではありません。これに対し芸術分野それぞれに教育理念と方法がありますが、通底するのは個人の視座の育成です。ものを見る力、ものを造る力を育てることは、彫刻の視座を持つことであり、時代に流されない人格形成の基盤となります。

彫刻専攻では、自然観察、塑像によるモデル実習、実在実習（木、石、鉄）等を通じて彫刻の基礎を習得し、個々の自由な発想による自主制作へと進みます。作品制作を通じて、彫刻という視座から社会との接点を考える4年間を送ることができます。



●地域芸術専攻

社会が抱える問題をアートの力によって変え、直接社会と繋がり、人の心を豊かにする実践力を身につけます。彫刻コースでは、2004年より参加している大地の芸術祭を中心に、アートの力を信じて日本における社会問題に、真摯に向き合ってきました。そうした活動を通じて日本の抱える問題をアートの力で変えていく可能性があることが、少しずつ浸透してきています。

地域芸術専攻では、こうした社会の動きの中で生まれた活動と新たな行動を起こす勇気・行動力を養い、体験による経験を糧に社会で生きる力をつけてもらいます。そして、アートによって生まれた様々なコミュニティを支える、広い視野を持った担い手を育成します。



4年間の流れ

		1年次	2年次	3年次	4年次
絵画コース	絵画専攻	自画像、基礎デッサン、 静物、人体、風景、 イメージ、ドローイング 	静物、人体、日本画 インスタレーション、 フレスコ画 	静物、人体、 インスタレーション 	卒業制作 
	版画専攻	「感性を刺激する」 版による基礎 基礎デッサン、ドローイング 銅版、リトグラフ、木版の基礎を学ぶ 	「表現を広げる」 版による応用 銅版、リトグラフ、木版の応用、 活版、製本などを学ぶ 	「表現方法を選ぶ」 卒業制作に向けて表現の可能性を探る 	「表現を深める」 卒業制作 
彫刻コース	彫刻専攻	木彫(デッサン)、塑像(首)、 実材実習(木・石・鉄)、 人体塑像、石膏取り 	人体塑像、石膏取り、 テラコッタ実習、 実材実習(木・石・鉄)、 シリコン、ジェスモナイト 	自由制作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、 塑像 	卒業制作 
	地域芸術専攻	木彫(デッサン)、塑像(首)、 実材実習(木・石・鉄)、 人体塑像・石膏取り、 デッサン基礎(地域芸術専攻のみ) 	PC基礎、 コミュニケーション意匠設計、 フィールドワーク、 グループワーク 	フィールドワーク、 グループワーク、 エスノグラフィー実習 	インターン、 卒業論文/卒業制作 
共通		デッサン、版画基礎、彫塑 美術史概論、美術作品研究 美術特別講座、美術特別研究、映像メディア表現 絵画概論、版画概論、彫刻概論		美術学、解剖学、素材研究、 西洋美術史、東洋美術史、日本美術史、 美的構成研究、美術作品研究、 古美術研究	
教職		デザイン論、図学 工芸演習、 美術科教育法		美術教材研究、映像メディア研究、図学 工芸科教育法 教職実践演習(中・高)美術、 教育実習事前・事後指導	



二月堂



東大寺

古美術研究

仏像等の作品を所蔵する寺院の実地見学を行い、自分の目で作品を体験して理解を深めます。制作の歴史的背景等に関する事前学習により、実地見学をより豊かなものにしていきます。古代から中世に及ぶ多様な作品を学ぶことができます。

施設

絵画、版画、金属、木工など
専用のアトリエを使って
作品制作ができます。



絵画アトリエ



版画アトリエ



屋外制作場



金属アトリエ



木彫アトリエ

卒業制作



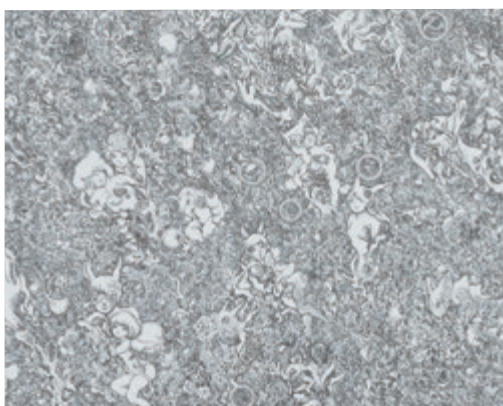
橋本悠 「I」
ミクストメディア 259 × 194 × 80cm



伴野乃花 「覗くパニエ」
トレーシングペーパー 糸 100 × 200 × 200cm



テーケンシ 「野火」
木 150 × 180 × 70cm



SHIGERU RIKO 「cryptid wonder land」
アクリルデネブ(中性紙)・鉛筆 F20



大久保灯 「生きている」
木版、水彩絵具、和紙 90.9 × 90.9cm



四本紗桜里 「ぼぼぼ」
木版、リトグラフ、水彩絵具、リトグラフィンク、和紙、
木製パネル、木材 95.8 × 121.6cm

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

絵画コース 2年

いいだ はな
飯田 羽菜 さん



- ① 講師の方々の作品に惹かれたことと、学祭での学生の皆さんの楽しげな雰囲気から、この学校を志望しました。
- ② 実技の授業です。閉校時間ギリギリまで教室に残り、友達や先生と相談しながら、納得できるまで制作に向き合う時間が、自分の力になっているように感じます。
- ③ 入っていません。
- ④ 休日には美術館に行き、お互いの意見を交換したり、今取り組んでいる制作や興味のあることについて話し合ったりしています。
- ⑤ 他学科と合同で行う授業や選択授業を通して知り合った友達と、授業内容の違いや進路の話などの意見交換をします。
- ⑥ 読書です。自分の知らなかった考えに出会えるのが楽しいです。
- ⑦ しています。週2回、授業の空きコマがある日に入っています。
- ⑧ 同じ絵画専攻の人達です。多様な物の捉え方に驚かされることが多く、油絵を初めて学んだ人もいますが、この2年間で大きく成長している姿に刺激を受けています。
- ⑨ アートに関わる仕事に就きながら、自身の制作活動を続けていきたいです。そのために必要な資格や知識を身につけられるよう、これからも努力していきます。
- ⑩ 明るく、知らない人にも積極的に話しかけて能動的に活動する人が多い印象です。みんなで楽しめる学校のイベントも多いので、仲も深まり思い出に残る学校生活になると思います。



彫刻コース 2年

おぐら やすみ
小椋 優充 さん



- ① 私は元々高校の美術学科で2年から彫刻を専攻していたので、以前から彫刻や立体作品に興味があり、自由に自分の作品を制作できる環境を望んでいました。日藝は様々な学科が一つのキャンパスにまとまっており、様々な物事を包括的に学べる魅力が志望動機の一つとなりました。
- ② 彫刻専攻の実実習です。実際に素材を使い様々な表現を模索する日々は、新しい発見もありテーマを明確な形になっていく実感があります。
- ③ 彫刻専攻は大学での実実習がほぼ毎日あるので、サークルは所属していません。
- ④ 個人で絵画や作品標本などの創作活動をしています。ギャラリーが開催する企画展などに参加し様々な大学生と一緒に展示する機会を積極的につくっています。
- ⑤ 学内では、他学科公開科日の授業を通しての交流があります。学外でも同じ企画展に参加するなど、互いの作品を通じて交流を深めることができました。
- ⑥ 物心ついた時から深海の暗闇に興味があります。大学生になってからは漁師の方から深海魚を譲り受け、実際に自分で液浸標本を作ることになりました。本物でなければ気づかない要素が多く、自らの作品制作に密接に繋がっています。
- ⑦ 大学でのオープンキャンパスや先生方の展示に関するバイトがあるので、そちらに参加させていただくことが多いです。将来的に個展を開催したい想いもあり、展示のノウハウを理解できる機会だと思っています。
- ⑧ 専任教員の先生方です。大学で彫刻を教えつつ、作品制作や展示に注力する姿に憧れます。日藝を明確に志望するようになったのは、学生に対して熱心に向き合う先生方の姿があったからだと思っています。
- ⑨ 大学院に進学し、将来はアーティストとして活動していきたい。
- ⑩ 日藝のジャンルを横断した様々な授業で、今まで知らなかったことを学ぶことができ、日芸祭などの企画を通じて、他学科と交流できるのが日藝の良いポイントだと思っています。



○卒業後の進路

美術作家として活躍する他、一般企業で美的センスを活かした仕事に就く人が多くいます。また、教員、学芸員として活躍する人が多いのも特徴です。

【過去5年間の実績】

アートコーポレーション/秋山工房/アクアスター/学校法人Adachi学園/アルテカ/アレックス/エガーアート/学校法人開成学園/学校法人恭敬学園/カプコン/ギャラリー川船/共同エンジニアリング/クオリティライフ/コンシェルジュ/草薙/クリエイターズボックス/グレイ美術/小糸樹脂/小西美術工芸社/さいたま市教育委員会/SANKYO/サングループ/三和/JR東日本メディア/総合舞台/千葉県教育委員会/東京信用金庫/東京都教育委員会/童具館/東宝舞台/日経印刷/日伸ソフトウェア/日本大学第三高等学校・中学校/はま寿司/美峰/藤浪小道具/防衛省陸上自衛隊/マーキュリー/マッドハウス/村田製作所/明治安田ビジネスプラス/ヤオキョウ商事/横浜市教育委員会/ヨドバシカメラ/レモン画翠 ほか

※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

青山剛昌(漫画家)
植松美月(彫刻家)
大竹志歩(彫刻家)
海崎三郎(彫刻家)
河邊ありさ(アーティスト)
北澤一伯(彫刻家)
絹谷幸太(彫刻家)
倉重光則(現代美術家)
小池一馬(彫刻家、画家)
小杉小二郎(画家)
櫻井孝美(画家)
島田つか沙(イラストレーター)
鷹尾俊一(彫刻家)
たなかみさき(イラストレーター)

多和圭三(彫刻家)
塚本晋也(映画監督、俳優)
伝子れんぢ(漫画家)
長野剛(イラストレーター)
根本祐杜(彫刻家)
三浦建太郎(漫画家)
フトンチラシ(漫画家)
森恒二(漫画家)
溝口達也(造園家)
山本衛士(彫刻家)
ほか



音楽学科

Music

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[音楽学科 HP](#)へ



専任教員

伊藤弘之 教授
大寺雅子 教授
川上央 教授

萩原貴子 教授
三戸勇氣 教授
脇岡洋平 教授

小林純生 准教授
駒澤大介 准教授
吉田行地 准教授

竹田香子 専任講師
上村さや香 助教

総合大学で音楽を学び 広く社会に貢献

日本大学の音楽学科として、
広い視野と豊かな教養を培いながら、
深い専門知識を身につけます。
人々の心に届く音楽を生み出す力をつけ、
幅広い分野に人材を送り出します。

学びのポイント

2 自ら考え

音楽理論や技術が向上すれば、
自らの作品や演奏にどのような価値があり
どのような意味があるかを考えるようになります。
音楽の価値観は人それぞれ違い、
多様な価値観があるのが音楽の面白さです。
自ら考える力は多様性に必要な能力です。

1 自ら学び

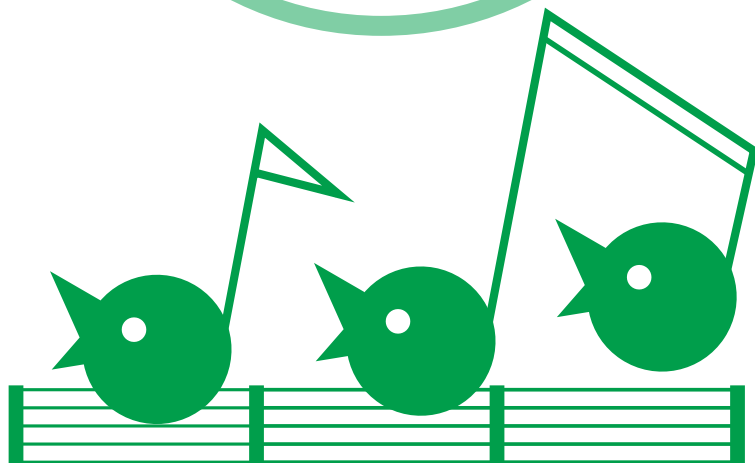
情報音楽コースと9専攻の音楽芸術コース
の2コースがあります。

音楽理論や演奏技術などの基礎を学びますが、
その学びを自分のものにするため、自ら学ぶ
姿勢が必要です。

日々の学びを自分のものにした時、
学生の音楽性は大きく向上します。

3 自ら道をひらく

自ら学ぶ力と考える力を身につけ、
自らの音楽表現を見つけると、
自ら進む道がひらけます。
その道は広く長く、人生とともにひらけ、
4年間の学びは、あらゆる場面で、
社会に大きく貢献していきます。



デジタル技術を活用する情報音楽コースと作曲や演奏、音楽マネジメントなどを学習する音楽芸術コースの2つのコースで音楽のあらゆる分野の学習を網羅します。

情報音楽コース

デジタル技術を身につけ、これまでにない新たな音楽分野を開拓しています。情報社会の急速な変化によって、音楽表現のありかたや音楽産業は大きな変容を遂げています。この状況に対応するため、音楽の学習とともに、デジタル技術の徹底的な指導によって、最先端の表現を可能にする人材を育成しています。プログラミングやDAW、レコーディングなどの音楽制作だけでなく、映像表現、ライブ演出、メディアアートなどの分野も授業に取り入れ、多くの人に伝える学習も行なっています。



音楽芸術コース

①作曲専攻

一人ひとりの学生に自分自身の創作の世界を見つけ独創的で良質な音楽作品を生み出してほしい。第一線で活躍する経験豊かな作曲家たちが、学生の個性を大切に丁寧な指導を1年次からマンツーマンで行なっています。クラシックの作曲技法に基づく生楽器のための作曲だけでなく、DAWを使った作曲も推奨しています。和声や対位法や音楽形式といった基礎の学習はもちろんのこと、オーケストレーションや正しい楽譜の書き方など、実践的な側面の学習にも重点を置いています。学生の作品を実際に音する機会や、他学科の学生とのコラボ（映像作品の音楽を担当）の機会なども用意されています。



②理論専攻

「音楽学」と呼ばれる領域の勉強をします。音楽学がカバーする範囲は、理論、作曲家、作品、楽器、歴史、文化、社会、古いものから新しいものまで多様ですが、それらの研究に必要なことを基礎から学びます。卒業論文では、各々の学生が選んだテーマについて、その領域に詳しい教員の指導のもと、研究に取り組みます。西洋音楽はもちろんのこと、民族音楽、日本の伝統音楽、ポピュラー音楽について学ぶ機会も用意されています。和声、作曲、音楽形式などの学習や、ピアノや声楽などの実技の勉強も可能です。音楽を広く全般的に学びたい人にも、ある領域について深く研究したい人にも、どちらにもぴったりの専攻です。



③音楽文化マネジメント専攻

音楽と文化に関わるプロジェクトを支援し、社会との橋渡しを担う人材の育成を目指します。音楽や文化的な活動を媒介として、他者や社会を結びつけるような活動、経済的利益や持続可能性を生み出す活動などを実現するため、音楽産業の仕組み、著作権や契約に関する法律、文化政策、非営利団体の運営などについて学びます。また、音楽や芸術に関する講義や実技を通じて音楽文化への理解を深めるとともに、実践的なスキルを習得できます。さらに、企業や非営利組織での実習やインターンシップを通じて、アートマネジメントの実務経験を積む機会も用意しています。「日藝」の多様な環境を活かし、音楽文化やアーティストを支える視点から新たな音楽の世界を探究したい方、特に優れたコミュニケーション能力と旺盛な好奇心を持つ方の入学を歓迎します。



④声楽専攻

声楽の基礎である発声法をしっかりと学習し、イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲、そしてオペラアリアなど、個別指導による丁寧なレッスンを行います。さらに、音楽ホールでの歌唱やアンサンブルなどを通じて、観客に伝えるステージ歌唱を経験し、学内コンサート等の様々な場面で学習成果を披露します。また、歌や音楽の学習だけでなく、芸術学部の特徴である、エンターテインメント関連の授業や連携型授業を通じて、他分野の学生とも交流を持ち、幅広い音楽性を培います。



⑤ピアノ専攻

ピアノ専攻では、一流の講師陣による個人レッスンに加えて、音楽に関わる様々な知識を得られる学科専門授業を通して、多様な「なりたい自分！」のニーズに応えると共に、それぞれの学生個人の志望に寄り添い、卒業までサポートしていきます。レッスンでは、基礎からより高度な技術の習得に向けて、クラシック音楽のバロック、古典、ロマン、近現代の4つの時代の作品を、段階的なレパートリーのカリキュラムに基づき学んでいきます。

自由になりたい自分を見つけて、夢を叶えられるのが日芸ピアノ専攻の魅力です。さらに試演会での演奏による選抜コンサートや、定期演奏会、室内楽コンサート、公開レッスンなど、たくさんの舞台を経験する場も用意されています。日芸ピアノ専攻で是非、かけがえのない音楽体験をしてください！



⑥弦楽器専攻

弦楽器の基礎から応用まで、音階・エチュード・ソロレパートリーを個人レッスンで確かな技術と表現力を養います。さらに、少人数による室内楽の弦楽合奏を通じて、音楽的対話を学び、学内コンサート等でその成果を発表。木管楽器とアンサンブルの機会もあります。



⑦金管楽器専攻

金管楽器の基本の奏法や各種技術を個人レッスンで確かな技術と表現力を養います。金管五重奏や同族楽器のアンサンブル、ファンファーレなどを室内楽で行い、アンサンブルの力を磨き学内コンサート等の様々な場面で学習成果を披露します。また、音楽の学習だけでなく、芸術学部の特徴である、エンターテインメント関連の授業や連携型授業を通じて、他分野の学生とも交流をもち、幅広い音楽性を培います。



⑧木管楽器専攻

国内外で活躍する一流の演奏家が個人レッスンで指導にあたり、最高の技術と表現力を学べる環境を整えています。管楽器の基本である呼吸法をはじめ、身体を合理的に使った演奏方法などを丁寧に指導します。バロックから近現代まで幅広いソロレパートリーは、ピアノやチェンバロと共演しながら演奏技術を磨き表現力をつけます。木管五重奏や木管楽器と弦楽器のアンサンブル、フルート&ハープのアンサンブル、サクソファンアンサンブルなどの室内楽でアンサンブル力を磨きます。特殊管（ピッコロ・アルトフルート・バスフルートなど）を使って映画音楽やミュージカルの音楽などクラシックをベースに日芸独自のエンターテインメント性のある演奏会の機会など充実した学びができます。コンチェルトは室内楽でできる範囲で演奏し披露します。音楽の学習だけでなく、芸術学部の特徴である、エンターテインメント関連の授業や連携型授業を通じて、他分野の学生とも交流を持ち、幅広い芸術性を培います。



⑨打楽器専攻

打楽器の基本奏法や楽器の取り扱いを個人レッスンで徹底的に学びます。マリンバソロや打楽器アンサンブルを中心に、多様なレパートリーを少人数のアンサンブルで学習。学内コンサート等の様々な場面で学習成果を披露します。



教職課程の履修が可能です。※専攻によっては在学中に全ての教職科目が取れない可能性があります。



音楽学Ⅰ

1年次必修の授業で、音楽学者がクラシック音楽を基礎から応用まで丁寧に解説します。



プロジェクトⅠ

コンサートなどの企画から運営まで、世の中に音楽を届けるためのあらゆるプロセスを実践します。



情報音楽実践Ⅲ

スタジオで必要な基礎知識や録音、DAWソフトによるミックスまで一連の流れを学生自身で行えることを目標に実践的な学習を行います。

こんな
授業が
あります



一流の講師陣による直接指導が
飛躍的な成長に繋がります。

施設

ホールやレコーディングスタジオのほか、学科生なら誰でも利用できる練習室も充実しています。

音楽小ホール



音楽学科スタジオ



音響測定室



音楽実習棟練習室



レッスン室



卒業演奏会



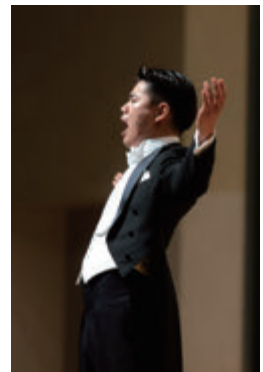
室内楽



情報音楽コース レコーディング風景



ピアノ専攻 ピアノコンサート



定期演奏会



作曲専攻 新作室内楽の会



キャンパス内の中庭ステージでの演奏風景

学科の活動

ピアノコンサート、定期演奏会など多くの発表の機会があり、自分の実力を確かめることができます。

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

情報音楽コース 3年

みなみしま かいしゅう

南島 快舟さん



- ① 音楽が好きなのはもちろんですが、映画も同じくらい好きなこともあり、その両方が学べる環境の日藝を選びました。
- ② 他学科公開授業の「映画演技論」です。普段自分では観ない作品を演技の観点から鑑賞でき、芸術表現に対して毎回新たな発見がある授業です。
- ③ 入っていません。
- ④ 個々での活動が多く、仲間でこれといった活動はしていませんが、日芸祭などの企画時にはバンドを組みます。授業外でも頻りに遊んだり飲みに行くなど、家族みたいな存在です。
- ⑤ 個人的にはライブ動画の撮影をしてもらったり、一緒に音楽を作ったりしています。友達の中には自主企画で共同制作を行っていたり、映像作品の主題歌を担当している人もいます。
- ⑥ ディズニーパリで発表された、アナと雪の女王の「オラフ」のロボットです。本当に映画から出てきたみたいな動きをしていて、早く東京にも登場して欲しいです。
- ⑦ 映画館でバイトをしています。自分が働いている劇場では公開されている映画がタダで見れるので、たくさん作品を見させてもらっています。
- ⑧ ゼミの先生です。技術的はもちろん、モノに対する向き合い方や立ち振る舞いなど、背中を見て学ぶことが多く、優しく、時に厳しく指導されながら日々お世話になっています。
- ⑨ まだはっきりと決まっていませんが、日々曲を作って楽しく生きていきたいです！
- ⑩ 自分が熱中しているものに共感してくれる人に出会えることだと思います。



ピアノコース 3年

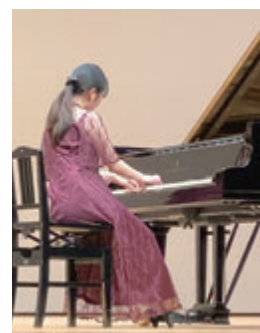
(現音楽芸術コース ピアノ専攻)

にしかわ こころ

西川 心さん



- ① ピアノの専門性を深められる環境と、教職課程の充実に魅力を感じ、音楽教師を目指す自分に最適だと思い志望しました。
- ② ピアノの実技の授業に最も力を入れています。テクニックの習得はもちろんのこと、楽曲の解釈や表現力を高めるために、日々真剣に取り組んでいます。
- ③ 現在、サークルには所属していませんが、その分ピアノの練習や学業、アルバイトに集中し、充実した学生生活を送っています。
- ④ 仲間の伴奏を引き受けて一緒に演奏することがあります。合わせを通じてお互いに意見を交換しながら音楽を作り上げるのは、とても充実した時間です。
- ⑤ 他学科の学生とは、公開授業に参加することで交流しています。他学科の授業を受けることで、新たな視点を得ることができ、刺激を受けています。
- ⑥ 最近は読書に注目しています。様々な本を読むことで、新たな知識や発想を得ることができ、自分の視野が広がるのを実感しています。
- ⑦ 飲食店でアルバイトをしています。接客業を通じてコミュニケーション能力や責任感を養うことができています。
- ⑧ 大学で指導を受けているピアノの先生です。技術的な指導だけでなく、音楽に対する情熱や表現の大切さを教えてください、私の目標とする存在です。
- ⑨ 卒業後は音楽教師を目指しています。5年後には、生徒たちに音楽の楽しさや魅力を伝え、教育現場で活躍できるよう努力しています。
- ⑩ 専門性の高い授業と実践的な学びが充実しています。また、様々な分野の芸術に触れることができる環境が整っているので、自分の可能性を広げることができます。



○卒業後の進路

演奏家や音楽家だけでなく、教員などの専門職、楽器製造会社、レコード会社、エンターテインメント企業など、幅広い分野で活躍しています。

【過去5年間の実績】

アークシステムワークス/アイテム/アクロホールディングス/麻布ブラザ/イープラス/池田ピアノ運送/エクスコア/NEC ネットソリューションズ/NTT ネットサービス/NTT データバリュー・エンジニア/MS&AD システムズ/大阪市音楽団/オーディオテクニカ/オリエンタルランド/河合楽器製作所/キタムラ・ホールディングス/キャピタル/共同エンジニアリング/キングレコード/Qentar/黒澤楽器店/警視庁/ケーユーホールディングス/劇団ひまわり/コスモネット/コンセプトラボ/サイオステクノロジー/埼玉県教育委員会/サントリーパブリシティサービス/ジェイアール東海バスセンター/JR 東日本ステーションサービス/ジェイ・ストーム/島村楽器/住友不動産販売/積水ハウス/全国共済水産業協同組合連合会/全国警備保障/ソニーミュージックグループ/第一興商/高崎市/たきコーポレーション/千葉県教育委員会/千葉県文化振興財団/TBS グロウディア/東急リゾーツ&ステイ/東京サウンド・プロダクション/東京国税局/東京都教育委員会/東和アークス/医療法人社団徳真会/所沢市文化振興事業団/新潟県教育委員会/日テレアックスオン/日音/日本コロムビア/日本アイ・ビー・エム/日本大学高等学校・中学校/博展/博報堂 DY ミュージック&ピクチャーズ/博報堂プロダクツ/ビックカメラ/ヒルトン横浜/フォーシーズ/船橋市教育委員会/ブルーブルーエジャパン/防衛省航空自衛隊/防衛省陸上自衛隊/ミイダス/三井不動産リアルティ/三菱電機インフォメーションネットワーク/ミツウ電機/村松楽器販売/山野楽器/横浜市教育委員会/リンナイ/WOWOW ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

幾田りら (歌手)
石塚徹 (作曲家)
伊東たけし (サクソ奏者)
上野耕路 (作曲家、編曲家)
大沢健 (声楽家)
角館健悟 (歌手、ギタリスト)
兼子拓真/熊吉郎 (ベーシスト)
菊池俊輔 (作曲家)
菊池亮太 (ピアニスト、作曲家、YouTuber)
崎谷健次郎 (シンガー、作曲家)
とくさしけんご (作曲家)
徳光正行 (司会者、タレント)
中島ノブユキ (作曲家)
にゃんぞぬデン (シンガーソングライター)
根岸宏輔 (作曲家)
野崎良太 (作曲家、編曲家)
羽岡佳 (作曲家)

平野和 (オペラ歌手)
深沢敦 (声楽家、タレント)
藤田乙比古 (ホルン奏者)
堀川大翼 (作曲家・編曲家)
MAKOTO (DJ、作曲家)
松本真結子 (作曲家)
松澤ネキ (フリーアナウンサー)
丸田和輝 (バストロンボーン奏者)
水野谷怜 (作曲家・編曲家・ギタリスト)
宮城マリオ (エアギタリスト)
三宅由佳莉 (海上自衛隊東京音楽隊 歌手)
森田公一 (作曲家)
山口めろん (タレント、シンガーソングライター)
湯浅篤 (編曲家)
若田部誠 (音楽プロデューサー)
ほか

文芸学科

Literary Arts

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[文芸学科 HPへ](#)



専任教員

青木敬士 教授

上田薫 教授

ソコロワ山下聖美 教授

谷村順一 教授

楊逸 教授

上坪裕介 准教授

小神野真弘 准教授

丹一信 准教授

伊藤景 専任講師

高野和彰 専任講師

山下洪文 専任講師

文芸的な創造力と表現力が 豊かな人間性を育む

研究に主眼をおいた文学部の文芸学科とは異なり、「文学を紡ぎ出す場」として、文芸を自ら創り出すための技能を育みます。「書くこと、発表すること」に積極的に取り組むことで、作家やジャーナリストはもちろん、研究者や良識ある社会人を育成します。



学びのポイント

2 講義と演習

多方面の文学ジャンルへの関心を深めるための講義と、**文芸創作、ジャーナリズム、DTP**などの各分野について、専門的な知識と経験が身につく授業を数多く用意しています。書くことや発表することに積極的に取り組み、文章を通じて取り組む多彩な表現現場において、第一線で活躍するための創造力を養います。

1 創造と表現

本学科の教育の中心にあるのが、1年次から基本的な授業科目として設けられている「**文芸研究(ゼミナール)**」。創作活動の指導と実践を目的に、**創作合評**や「**ゼミ雑誌**」の編集を行います。文学を紡ぎ出す場として、**詩や小説、戯曲、批評、ジャーナリズム**の世界まで含めた幅広いフィールドで想像力・表現力を磨きます。

3 オムニバス授業

文学を深めていく準備として、文学への無数に存在する入り口を知ることができる**オムニバス授業**を実施しています。各界から著名な講師を招いて授業を行うことで、理論だけではない生きた知識が得られます。**多岐にわたるジャンルの文芸体験**を通して、これから取り組む創作活動の方向性を探ります。



4年間の流れ



<p>1 年次</p>	<p>文芸学科では、1年次から少人数制のゼミ（文芸研究Ⅰ）に参加し、作品研究発表や創作を読みあつての合評、「ゼミ雑誌」の編集など、少人数だからこそ可能な授業を行っています。また、DTP演習など、専門技能を身につけるための実践的な授業も、1年次より履修することができます。</p>	
<p>2 年次</p>	<p>2年次は、小説・詩・文芸批評・ジャーナリズムなど、希望の専門分野に特化したゼミ（文芸研究Ⅱ）を選択することができます。「ゼミ雑誌」の執筆・編集に参加しながら、各自の方向性を見定めていきます。この「ゼミ雑誌」の制作は文芸学科のゼミの最大の特徴であり、実際の本作りと同じプロセスで各ゼミがひとつの編集部として機能していくリアルな演習です。どんなブックデザインにするのか？作品集的な内容にするのか？雑誌的な内容にするのか？.....などを、指導教員の指導のもと、学生が自主的に企画編集し、収録作品の執筆もしていきます。さらには、予算内でどこまで凝った本ができるか、印刷所と交渉するところまで含めた、出版の実践的過程を体験することができます。</p>	
<p>3 年次</p>	<p>3年次のゼミ（文芸研究Ⅲ）は、純文学、エンターテインメント、ジャーナリズム、文芸評論、エッセイ、詩、短歌、俳句、漫画など、幅広いジャンルの中から、各々の特性に合ったゼミを選択して、創作や研究を深めていきます。卒業論文・作品の執筆を視野に入れ、4年次に繋がります。</p>	
<p>4 年次</p>	<p>4年次は3年次と同じゼミ（文芸研究Ⅳ）で、卒業論文・作品に向けての指導が行われます。文芸学科では、ページの上に各々の個性と才能を結実させることが「文芸創作表現」であると捉え、小説のみならず、シナリオ、エッセイ、詩集、短歌、俳句、漫画なども文芸表現の形式として認め、卒業作品として受理しています。卒業後の活動のための、貴重な挑戦の機会となっています。</p>	

文芸領域における専門的な知識と経験を身につけるための「演習授業」に力を入れています。

こんな授業があります



- ・言語学Ⅰ・Ⅱ
 - ・出版文化論Ⅰ・Ⅱ
 - ・ノンフィクション論Ⅰ・Ⅱ
 - ・古典文学史Ⅰ・Ⅱ
 - ・小説論Ⅰ・Ⅱ
 - ・児童文学論Ⅰ・Ⅱ
 - ・現代文学史Ⅰ・Ⅱ
 - ・文芸創作論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
 - ・シナリオ研究Ⅰ・Ⅱ
 - ・海外文芸史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
 - ・文芸批評論Ⅰ・Ⅱ
 - ・原典講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
 - ・日本文化史Ⅰ・Ⅱ
 - ・幻想小説論
 - ・文芸特別講座Ⅰ
 - ・思想の座標／思想の歴史
 - ・ミステリー小説論
 - ・文芸特別講座Ⅱ
 - ・文芸入門講座Ⅰ・Ⅱ
 - ・翻訳文学論Ⅰ・Ⅱ
 - ・文芸研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
 - ・文芸特講Ⅰ・Ⅱ
 - ・伝記論Ⅰ・Ⅱ
 - ・表現領域拡張講座Ⅰ・Ⅱ
 - ・文芸特講Ⅲ・Ⅳ
 - ・メディア論Ⅰ・Ⅱ
 - ・口承文芸論Ⅰ・Ⅱ
 - ・文芸特講Ⅶ・Ⅷ
 - ・ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ
 - ・編集研究Ⅰ・Ⅱ
 - ・SF小説論Ⅰ・Ⅱ
 - ・マンガ論Ⅰ・Ⅱ
 - ・DTP演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
 - ・雑誌研究Ⅰ・Ⅱ
 - ・マンガ演習Ⅰ・Ⅱ
 - ・作家作品論Ⅰ・Ⅱ
 - ・エッセイ研究Ⅰ・Ⅱ
 - ・文芸情報処理演習Ⅰ・Ⅱ
- ・教職 国語学Ⅰ・Ⅱ
 - ・教職 国文学Ⅰ・Ⅱ
 - ・教職 漢文学Ⅰ・Ⅱ
 - ・教職 漢文学史Ⅰ・Ⅱ
 - ・教職 書道Ⅰ・Ⅱ
 - ・国語科教育法Ⅰ
 - ・国語科教育法Ⅱ
 - ・国語科教育法Ⅲ
 - ・国語科教育法Ⅳ
 - ・教職実践演習
 - ・教育実習事前・事後指導（国語）

特別講座

現在業界で活躍している方々の、生の声を聞くことができる特別講座などを開講しています。

文芸学科特別講座（2025年度）

内容	講師	実施日	講座名（担当教員）
日本文学の「純」について	船山幹雄	25年6月19日（木）	【小説論Ⅰ】楊逸
早川書房編集部・井出聡司氏と 担当SF作家・人間六度氏による対談	井手聡司、 人間六度	25年7月18日（金）	【SF小説論Ⅰ】青木敬士
コラムサイト「デイリーポータルZ」における 企画立案や記事制作の方法	林雄司	25年10月2日（木）	【ノンフィクション論Ⅱ】小神野真弘
「漫画と言葉」について	辛酸なめ子	25年11月5日（水）	【【文芸特講Ⅱ】ソコロワ山下聖美
なぜ川端康成がノーベル文学賞を受賞したのか	富岡幸一郎	25年11月20日（木）	【【小説論Ⅱ】楊逸
インターネット登場以来のメディア環境の変遷 およびクリエイターに必要な思考法	北元均	25年10月22日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘
お笑いにおける「面白さ」とは	ラリー遠田	25年11月5日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘
ベテラン記者が語る記事特筆の技法	山科英典	25年11月6日（木）	【ノンフィクション論Ⅱ】小神野真弘
日本の外国人コミュニティの現在	室橋裕和	25年11月14日（金）	【ジャーナリズム論Ⅱ】小神野真弘
はじめての校正・校閲 —校正者の仕事について—	山田佑美	25年11月11日（火）	【出版文化論Ⅱ】伊藤景
文芸と映画の越境 —メディアミックスの時代を考える	堀内大示	25年12月2日（火）	【表現領域拡張講座Ⅱ】伊藤景
メディアとしての都市、コミュニティの創出	奥田達郎	25年12月10日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘
表現を拡張する —広告を中心に	床井瑞生	25年12月23日（火）	【表現領域拡張講座Ⅱ】伊藤景
ジャーナリズムと冒険の融合	丸山ゴンザレス	26年1月16日（金）	【ジャーナリズム論Ⅱ】小神野真弘
TVドキュメンタリーのストーリーテリング、その現在系	中西朋	26年1月14日（水）	【メディア論Ⅱ】小神野真弘
マンガとデザインの関係 —ブックデザイナーの仕事とは—	入倉直幹	26年1月20日（火）	【マンガ論Ⅱ】伊藤景

江古田文学

文芸学科の中に編集部を置く文芸誌『江古田文学』。

「江古田文学賞」を受賞した卒業生の中には、現在、作家として活躍中の人もいます。

文芸学科では、在学生や芸術学部校友を中心にした江古田文学会を設立し、文芸学科の中に編集部を置く文芸誌『江古田文学』を年2回発行。この文芸誌は、芸術を学ぶ場に生まれた雑誌にふさわしい、あらゆる創作者たちの文学的営為の拠点となる雑誌として、様々な特集を企画しています。『江古田文学』が主催する「江古田文学賞」では、小説・文芸評論などを公募し、厳正な審査のもと年1回受賞者が発表されています。特に第4回受賞者の文芸学科生・飯塚朝美さん（2006年度卒）が2008年度の「新潮新人賞」を受賞して作家デビューするなど、めざましい成果を挙げています。



施設



文芸ラウンジ



文芸資料室



出版編集室

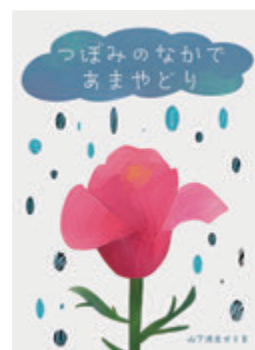
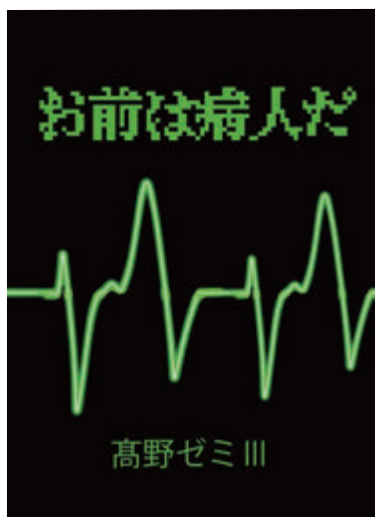


DTP室

編集ソフトが使えるコンピュータ（DTP）室、5万冊の蔵書を揃えた学科専用の文芸資料室、製本設備のある出版編集室など、創作や出版活動をサポートするための設備が整っており、学科内だけで一冊の本を作り上げることが可能です。

在学生の作品

実際の本作りと同じプロセスで行われる「ゼミ雑誌」の制作をはじめ、学生が表現したものを発表する場を数多く用意しています。



2025年度に発行されたゼミ雑誌の一部

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

2年

い で りょう た
井出 涼太 さん



- ① 高校の頃、文芸部に所属していて、大学でも文芸を中心とした表現を学びたいと思ったからです。また、8つの異なる芸術に触れられる環境であったことです。
- ② 文芸研究Ⅱ(ゼミ)と、表現領域拡張講座です。どちらも分野をまたいだ授業となっているのが面白いと思っています。
- ③ 文芸学科実行委員会、架空広告研究会などを中心に、いくつか入っています。
- ④ 日芸生を中心とした情報誌、「Unit!」を創刊して、編集長を務めています。日芸祭(学祭)を中心として販売しています。
- ⑤ サークルや授業で知り合った友人がいます。長期休みには、野球観戦に行ったり旅行に行ったりしています。
- ⑥ お笑い:ダウ90000、シンクロシティ、漫画:『シテの花-能楽師・葉賀琥太郎の咲き方』、『カグラバチ』、ゲーム:ポケモンZ-A、TRPG。
- ⑦ 本屋でバイトしています。レジ打ちが中心ですが、たまにPOPを作っています。
- ⑧ 一つ上の学年の、デザイン学科の先輩を尊敬しています。「好きなこと」と「他人が面白いと思うこと」を意識してコンテンツを作っている点を尊敬しています。
- ⑨ 出版社に入社して、編集者になりたいです。5年後に限った話ではないですが、本に携わる仕事を続けて、日本の出版のために自分の能力を活かせる環境だと思います。
- ⑩ 異なる芸術領域に携わっている仲間とたくさん会えること、自分の作りたいものを肯定してくれる環境であることかなと思います。



3年

ごう つ し お り
合津 志織 さん



- ① とある小説をきっかけに、出版や編集に憧れを持ちました。ゼミで毎年雑誌を制作するなど、実践的に学べる点に魅力を感じ、日藝を志望しました。
- ② 「文芸創作論」や「マンガ演習」は、小説を書く経験が乏しかった私にとって、自分の作品を先生や他の学生に読んでいただける点が魅力に感じています。
- ③ 徒歩旅行部に所属しています。山手線を一周歩いたり、高尾山に登ったりといった活動を通し、様々な景色に触れることができ、刺激になっています。
- ④ コンクールに応募したり、即売会に作品を出品する友人も多く、互いに作品を読み合って感想を伝え合うことで刺激を受けています。
- ⑤ サークルや他学科公開の授業、司書課程の授業などで他学科の学生と出会っています。学科ごとに個性があり、それも面白いと感じています。文芸学科の卒業生で俳優の梅津瑞樹さんです。俳優として活躍するほか
- ⑥ 随筆集や戯曲集も手がけ、近年は劇作家としても活躍されており、尊敬しています。
- ⑦ 百貨店内のジューススタンドでアルバイトをしています。正しい言葉遣いや所作を身につけたいと思い、接客研修が手厚い百貨店を選びました。
- ⑧ 家族を尊敬しています。両親や姉、兄も大人になっても積極的に学ぶ姿勢を持っており、私も向上心を持ち続けたいと思っています。
- ⑨ エンターテインメント業界に興味があります。誰かの人生に少しでも彩りを添えられるような仕事に携わりたいと思っています。
- ⑩ とにかく自由で、何かにチャレンジする際には背中を押してくれる環境です。自分の「好き」や「興味」と全力で向き合える、そんな場所だと思います。



○卒業後の進路

出版・印刷(編集、DTP、ライター)、広告(企業宣伝、イベント制作)などの他、
中学・高校教員やパソコンスキルを活かして一般職に就く人もいます。

【過去5年間の実績】

アトラス/あたらす二十一/アルカミクス総合研究所/イー・カンパニー/イープラス/イオンリテール/石橋楽器店/板橋区文化・国際交流財団/入間市役所/インプレスホールディングス/ADKホールディングス/エン・ジャパン/学校法人科学技術学園/学究社/カスタムグラフィア/気象庁/紀伊國屋書店/ぎやろっぶ/弁理士法人共生国際特許事務所/共同エンジニアリング/京都市生涯学習振興財団/共立印刷/群馬県桐生市役所/建通新聞社/光潮社/光邦/港北出版印刷/光陽メディア/コミックスマート/埼玉県教育委員会/佐川印刷/産業編集センター/SANKYO/さんぼう/サンミュージャングループ/三洋紙業/JCOM/ジェネシス/下野新聞社/昭和ライト/叙々苑/シルバー産業新聞社/新学社/宣伝会議/タウンニュース社/学校法人高橋学園/宝印刷/タツノコプロ/千葉県教育委員会/つくばテレビ/DMM.com Group/学校法人帝京平成大学/東京三光/東京スポーツ新聞社/東京スマイル農業協同組合/東北新社/東横イン/図書館流通センター/長野県農業共済組合/日能研関東/日研トータルソーシング/日産証券/日本司法支援センター/日本出版販売/学校法人日本大学/日本郵便(日本郵政グループ)/日本経済社/博報堂プロダクツ/びえろ/フィール/学校法人福井精華学園 啓新高等学校/福島県庁/福島県南相馬市役所/福島民友新聞社/ブシロード/二葉企画/プリントネット/プリントボーイ/報知新聞社/星野リゾート/北海道建設新聞社/マーキュリー/松沢書店/MAPPA/みなと山口合同新聞社/横浜メディアアド/読売情報開発/良品計画 ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 新井敏記
(スイッチ・パブリッシング代表取締役) | 中島歩(俳優) |
| 石井光太
(ノンフィクション作家) | 人間六度(作家) |
| 歌広場淳(ゴールデンボンバー)
(ミュージシャン) | 額賀滯(作家) |
| 梅津端樹(俳優) | 林真理子(作家) |
| 大鶴義丹(作家、俳優) | 文ノ柳(漫画家) |
| 沖本敦子(編集者) | 松崎しげる(歌手) |
| 小沼理(文筆家) | 水口哲也
(ゲームクリエイター) |
| 木村友祐(作家) | 村田椰融(漫画家) |
| 佐藤弘(作家) | 群ようこ
(作家、エッセイスト) |
| 関井光男(文芸批評家) | 吉本ばなな(作家) |
| 高城剛
(ハイパーメディアクリエイター) | 吉田恵里香(脚本家) |
| 塚本直毅
(ラブレターズ)(お笑い芸人) | ラブリイ・サマーちゃん
(ミュージシャン) |
| 豊田百香(脚本家) | ロケット商会(作家) |
| | ほか |



演劇学科

Theatre

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[演劇学科 HPへ](#)



専任教員

奥山緑 教授

小林直弥 教授

中野成樹 教授

松永雅彦 教授

松山立 教授

山口英峰 教授

青木拓也 専任講師

今井春日 専任講師

富永美夏 専任講師

南香織 専任講師

大池容子 助教



奥山緑 教授

松永雅彦 教授

青木拓也 専任講師

南香織 専任講師

小林直弥 教授

松山立 教授

今井春日 専任講師

大池容子 助教

中野成樹 教授

山口英峰 教授

富永美夏 専任講師

舞台上で培う表現力と コミュニケーション力が 社会へのパスポート

舞台作りに熱中する学生たちが
日々切磋琢磨しています。
舞台芸術の理論と実践を専門的かつ
横断的に学び、舞台創造の力を
身につけることで、自らの道を切りひらき、
社会の様々な分野で活躍できる人材を育成します。

学びのポイント

2 「理論」と「実践」

「理論」と「実践」の2分野からなる
カリキュラムの中で、舞台芸術の歴史や
重要な「理論」を学ぶとともに、舞台芸術の
専門家になるために必要となる「実践」的な
表現方法や技術の学修に進みます。
さらに、最新の舞台芸術界の潮流に
応用するためのカリキュラムも
提供していきます。



1 3つのコース、10の専攻

- 舞台構想コース（創作、演出、企画制作）
- 演技舞踊コース（演技、舞踊）
- デザイン技術コース
（美術、照明、衣裳、音響、舞台監督）

各コースでは高い専門性を保ちながら
横断的な学びを自らレイアウト
することができます。

3 多様な成果発表

2年次以降は各専攻が協調して実習室や
小ホールでの小規模発表や中ホールを使用した
学生企画によるイベント、地域貢献活動、
フルプロダクションによる公演などを行い、
他学科や地域、学外（公共や民間）との
共同プロジェクトを推進し
多様な成果発表を行います。



3コース10専攻に分かれ、
舞台芸術に関する知識や技術を学びます。

舞台構想コース

●劇作専攻

古今東西の名作戯曲を声に出して読むことで、どのような趣向や手法が使われているのかを学び、個人創作だけではなく集団創作を通して自分なりの文体を獲得することを目指します。

●演出専攻

演出は、演技指導などを通して舞台を創造しまとめ上げる役割を担っています。この専攻では、戯曲読解、テーマの立体化をキーワードに、広範囲にわたる理念や技術修得の、一歩目をスタートさせます。

●企画制作専攻

舞台芸術の魅力とは何でしょう？ そんな簡単な質問に自分の言葉で答えることから勉強を始めましょう。世の中の動きと人の心に注目しつつ、舞台芸術プロデュースの基礎から海外の最新トピックまでを深く学びます。



演技舞踊コース

●演技専攻

演者に必要な基本的理論、舞台表現方法、そして技術を体得します。また、演技実習などの各実習を通じて、体験と修練を重ねます。

●舞踊専攻

舞踊の理論と歴史、身体表現の専門的知識と技術を習得します。さらに創作法を学ぶことにより、身体表現の可能性と、自らの表現の視野を広げ、作品を生み出す力を育成します。



デザイン技術コース

●美術専攻

舞台美術は、空間と時間を同時に扱うデザイン分野です。この専攻では、企画や戯曲、演出の意図に寄り添い助ける劇空間を構成する方法と、自らの発想を伝えるための技術を実践的に学びます。

●照明専攻

舞台照明の基礎理論、方法論、機器操作技術を身に付けると同時に、あらゆるジャンルの作品の創作過程やそれぞれの考え方に触れながら照明デザインをととは何かを模索します。

●衣裳専攻

衣裳は舞台の中で最も“人”に近い役割を担っています。様々な衣の種類を学び、衣裳デザインの発想力・提案するプレゼン力・製作する実現力・現場での進行力をコミュニケーションと実践で身につけていきます。

●音響専攻

芸術創造に必要な舞台音響の基礎的知識と技術を学びます。実践的な授業を通じて、「音」という視点から多様な舞台表現に向き合い、具現化するための力を培います。

●舞台監督専攻

舞台監督の役割は、公演制作におけるリハーサル等の管理運営、上演における進行と多岐にわたります。本専攻は公演制作における予算や時間の効果的な使い方や、演出効果についての安全性と再現性を学びます。





学びの方針

演劇学科では、様々な分野でプロフェッショナルとして活躍するための「理論」と「実践」を盛り込んだ講義や演習、実習科目を配置し、4年間の学び集大成として挑む卒業研究（舞台発表による卒業制作や理論研究成果である卒業論文）を頂点とした教育を行っています。さらに、各コースや専攻での学びを創造的に発展させた多様な成果発表や他の芸術領域や芸術教養科目での学びも加えることで、幅広い視野を持ち、ジャンルを超えて芸術創造活動に携わる能力が身につくようにカリキュラムを構成しています。各授業では「教わる」のではなく「自ら学び考える」力を養い、発想力や思考力、また基礎を学んだ上で応用力を伸ばし、芸術創造に必要な教養やスキルの獲得を促すことで実践に導いています。



卒業認定の考え方

演劇学科では、各コース・専攻の講座や演習で専門知識や理論を学びながら、同時にそれぞれの実習授業において実践的な学びを修得できたかを測ります。

学位の授与

1年次から履修可能な各領域の演習、2年次以降の発表を伴う実習、また3年次から研究領域に応じて選択するゼミナールを経て、最終学年では卒業見込み認定単位修得者に対し、卒業研究において4年間の学修成果を見極め、卒業時に「学士（芸術）」を授与します。

卒業認定の基準

舞台芸術の理論と実践を基盤とし、知識や技能の集積だけでなく、それらを幅広く応用し、発展させることができる能力を養い、さらにその力を用いて、社会で活躍できる実力を修得できたかを最終的な卒業認定の基準としています。

求める入学者像

舞台芸術作品には、劇作、演出、企画制作、演技、舞踊、美術、照明、衣裳、音響、舞台監督をはじめとした多くの領域が関わります。その各領域は、主張と協調を重ねながらそれぞれが作品創造を先へ先へと導いていきます。演劇学科では、この舞台創造の根底にある仕組みを活かしながら、理論、歴史、技法、表現とともに学ぶために豊かなコミュニケーション能力と舞台芸術や創作に対する強い熱意をもつ人材を求めています。「舞台創造を学ぶ中で“化学反応し進化する力”を養い、自分のスキルを成長させ、将来の仕事としたい」「個々の創造力を大切にし、その違いを尊重しあいながら獲得したリーダーシップで社会に活躍の場を見出したい」。そのような人との出会いをお待ちしています。



「理論と実践」「基礎と応用」「専門と総合」のバランスに配慮したカリキュラムと、学生の個性や習熟度に応じたゼミナール等の少人数教育を実施しています。

- ・演劇概論
- ・戯曲論
- ・演出論
- ・演技論
- ・演劇学
- ・舞踊学
- ・劇場論
- ・舞踊論
- ・演劇教育論
- ・演劇史
- ・舞踊史
- ・特殊研究
- ・作家作品研究
- ・古典演劇研究
- ・現代演劇研究
- ・応用演劇研究
- ・演劇批評研究
- ・会計入門
- ・マーケティング入門
- ・演技基礎
- ・舞台芸術基礎
- ・演劇教育基礎
- ・舞台扮装基礎
- ・舞踊基礎
- ・応用演劇基礎
- ・劇作基礎
- ・演出基礎
- ・舞台音響基礎
- ・舞台監督基礎
- ・企画制作基礎
- ・舞台美術基礎
- ・舞台照明基礎
- ・舞台衣裳基礎
- ・アウトリーチ
- ・劇作実習
- ・演出実習
- ・演技実習
- ・日本舞踊実習
- ・舞踊実習
- ・舞台美術実習
- ・舞台照明実習
- ・舞台音響実習
- ・舞台監督実習
- ・舞台衣裳実習
- ・企画制作
- ・身体表現実習
- ・特殊実習
- ・ゼミナール
- ・卒業研究

施設

高性能な照明・音響設備と249席を有する中ホールをはじめ、小ホール、実習室1～6(稽古場)、作業場 workshop A、録音スタジオなどを完備し、学科生の様々な創作活動をサポートしています。



録音スタジオ



中ホール



小ホール



実習室6



workshop A



授業風景

舞台の計画、準備から上演まで、すべてのプロセスを学生たちがみずから担当することで、舞台芸術への理解を深め、実践の場で役立つスキルの基礎を身につけていきます。



- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

舞踊コース 日舞専攻 3年
(現 演技舞踊コース)

かた おか
片岡 さくらさん



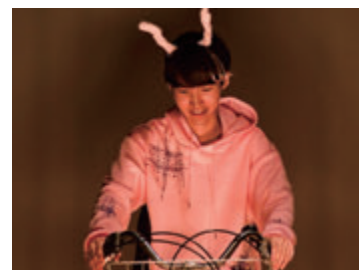
- ① 日本舞踊は古典のみだと思っていた高校生の時に初めて日本舞踊の新作公演を拝見しました。とても印象的で私も作品を創ってみたいと思い受験を決めました。
- ② 日本舞踊実習です。踊りを創作するには基礎となる古典をしっかり身に付けたいと改めて大学に入ってから感じました。
- ③ 入っていません。同期がサークルに入っているのですが他学科との交流も増えてとても楽しそうで羨ましいです。
- ④ 空き時間に稽古場の前のフリースペースでパズルをしたり、お互いの舞台の近況報告などをしたりして交流を深めています。
- ⑤ 他学科公開の授業などグループワークで交流があります。友達の友達など学生ならではの交流もたくさんあります。
- ⑥ 舞踊大会、劇団四季、パレエなど幅広く演劇を見るようにしています。どの演劇にも必ず見ている人を楽しませる工夫があるのでとても勉強になります。
- ⑦ 学校の近くのチェーン居酒屋で月1程度しています。いろいろなバイトをして社会経験をしたいのですが今は時間がないのでシフトの融通が良くバイトにしています。
- ⑧ 3歳から日本舞踊を教えていただいている師匠です。日本舞踊のみならずあらゆる角度から日本の伝統文化普及を行っており心から尊敬しております。
- ⑨ 素敵な伝統文化である日本舞踊を知らない人がたくさんいるので日本のみならず海外へも日本舞踊の魅力を届けたいと思っています。
- ⑩ とても偉大な先生に教えて頂けることはもちろん、個性的な学生がたくさんいるので演劇への見え方がい方向に広がると嬉しいです！とても楽しいです！



舞台構想コース
演出専攻 2年
ながくら みお
永倉 海生さん



- ① 高校で演劇部に所属していましたが、演劇をもっと深く学びたかったのと、自分の将来に必要なことが学べるのではないかと考えたからです。
- ② 演出実習Iです。戯曲の読み解き方、読み解いたものを稽古場へ立体化する方法などを学べます。活発な実習の時間になっていると思います。
- ③ 入っていません。
- ④ 2025年に行われたシビウ国際演劇祭に先生方、先輩方、同期と参加しました。本学から「Pink Terror Sweet Dream 3」という作品を持って行ったのですが、私は舞台監督とインターナショナルボランティアとして参加させていただきました。
- ⑤ 1年生の時に日藝祭で8学科共同演劇を創りました。演劇は他学科の学生と共同で作品を創る機会が多い印象です。
- ⑥ 常に東京ディズニーリゾートです。中学1年生の時からずっと夢を追いかけています。
- ⑦ ホテルのブッフェレストランのホールで働いています。海外の方とお話する機会も多く、とても楽しいです。
- ⑧ 先生方も先輩方も同期も皆何かに真っ直ぐで、とても尊敬しています。関わる全ての人からいろいろなことを学んでいます。
- ⑨ 株式会社オリエンタルランドに入社して東京ディズニーリゾートのショーやパレードを手がけるステージマネージャーになりたいです。誰かの生きる活力になるようなショーを創りたいです。
- ⑩ 日藝は舞台芸術を学ぶ最高の場所であると自信を持って言えます。



○卒業後の進路

劇場、興行会社、劇団、プロダクション、美術製作会社、照明会社など舞台関係だけでなく、映像業界や、培ったコミュニケーション能力を活かして一般企業に進む人もいます。

【過去5年間の実績】

アート・ステージライティンググループ/IVSテレビ制作/青二プロダクション/イオンエンターテイメント/エアライツ/大田区/オープンハウス/岡山県教育委員会/岡山文化芸術創造/尾木プロ THE NEXT/オスカープロモーション/オフィス新音/オリエンタルランド/オリコン/角川大映スタジオ/共立/キラリ財団/クリエイティブ・アート・シンク/神奈川芸術文化財団/工房いち/国立病院機構 関東信越グループ/こまどり芸術学園 平多正於舞踊研究所/さいたま市文化振興事業団/狭山ケーブルテレビ/サンリオエンターテイメント/シアターコミュニケーションシステムズ/シアターワークショップ/四季/時事通信社/シミズオクト/新国立劇場運営財団/ステージファクトリー/ステージワークURAK/スペースクラフト・エンタテインメント/せたがや文化財団/全国農業協同組合連合会/総合舞台/ソニー・ミュージックアーティスツ/ダイワグループ/宝塚歌劇団/宝塚舞台/タカラトミー/立川市/チームラボ/電通プロモーションプラス/東急文化村/東京演劇集団風/東京會館/東京シティ・パレエ団/東京都教育委員会/東宝芸能/東北新社/所沢市文化振興事業団/日本芸術文化振興会(国立劇場)/ネルケプランニング/俳優座劇場/博報堂プロダクツ/バンダイナムコミュージック/東日本放送/福武財団/藤浪小道具/マガジンハウス/マッドハウス/マナセプロダクション/ミクシィ/無名塾/明治座舞台/山口県萩市役所/ヤマハサウンドシステム/USEN-NEXT HOLDINGS/横浜アニメーションラボ/読書テレビ放送/ライティングカンパニーあかり組/ワタナベエンターテインメントほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

石田彰(声優)	高橋英樹(俳優)
板垣恭一(演出家)	立川志らく(落語家)
板橋駿谷(俳優、ラッパー)	田中哲司(俳優)
伊藤蘭(俳優)	塚本悟(舞台照明家)
大澄賢也(俳優)	テツandトモ(タレント)
太田光/田中裕二(爆笑問題)(タレント)	富永みーな(声優)
岡本瑩(劇作家、脚本家)	中村彰男(俳優)
小沢淳(舞台照明家)	中村獅童(歌舞伎俳優)
門田宗大(俳優)	中村虎之介(歌舞伎俳優)
加納幸和(俳優、劇作家、演出家)	潘めぐみ(声優)
河合優実(俳優)	藤川靖彦(花絵師)
川原和久(俳優)	古川登志夫(声優、ナレーター)
桐竹勘次郎(文楽人形遣い)	松崎史也(演出家)
木原実(俳優、気象予報士)	川原和久(俳優)
串岡良太郎(TBSアクト)	上見愛(俳優)
串田和美(演出家、俳優)	宮本裕子(俳優)
小森谷徹(タレント)	三谷幸喜(脚本家)
篠井英介(俳優)	本仮屋ユイカ(俳優)
白鳥久美子(たんぽぽ)(お笑い芸人)	山田和也(演出家)
	山田寛人(声優)
	ほか

放送学科

Broadcasting

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

[放送学科 HPへ](#)



専任教員

安部裕 教授

茅原良平 教授

小林偉 教授

坪内一樹 教授

中町綾子 教授

星野裕 教授

沼田真明 准教授

澤田顕一 専任講師

7つの実習と多彩な講座で、 放送を多角的に学び、 「発信力」を身に付ける。

テレビ、ラジオ、インターネット、
メディアが日々更新されていく現代において、
ニュース、ドラマ、エンターテインメントなど
「放送」は多様な役割を担っています。
理論と実践を通して時代を読む力と創作能力を育み、
社会に発信するための確かな基盤を築きます。



学びのポイント

2 多彩な専門科目

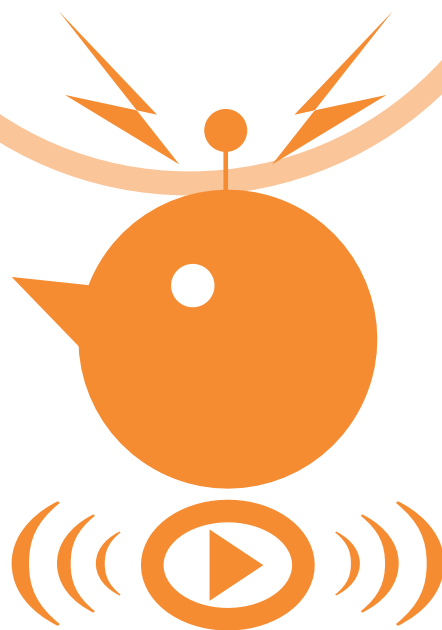
理論歴史部門、研究部門、表現技術部門の
多彩な専門講座や豊富な演習を通して、
放送に関わる幅広い教養と専門知識を究め、
時代が求める真の発信力を育みます。
専門分野の枠を超えて履修できる、
「企画」「番組企画構成」
「コピーライティング」「ニュース分析」
「取材調査」「照明」
などの演習も設置しています。

1 7つの専門分野

1年次前期に「放送基礎実習」で基礎的な
知識と技術を身につけます。
後期からは**テレビ制作・ラジオ制作・映像技術・
音響技術・CM・脚本・アナウンス**の
7専攻に分かれ、2年、3年、4年次へと、
実習を軸に専門分野の学びを段階的・多層的に
深めていきます。

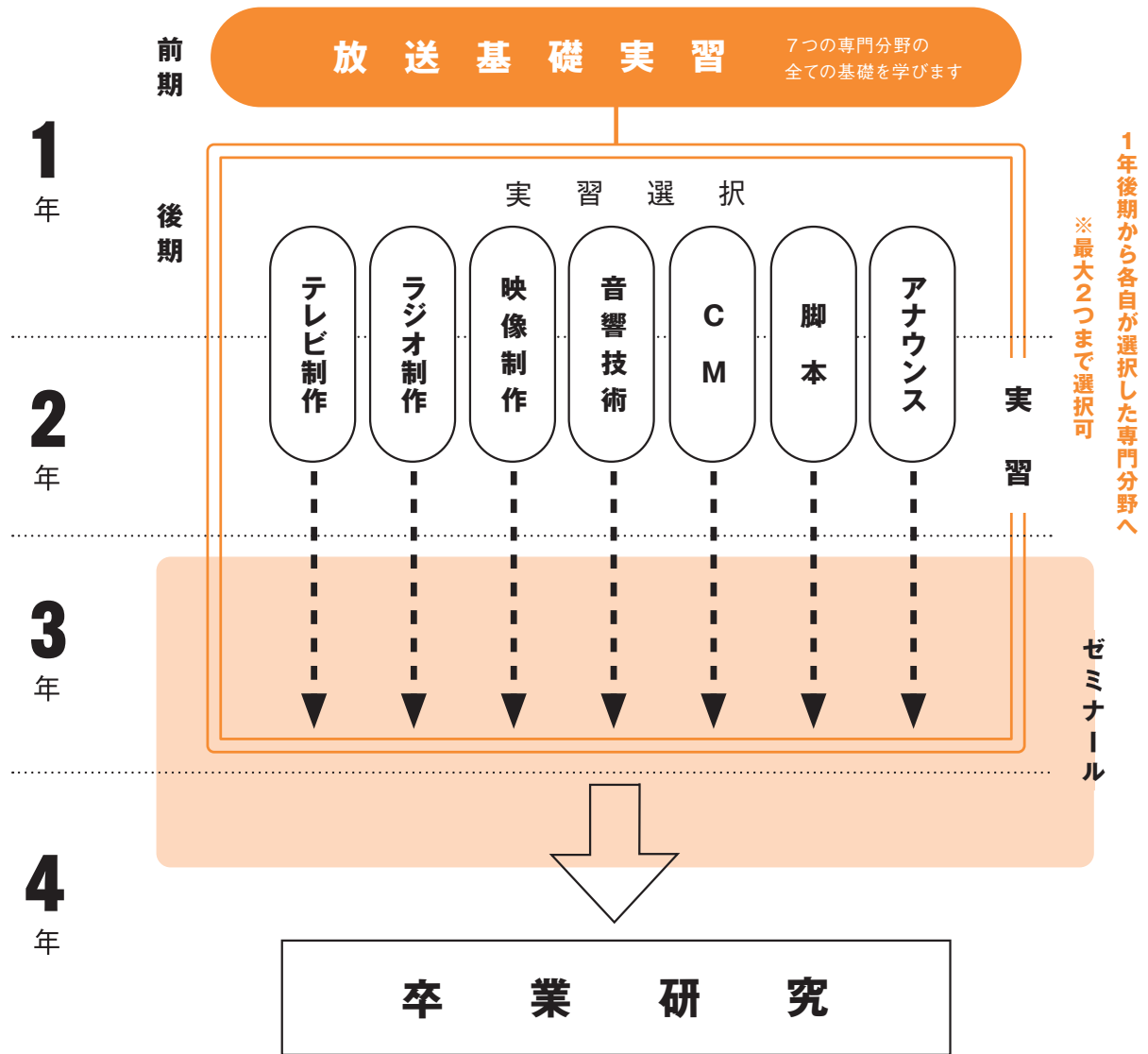
3 卒業研究

3・4年次では、それぞれが設定する
研究テーマに基づいてゼミナールに所属し、
卒業論文あるいは**卒業制作（映像作品・
音響作品・脚本・朗読発表・アナウンス）**に取り組み、
4年間の学びの集大成とすることを目指します。
理想的な環境で創作活動に打ち込めるよう、
常に学生をサポートしています。





4年間の流れ



7分野の実習に加えて、専門分野の枠を越えて履修できる「企画」「番組企画構成」「コピーライティング」「ニュース分析」「取材調査」「照明」などの演習を数多く設置。視野を広げ、マルチな才能を伸ばすことができます。



放送概論
ラジオ史
テレビ史
放送制度論
放送契約論
メディア研究
広告とマーケティング戦略

放送作品研究
放送技術研究
放送脚本論
ラジオ演出論
テレビ演出論
放送表現と人権
放送美術論

放送広告論
放送報道論
放送技術概論
音響技術論
映像技術論
放送表現研究
企画演習

取材調査演習
照明演習
コピーライティング
番組企画構成演習
ニュース分析

実習

1年次の後期から、7つの専門分野で段階制の実習を設置。放送の世界で求められる創作力、表現力をレベルアップしていきます。



テレビ制作

実際の番組を想定して、企画立案から作品完成まで実践的な経験を積みます。作品を制作する上では、テレビ番組の社会的な役割や影響力を十分に認識し、受け手を意識した制作姿勢が不可欠です。そのため、題材を発掘する目を養うことから始め、作品制作を通して構成力や表現方法など、演出的な考え方を身につけていきます。また、共同で制作することの難しさや尊さを体感しながら協調性や責任感を学び、実社会で通用する人材を育成します。



ラジオ制作

音楽番組、ドラマ、録音構成など、音響作品を制作するための演出や技術、創造性を磨きます。スタジオワークを通して、音響表現の知識・技術を修得し、ドラマをはじめとした音響作品や様々な形式の番組を企画制作します。実践的な学びにより制作者としての創造性を高め、高度な演出力を育みます。自分の思い描くイメージを音と言葉でどのように紡ぎ、作品に結実させるかを意識し、制作を積み重ねながら、個々の感性や能力を高めていきます。



映像技術

実際に番組制作を行いながら、テレビ映像の技術を理論と実技の両面から追求します。「映像技術Ⅰ」ではロケーション、ノンリニア編集の基礎技術を、「映像技術Ⅱ・Ⅲ」ではテレビスタジオを使った番組制作を通して、カメラワーク、ビデオスイッチング、オーディオミキシング、照明技術を学びます。「映像技術Ⅳ・Ⅴ」ではさらに、ドラマ撮影技術、中継技術、MA技術など、高度な実践力を身につけます。



音響技術

テレビ・ラジオなど放送の音声を起点に、広い分野の音響技術を理論と実践を通して学びます。スタジオでの実習で放送ミキシングの基礎や音楽録音の基礎技術を身につけ、デジタルオーディオワークステーションを使った音楽収録と編集・ミックスなど、理論と並行して専門的な技術を段階的に習得します。さらに、テレビ番組制作に必要なMA技術や、最新の音響技術も幅広く取り上げます。音に関する感性を育み、確かな専門技術力を備え、放送分野に限らず新しい音の世界を切り開いていける人材を育成しています。



CM

CMクリエイターの育成が目的の実習です。ラジオ・テレビCMを企画制作するための基礎知識を理解した上で、企画の発想、コピーライティング、コンテ作成、プレゼンテーション、CM制作までの実践的なトレーニングを行っていきます。企画から実践まで一貫して学ぶことでCM制作のメカニズムを理解するとともに、時代や個性を意識しながら創造力を高めます。「放送広告論」「コピーライティング」「広告とマーケティング戦略」「放送作品研究」など、様々な面からCMを考える科目を用意し、クリエイターとしての資質を引き出します。



脚本

テレビドラマ脚本の執筆に取り組みます。映像ドラマの特質をふまえた執筆技術の習得、作家としての自己のテーマの発見、メッセージの深化を目指して実習を展開していきます。課題は個人ワークを中心としますが、企画、執筆作品のチェック等それぞれの段階で、ディスカッションを通して作品（やアイデア）を練り上げ、受講者が互いの意見を交換したり、脚本を分析しあったりする機会を積極的に設けています。リライトを重ねて完成度を高めることで脚本執筆の力を養います。



アナウンス

言語によるコミュニケーション能力の向上を目標としています。そのためにもまず、呼吸法・発声・発音の基礎を学び、さらに五十音・滑舌・イントネーション・アクセントなどを反復練習することで標準語の音声表現に不可欠な技術を身につけます。ドキュメンタリーのナレーション、CM、朗読など、個別指導で各々の感性を尊重しつつ表現の可能性を探求します。同時に語彙力を高め、世の中の出来事や動きに日々意識を向けさせることで、実社会が求める「TPOに応じて、自分の考えを、自分の言葉で、簡潔に相手に伝える」能力を育てます。



施設

映像設備では、最新デジタル機器を備えたテレビスタジオをはじめ、ネットワーク接続による映像収録・送出・管理が行えるシステムを完備。他にビデオ編集室、技術センター、さらに放送、広告関係の膨大な資料や文献を閲覧できる貴重な資料室もあります。



テレビスタジオ1サブ



録音スタジオAサブ



スタジオカメラ



放送資料室



ビデオ編集室

学科の活動 (地域貢献)



中学生のためのワークショップ

中学生向けの情報番組制作ワークショップを毎年夏に開催しています(練馬区教育委員会主催情報教育推進事業)。地域社会と連携し、メディアリテラシーの向上を図っています。



- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

テレビ制作・音響技術専攻 3年
さいとう ありさ
齊藤 有咲さん



- ① 高校の部活で舞台のスタッフを経験し、裏から表を支える仕事に興味を持つようになりました。もともとテレビの制作スタッフに憧れがあり、放送学科を選びました。
- ② テレビ制作と音響技術の実習です。実習を2つ選択していることで、制作と技術、両方の視点を持って制作に取り組むことができます。
- ③ 日芸祭で物販展示を行うKazariorというサークルに所属しています。昔からの夢だったオリジナルグッズ制作ができ、とてもいい経験になりました。
- ④ 放送学科の有志団体「藝ホウ」で、音声スタッフとして番組制作に携わっています。実習の異なる友人や後輩と一緒に制作できる、貴重な学びの場です。
- ⑤ 演劇が好きなので演劇学科の公演にはよく足を運んでいます。直接話す機会はあまりありませんが、実習で関わった方を見かけると少し嬉しくなります。
- ⑥ 視聴者参加型のコンテンツに注目しています。自分が物語に介入できる点が面白く、リアルタイムで展開が変わっていくところに魅力を感じています。
- ⑦ 居酒屋とテレビ番組の音声アシスタントのアルバイトをしています。先生方・先輩方からの紹介など、放送関連の仕事に関わるチャンスは多いように感じます。
- ⑧ 先生方はもちろん、助手さんや技術員さんも同じように尊敬しています。日々の実習をはじめ授業全般を支えてくださり、感謝しかありません。
- ⑨ 生放送や中継技術に携わるテレビの音声スタッフを目指しています。5年後には、MIXやシステム構築にも対応できるくらいに成長していたいと思います。
- ⑩ 所属する学科だけでなく興味のある他学科の授業も受けられます。自分のやりたいことに何でも挑戦できる環境だと思います！



アナウンス・映像技術専攻 2年
やまもと くう
山本 空さん



- ① 小学生の頃から放送に興味を持ち、将来の夢はこの道しかないかと決めていたからです。
- ② 映像技術。どうすれば映像で「伝わる」か考えながらカメラや照明、時には司会者の視点に立って収録します。皆の特技や理想がここで形になります。
- ③ 日藝テレビ報道研究会というサークルを運営しています。「報道で想いを力に、声を形に」をモットーに日々時事や報道番組を研究しています。
- ④ 芸祭でテレビ・ラジオ番組を制作する「藝ホウ」という団体に入っています。芸人さんと呼んだバラエティ番組の司会や、ラジオDJなどを務めました。
- ⑤ 映像学科の自主制作映画の試写会の司会をしました。同じ映像を扱う学科ですが制作への向き合い方の違いに触れ、大変刺激になりました。
- ⑥ 『みんなで創る防災・減災』というYouTubeチャンネルです。将来起こりうる災害の発生時の過程をニュース番組仕立てで知ることができます。
- ⑦ 競馬実況中継の補助をしています。放送学科には先輩から代々、放送局のアルバイトを引き継ぐ伝統があり、このバイトも10年以上引き継がれています。
- ⑧ 昨年卒業され、とある放送局に入られた先輩です。在学中に熱意を持って研究なさっていた事、制作されていた事を存分に活かして活躍されています。
- ⑨ アナウンサーになる事です。喜びや悲しみ、感情など形の無いものに正確な言葉を与えて多くの方に伝える、そんな仕事をしているはずですよ。
- ⑩ 世界中、様々な学生がいますが、毎週、番組収録をする学生はどれほどいるでしょうか。日藝で本気で学ぶことが出来れば確実にあなたの強みになります。



○卒業後の進路

テレビ・ラジオ局、番組制作会社、広告代理店などへ多数進出しています。
脚本家、アナウンサー、放送作家、タレントとして活躍する卒業生もいます。

【過去5年間の実績】

IVS テレビ制作 / AOI Pro. / 秋田テレビ / 泉放送制作 / 茨城放送 / IMAGICA エンタテインメントメディアサービス / IMAGICA Lab. / EIGHT / ANA エアポートサービス / A-1Pictures / NHK テクノロジーズ / NHK (日本放送協会) / NST 新潟総合テレビ / エフエム沖縄 / エフエム仙台 / エフエム富士 / 鹿児島テレビ放送 / 共同エディット / 共同テレビジョン / 共立映像 / きらぼし銀行 / 熊本朝日放送 / クリエイトィブネクス / 警視庁 / 山陰放送 / サンスター / ショプロ / 静岡朝日テレビ / 静岡新聞社 / 静岡放送 / ジュビターテレコム / 進研アド / スプーン / 住友林業 / セガ / 宣伝会議 / 総合舞台 / ソラシドエア / 大日本印刷 / 太陽企画 / 大和ハウス工業 / ディー・エヌ・イー / TBS アクト / TBS スパークル / TYO / テレビ朝日メディアブックス / テレビ静岡 / テレビ信州 / テレビマンユニオン / 電通九州 / 電通クリエイティブX / 電通デジタル / 東急エージェンシー / 東京サウンド・プロダクション / 東京消防庁 / 東京メトロポリタンテレビジョン / 東通 / 東通企画 / 東北新社 / とちぎテレビ / 西日本放送 / 日テレアクセスオン / 日テレ・テクニカル・リソース / 日本テレビ放送網 / 博報堂プロダクツ / バンダイナムコアーツ / ビーエスフジ / 福井テレビジョン放送 / 福島中央テレビ / フジクリエイティブコーポレーション / フジテレビジョン / フジ・メディア・テクノロジー / 放送技術社 / 北陸朝日放送 / 北海道テレビ放送 / マイナビ / 三井ホーム / 明治座 / 山形テレビ / 山形放送 / 山口朝日放送 / 山日 YBS グループ / 吉本興業ホールディングス / 読売エージェンシー / ルイ・ヴィトンジャパン / ロボット / WOWOW エンタテインメント ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

家田荘子 (ノンフィクション作家、僧侶)
井上佳央里 (RadioTalk 代表取締役、起業家)
おおたうに (イラストレーター)
小野大輔 (声優)
春日太一 (時代劇・映画史研究者)
川内有緒 (ノンフィクション作家)
君塚良一 (脚本家、放送作家、映画監督)
宮藤官九郎 (脚本家、俳優、映画監督)
倉田大誠 (アナウンサー)
五味一男 (演出家、プロデューサー)
小山薫堂 (放送作家)
近藤サト (フリーアナウンサー、ナレーター)
佐藤雄介 (CMプランナー、コピーライター)

春風亭一之輔 (落語家)
白壁里沙子 (アナウンサー)
菅賢治 (テレビプロデューサー)
高田文夫 (放送作家、タレント)
田辺真南葉 (キャスター)
千田洸陽 (テレビディレクター)
中井美穂 (フリーアナウンサー)
中園ミホ (脚本家)
中田有紀 (フリーアナウンサー)
南雲聖一 (演出家)
野口雄大 (ドラマディレクター、映画監督)
平山秀幸 (映画監督)
松本茜 (ジャズピアニスト)
松本明子 (テレビドラマプロデューサー)
道上珠妃 (ダウ90000) (俳優、お笑い芸人)
村山仁志 (アナウンサー、小説家)
森本レオ (俳優、声優)
諸星和義 (テレビ埼玉局員)
矢野健一 (CMプロデューサー)
山崎隆明 (クリエイティブディレクター)
若松節朗 (映画監督)
ほか

デザイン学科

Design

より詳しく

教員スタッフ
授業紹介
など

デザイン学科 HPへ



専任教員

池田光宏 教授
笠井則幸 教授
佐藤徹 教授

長瀬浩明 教授
若原一貴 教授
石田純之助 准教授

西村優子 准教授
布目幹人 准教授
大河原健太 専任講師

片桐祥太 専任講師
谷口聡子 専任講師

モノ・コトの本質を探り、 新たな視界をひらく 提案型のデザイナーに

デザインには私たちの社会環境や生活をより豊かで快適にする役割があります。幅広くデザインを学び、既成概念にとらわれない思考力、柔軟な発想力、確かな技術力を修得し、次のスタンダードを創造するデザイナーを目指します。



学びのポイント

2 確実に力をつける ステップアッププログラム

1年次では、観察力と表現力を養いデザインの**基礎知識**と**技術**を修得。
2年次からは**自らが選択した分野**を中心に、分野を超えて多角的な視野を養い、多様な問題に対する**デザイン思考**を深めていきます。
3年次には**実践的なデザイン業務**も体験。ものごとを横断的に捉える見方を身につけ、4年次の**卒業制作**に繋げていきます。

1 芸術と技術の統合

「**芸術と技術の統合**」を掲げた**ドイツ・造形学校バウハウスの教育システム**を継承し、豊かな感性と鋭い洞察力を身につけた、総合的視野と造形力のある人物を育成しています。
異なる要素を高い次元で融合させる実力とセンスを磨き、社会に貢献するデザインの可能性を広げます。

3 充実した 学外コラボレーション

他校、地域、企業とのコラボレーションプロジェクトを通してデザインの新たな可能性を追求し、その成果を広く社会に発信する取り組みを行っています。
教室やアトリエを飛び出し、プロのデザイナーや制作者とともにデザインの実践過程を学ぶことで、学習意欲を刺激する貴重な経験を積むことができます。



1年次はデザインの基礎を総合的に学び、2年次以上はデザイン学科の3つの専門分野（ビジュアルコミュニケーション、プロダクト、建築）のいずれかを選択します。また専門分野以外の授業を選択することも可能で、デザインを領域横断的に学べるカリキュラムになっています。



ビジュアルコミュニケーションデザイン分野

ビジュアルコミュニケーションデザイン分野は、ブランディング、広告、パッケージ、エディトリアル、ビジュアルアイデンティティ、サイン計画、タイポグラフィ、イラストレーション、ウェブ、インタラクティブデザインなどの広範囲な領域が含まれています。グラフィックデザインを基盤に多様なメディアを横断的に活用し「みる」という行為を通じたコミュニケーションについて総合的かつ実践的に学びます。急速なデジタル技術の変化と広がりがある私たちの暮らしの中に浸透していく中で、その今日的な課題と向き合うとともに、コミュニケーションの本質を問い、その新たな可能性を探ります。



プロダクトデザイン分野

プロダクトデザインでは、自動車や家電をはじめ、情報通信、オフィス、医療福祉、雑貨、文具、家具、玩具など、身の回りのすべての製品がその対象になります。また現在では情報機器のインターフェイスをはじめ、生活を取り巻く環境や社会システムにまで広がりを見せています。本学科では「多元的にモノゴトを見て考える思考力」「生活の中に潜む諸問題を発見する観察眼」を養い、さらにはその解決策を魅力的に提案、実践できる人材を育成します。快適で豊かな暮らしを実現するためにデザイナーはどうあるべきか、グローバルな時代の変化に対応するため、教育内容も日々柔軟に更新しています。



建築デザイン分野

建築デザイン分野を選択した学生たちは、内装デザイン、住宅・集合住宅、公共施設など様々なスケールの課題に取り組みます。その中で設計を理論だけでなく、木や鉄といった本物の素材に触れることで身体感覚を養い、独創的な造形を創造すべく課題に取り組んでいます。また、所定の理論・演習科目を修得することで、木造建築士・二級建築士・一級建築士の受験資格を得ることが可能です。4年次では各自が自由にテーマを設定し、担当教員による少人数ゼミを通じてじっくりと卒業制作に取り組めます。卒業後は設計事務所をはじめ、様々な分野で活躍する人材を輩出しています。

4年間の流れ

1 年次

理論と技法の両面からデザインの基礎を習得するとともに、デザインワークショップを通じて3つの分野（ビジュアルコミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン、建築デザイン）を総合的に学びます。

2 年次

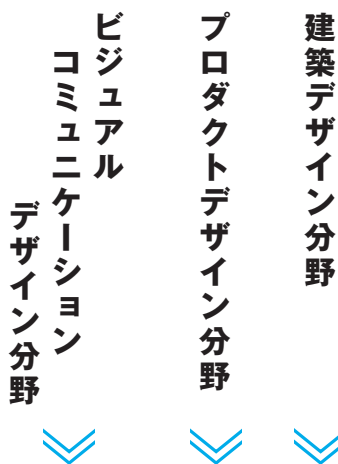
自分が選択した分野を核にしたカリキュラムを各自が計画し、デザインの「理論」「歴史」「演習」などの科目を通じて、デザインの手法、知識を深めます。これにより分野を超えて多角的な視野を養いつつ、デザインの多様性を学ぶことができます。

3 年次

選択分野の専門性をさらに深めるために「インターンシップ」「総合演習」「産学連携プロジェクト」などの活動があります。社会におけるデザイン実務を学び、物事を横断的に捉える見方や考え方を身につけていきます。

4 年次

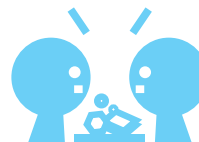
個々の関心や問題意識から独自のテーマを設定し、企画、調査、発想、制作、提案といったプロセスを通じて習得したデザイン手法を駆使し、4年間の集大成として卒業制作にとり組みます。



学外実習

◎カウンセリング

本人に適したデザインの分野やその後の方向性について、複数分野の教員がアドバイスをします。



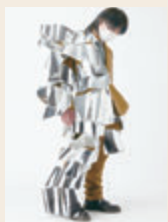
銀座和光のディスプレイ



芸術資料館での作品審査



卒業制作展 会場



デザインフィールドワークショップ
課題「建築を着る」

世界の名建築を調べ、その時代背景や思想を発表。同時に自分の身体を使いその建築を表現する課題。最終講評ではファッションショーも行う。写真はF・ゲーリーのビルバオ・グッゲンハイム美術館と伊勢丹新宿本店をテーマに制作した学生作品。



スペースデザインⅣ
課題「銀座・和光の
ウィンドウディスプレイ」

銀座和光のショーウィンドウを学生がデザインする実践的な課題。クライアントへのプレゼンテーションを通過した提案をプロフェッショナルな専門技術のアドバイスを受けて実現させる。

将来、デザイナーとして活躍するために必要な知識・経験を積むことができます。

こんな授業があります



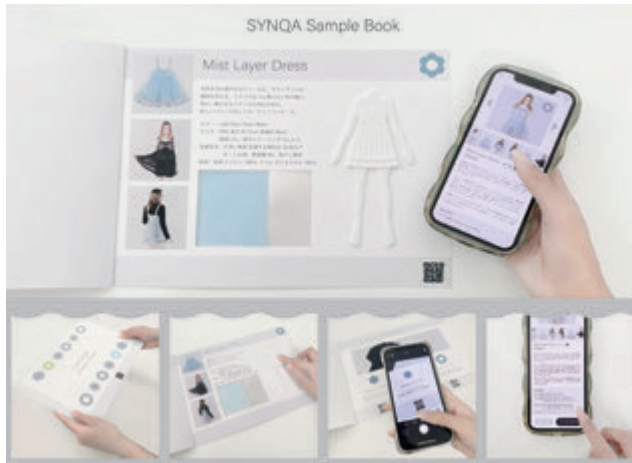
プロダクトデザイン(PD)セミナー
課題「食のシーン・
体験を豊かにする道具のプロダクト」



1~4年生の希望者で行う合宿形式のデザインセミナー。学年の垣根を超えたチームでアイデア出しなどをしながら、製品をデザインレボードにまとめる。卒業生である現役のデザイナーも駆けつけて指導にあたる。最終日には教員による審査を行い優秀作品は表彰される。

卒業制作

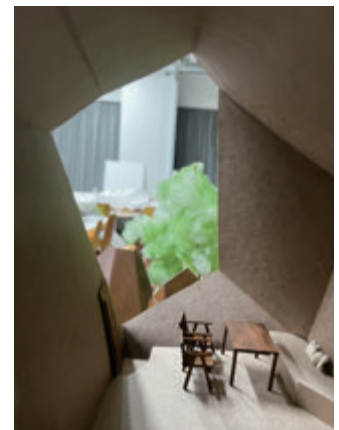
大林若葉：感覚で楽しむファッションブランド「SYNQA」



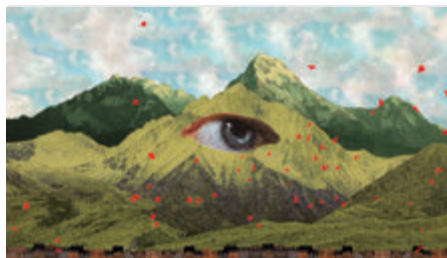
石井柚里：ステッキなまほうをかけよう



鈴木小晴：住むと旅のはざまの宿



石井杏花里：Hey diddle diddle



牧口実央：Bless you



柳沼幸多：海と共生する音楽アリーナの新なる姿



中村萌聖：草加をよむ〜影から生まれるタイポグラフィ〜



鈴木洗遥：FLOOD RUNNER



チョウ・イクゴウ：THE MUSEUM



学びのシーン



A&Dギャラリーでの展覧会講評



公開制作展
企画制作



工房での制作

- ① 日藝やこの学科を志望した理由を教えてください。
- ② 一番興味を持って取り組んでいる授業は？
- ③ サークルに入っていますか？
- ④ 授業以外で大学の仲間とどんな活動をしていますか？
- ⑤ 他学科と交流はありますか？
- ⑥ ジャンル問わず、今一番注目しているモノ・ヒト・コト。
- ⑦ アルバイトはしていますか？
- ⑧ 周りで尊敬している人はいますか？
- ⑨ 卒業後の希望進路は？ 5年後、何をしたいですか？
- ⑩ 受験生に日藝をお勧めするポイントは？

3年

このさや

今野 沙彩さん



- ① 空間デザインを多角的に学べる環境と、学科を越えて自由に表現できる日藝の雰囲気に魅力を感じ、この学科を志望しました。
- ② 建築や空間設計の授業に特に興味があります。実際の建築を理解しながら自分のデザインに活かせる点がとても刺激的です。
- ③ PALETTEというTシャツ制作サークルに所属しています。個性豊かなデザインが実際に店舗に並ぶ瞬間は大きな達成感があります。
- ④ 展示会を巡ったり、建築やカフェの空間を見に行くことが多いです。課題制作も一緒に行き、互いに刺激を受けています。
- ⑤ 体育や語学などの共通科目で他学科と関わりがあります。異なる分野の考えに触れることで、自分の発想も広がっています。
- ⑥ 空間デザインとライティングに注目しています。光の使い方で空間が変わる点に魅力を感じています。
- ⑦ 工務店の中にある喫茶店で働いています。建築と空間を近くで感じられる環境で、日々の気づきが学びにも繋がっています。
- ⑧ デザイン学科の教授方を尊敬しています。幅広い視点で指導していただき、自分の表現を広げる大きな刺激になっています。
- ⑨ 空間デザインに関わる仕事に関わりたいです。5年後はカフェやアパレルなど、人が訪れたい空間づくりをしたいです。
- ⑩ 学科を越えて自由に学べ、挑戦しやすい環境が魅力です。個性を伸ばしながら表現でき、多様な仲間との出会いが刺激になります。



3年

さこう あみ

酒向 杏実さん



- ① デザインも舞踊も映像も、興味のあるものを全部やってみたい。そんな欲張りを叶えられそうだと感じ志望しました。
- ② 3年次の「銀座和光・ショーウィンドウディスプレイ」の授業です。企画を立て、図面や模型に落とし込みながら、空間デザインを学んでいます。
- ③ Tシャツのデザイン・販売サークル「PALETTE」に所属しています。今年の日芸祭では、宇宙をコンセプトに内装デザインも担当しました。
- ④ コンセプトを決めてZINEを作ったり、定期的に展示を見に行ったりしています。
- ⑤ 授業で放送学科や写真学科の学生との交流がありました。毎回、新しい視点で話し合えることが新鮮です。
- ⑥ 映像や音、光、立体物を組み合わせたインスタレーションに注目しています。体験を提供するというUI・UXの分野にも興味があります。
- ⑦ カフェで働いています。制作で忙しい時もありますが、バイトの時間が良い気分転換になっています。
- ⑧ 同じコミュニケーションデザインを学んでいる仲間です。情報や意見を共有し合えることが、自分の制作の原動力のひとつになっています。
- ⑨ 広告代理店を志望しています。5年後もつくることに夢中になりたいです。
- ⑩ 自分の「好き」にまっすぐ向き合うためのスキルを豊富に学べるところです。刺激的な人や環境に囲まれながら制作できます。



○卒業後の進路

広告代理店、デザイン事務所、広告制作会社、家電・自動車・文具などのメーカー、建築・設計事務所、建設会社などで、幅広く活躍しています。

【過去5年間の実績】

アールシーコア/アシックス/あたらす二十一/アライヘルメット/ E-グラフィックスコミュニケーションズ/石原設計/エイムクリエイツ/ADK ホールディングス/ SNK / NTTドコモ/エレクトム/大塚商会/オカムラ/OKUTA /オシロ/学校法人鎌形学園/カブコン/カワサキモーターズ/九州博報堂/クツワ/クラウドサーカス/御殿場市/クリエイティブヨーコ/広美/コーエーテクモホールディングス/財務省四国財務局/サクラインターナショナル/サンエックス/ジェシー・スパーク/島忠/スターツホーム/スマイルズ/セイコーウオッチ/静和堂/セガ/ZOZO /ソニーグループ/大東建託/ダイハツ工業/タカラミーグループ/たきコーポレーション/タマホーム/千葉県庁/ツートン/ DMM.com Group /テレビ東京アート/電通デジタル/電通テック/電通東日本/電通プロモーションエグゼ/東京都立病院機構/東宝舞台/東急エージェンシー/東京リスマチック/東北新社/トヨタモビリティ東京/日産自動車/日本製紙/日本創発グループ/任天堂/パール金属/博報堂 DY アイ・オー/ハピラ/ビーコンコミュニケーションズ/ビームス/ファブリカ/富士通/ブシロード/文化工房/ヘルメス/ほぼ日/丸八真綿/みずほ銀行/三菱電機/ユニオン/ヨドバシカメラ/ランドマック/レック/ローソンエンタテインメント/ローヤル企画 ほか ※企業名は内定当初の表記を記載

○活躍の先輩

秋山具義 (アートディレクター)
荒井良二 (絵本作家)
安西水丸 (イラストレーター)
石田直久 (グラフィックデザイナー)
おかだ萌萌 (イラストレーター)
小川晋一 (建築家)
小木曾瑞枝 (美術家)
片岡哲 (プロダクトデザイナー)
加藤大 (イラストレーター)
古泉良範 (加賀友禅作家)
ジェリー鵜飼 (イラストレーター、アートディレクター)
杉千春 (プラネットワークス) (建築家)
杉浦さやか (イラストレーター)
スズキユウリ (アーティスト)
玉置太一 (アートディレクター)
土谷尚武 (イラストレーター)
ながしまひろみ (イラストレーター)
中村至男 (グラフィックデザイナー)

Vaundy (マルチアーティスト)
パラダイス山元 (ミュージシャン)
バルコキノシタ (美術家)
日端奈奈子 (イラストレーター)
牧かほり (グラフィックアーティスト)
小川晋一 (GLIM SPANKY) (アーティスト、ボーカリスト)
松井龍哉 (ロボットデザイナー)
みかづき唯 (漫画家)
ミリメーター (アーティスト、建築家)
ジェリー鵜飼 (漫画家/文筆家)
安田翔哉 (CMプランナー、漫画家)
山下ともこ (グラフィックデザイナー)
横河健 (建築家)
吉葉安弘 (YYossYY) (ジュエリーデザイナー、宿泊業)
Rak (アートディレクター、クリエイティブディレクター)
ほか



大学入学後に始めた写真、 身につけた表現を活かし世界へ。

野口哲司さん (読売新聞東京本社 編集局写真部記者)

2024年卒

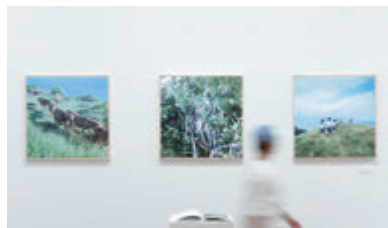
言語を介さず、国境さえも越えていく「写真」の魅力に惹かれたことが入学のきっかけです。私の大学選びの条件は、自分の視野を広げられることと多様な経験ができることの二つでした。そのため、当時は国際教養が身につく大学に進学を予定していました。しかし、国境を越えた視覚的な交流手段となりうる写真表現に可能性を感じ、後期入試を利用して芸術学部を受験。カメラに関してはほぼ未経験でした。拙いながらも面接で伝えた志と覚悟を先生方が丁寧に汲み取っていただけたこともあり、写真学科への進学を決めました。

ただ、入学時から大半は新型コロナウイルスに見舞われました。人との繋がりが希薄になった日々、生きる手応えを探していました。そんな時、担当の先生が親身に寄り添ってくださり、挑戦を形にするための示唆を与えてくださいました。それが後押しとなり、卒業制作に繋がる日本最西端・与那国島での作品制作を始めました。3年間何度も通い、島民の皆さんからの温かい言葉や厳しい言葉も真摯に受け止め、目の前の人に向き合い続けました。気が付けば、牧場で馬のお世話をしていたり、子供たちと川の字で寝ていたり。どんな場所でも、真っ直ぐに向き合い、寄り添うことの大切さを学びました。

また、学生生活では友人たちと語り合う日々が続きました。自らが何を考え、どうありたいのか。多様な価値観と実行力を持った仲間たちとの

Q. 卒業から2年後、何をしていましたか？

「写真記者として、現場の最前線でカメラを構えています！」



野口哲司さんの作品から／
2024年 茨城県つくば美術館
グループ展「Relate:ここではないどこかで」に参加。与那国島を舞台にした作品「ユノリ」を
出展。

会話は常に刺激的でした。ゼミでは自身の感じた純粋な感情をどうすれば「作品」に昇華できるのか、悪戦苦闘の日々を過ごしました。昼夜を問わず支え続けてくれた先生や友人たちには感謝してもしきれません。多様な経験と深い絆が交差したこの学舎はかけがえのない心の故郷となりました。

大学卒業後も写真を通して視野を広げたい、という思いから写真記者として読売新聞に入社しました。現在は東日本大震災や能登半島地震の継続取材、政治、国内外でのスポーツなどを取材。並行して自身の気になるテーマから企画・撮影・執筆を行うグラフィック紙面の担当をしています。長期間の取材もあり、撮影させてもらった人とは親戚に近い関係性になることも多いです。掲載時にその人や家族が喜んでくれること、それが自分の喜びになっています。

自由にのびのびと、そして挑戦を後押ししてくれる環境と仲間たち。この学舎での4年間は私の大切な宝物であり原点です。

2000年生まれ。東京都出身。卒業後は読売新聞東京本社に写真記者として入社。災害、政治、スポーツなどを取材。並行して日本最西端・与那国島での作品制作を行う。2024年塩竈フォトフェスティバル「ポートフォリオレビュー写真賞」Nikon賞受賞。



Photography

講義で学び、仲間を得た4年間、 大学時代はまさに写真漬けの日々。

佐々木悠さん (株式会社博報堂プロダクツ フォトクリエイティブ事業本部 フォトグラファー)

2020年卒

高校生の時、写真の道に進もうと思ったのは、私は写真が上手いという漠然とした自信があったからです。しかしそんな甘い考えは、入学しすぐに打ち砕かれました。表現の分野で長けた人、技術の分野で長けた人、自分より優れた同級生がたくさんいたのです。最初は悔しさがありませんでしたが、仲良くなるにつれ、その感情はリスペクトに変わりました。大学での4年間は、まさに写真漬けの日々でした。講義で知識や技術を学ぶのはもちろんですが、それとともに、仲間からも多くのことを学びました。

仲の良い友達とユニットを組み、銭湯をテーマに写真を撮り、実際の銭湯に展示をしたり、文化祭で大学のスタジオに銭湯を再現し写真展示したり。一見バカバカしいと思えるようなことにも全力で取り組める自由な環境と、同じ写真という狭き門を志す仲間と切磋琢磨した時間は、今でも私の宝物です。

広告の道に進もうと決意させてくれたのも、大学での広告の授業でした。第一線で活躍していた先生が見せてくれた広告写真は、当時の私にはどう撮っているのか想像もつかない、まるで魔法のような1枚でした。こんな世界があるのか、という衝撃を受けました。しかし、授業で出る週ごとの課題をクリアしていくうちに、ライティングの仕組みや構図の意図など、少しずつ魔法が解き明かされていきました。全く歯の立たなかったものが、理解できるようになる。そのプロセスがたまたま楽しく、毎週その授業を心待ちにしていました。

卒業後は、その広告の先生が在籍していた広告制作会社にアシスタント

Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「夢中で写真に向き合っていたら、あっという間に5年が経っていました」



佐々木悠さんの仕事から／
写真を撮る中で出会ったモデル、ヘアメイク、スタイリストの仲間とよく作品を撮ります。目を惹く、頭に残る写真を目指しています。

として入社しました。そこは広告写真を生業としているプロしかいない場所ですから、大学とは別世界でした。妥協の許されない現場で、何度も壁にぶつかりました。しかしそんな時に私を支えてくれたのは、大学の授業で学んだ向き合い方でした。できない、分からないという壁は、決して行き止まりではない。そこを乗り越えて理解すれば、それは必ず自分の新しい武器になる。大学時代に、分からないことが分かるようになる楽しさと、その習得の工程を教えてもらったからこそ、下積み時代を腐らさずやっていたのだと思います。そして辛いことがあり挫けそうになった時も、支えてくれたのは同じような環境で頑張っている大学の仲間でした。

平日はアシスタント業務に奔走し、土日は自分の作品制作。そんな日々を積み重ね、あっという間に5年が経ち、晴れてフォトグラファーになることができました。好きなことに向き合おうと決めてから、早10年。好きなことをしていると、あっという間に時間が過ぎていきます。好きだからこそ辛い時もありますが、こうして向き合い続けられることこそ、人生においてこれ以上ない幸せだと感じています。

1998年長野県生まれ、栃木県育ち。2020年、大学卒業後に(株)博報堂プロダクツに入社。アシスタントを経て、現在は同社フォトグラファーとして活動。印象的な色使いと、グラフィカルな表現を得意とする。



日藝で出会った仲間、
今も続く映画漬けの日々。

中川和博さん (映像監督)

2009年卒 (監督コース)



中川和博さんの仕事から／
左:特撮作品の現場。『フェス・ゴジラ』シリーズより ©TOHOCO, LTD.
中:『白暮のクロニクル』(WOWOW オンデマンドで配信中) はプロデューサー、脚本家、カメラマンをはじめ多くのスタッフが日藝の出身者。
右:『新幹線大爆破』では脚本を手がける。

幼い頃から映画が好きで、将来も映画に携わる仕事がしたいと思って進学先を探しました。当時は今ほどネットで情報を集める行為が盛んではなかったので、進路指導の先生に「映画といえば大芸 (大阪芸術大学) か、東京の日藝や」と聞いた私は他の選択肢をロクに調べもせず、受験に挑みました。運よく日藝に入学でき、晴れて上京となりました。

大学生活が始まると、同級生たちが田舎では上映されていないようなアート映画に詳しく、映画への造詣も深いことに、入試の面接で意気揚々と「一番好きな映画はジュラシックパークです!」と答えた私は圧倒されました (今でも一番好きです)。

そんな同級生たちと実習や自主映画と一緒に映画を作り、同じ釜の飯を食い、映画について語り合い盛り上がる日々。とても楽しく充実した大学生活でした。キャンパスライフ、というイメージよりも部活や合宿というような感覚でした。

どれほど勉強し知識を得ても、実際に作品を作ってみることに映画・映像制作について学べることはないと思います。そういう意味でも、大学時代から実践的に映画を作ることが出来て本当に良かったと思っています。

僕が大学の時に撮った作品は、今でも同級生にいじられるくらい恥ずかしくて目も当てられません、失敗を重ね、改善し、次こそは面白

い作品を作るぞという気持ちで映画を作り続けました。

そんなこんなで卒業から15年。ようやくその時の仲間も偉くなり、自分たちが監督やプロデューサーという立場になり、商業作品と一緒に手がけるようになりました。そして、今でも仕事を通して同じ釜の飯を食い、映画について語り合う日々を過ごしています。しかも、先輩後輩関係なく、です。日藝に入学して一番良かったのは、そんな仲間と出会えたことです。

撮影現場で自分の考えを人に伝えるという行為は、想像以上に難しいものです。しかも商業作品ともなればいろんな人の思惑や、制限が絡んできます。そんな中でも日藝の仲間がいることで、理解してもらえる安心感が生まれ、創作への力となります。

これから入学をする方たちとも、いつか同じ「日藝仲間」として現場で一緒にできる日を楽しみにしています。

1986年生まれ。奈良県出身。監督助手として三池崇史、樋口真嗣などに師事する傍ら、自主映画を製作。『怪獣の日』(14年)は国内外の映画祭で上映された。2017年には文化庁委託事業・若手映画作家育成プロジェクトに選出され『さらば、ダイヤモンド』(17年)を監督。他に『フェス・ゴジラ』シリーズ(19年~)、『ダブル』(22年)、『白暮のクロニクル』(24年)など幅広いジャンルを手がけている。世界的なヒットとなった『新幹線大爆破』(25年)では脚本を手がけた。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか?

「監督助手として商業映画の現場に携わりながら、自主映画を作っていました」

卒業後は自主制作で道を模索。
同期と作った映画が足がかりに。

月永雄太さん (撮影監督)

1999年卒 (撮影・録音コース)



月永雄太さんの仕事から／
左:映画『夜明けのすべて』 瀬尾まいこ ©2024「夜明けのすべて」製作委員会
中:映画『ケイコ 目を澄ませて』 ©2022映画『ケイコ 目を澄ませて』製作委員会
右:映画『金髪』 ©2025映画『金髪』製作委員会

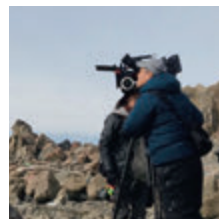
高校時代に映画鑑賞にハマり、学校帰りによくひとりで映画館に行っていました。「映画ってどうやって作るんだろう」と興味を持って学べる場所を探していたら、偶然、日藝に映画学科があると知り受験を決めました。撮影・録音コースを選んだのは、具体的な技術を学べそうだったから。3年生の実習や4年生の卒業制作、友人たちと自主制作で映画作りをしたことが大活路では印象深いです。3、4年では年に数回、川又昂カメラマン (大島渚監督や今村昌平監督の映画の撮影監督を務める) が来て実習や講評を行っていました。卒業制作の講評会で、とある俳人の俳句の映像化を試みた僕の撮影作品を川又先生が一言褒めてくださったことが、その後の僕の支えになっています。自然豊かな山の中でいい映像を撮るために手間を惜しまず、時間をかけて丁寧に行ったことで先生の目に留まるものになったのかもしれない。

卒業後はアルバイトをしながら、友人と自主制作で映画を作ったり、撮影依頼があれば出かけていくなど、撮影で生計を立てる道を模索しました。映画学科の同期の富永昌敬監督とも組んで作品作りをしていたところ、一緒に作った『亀虫』が袋袋の映画館シネマ・ロサでのレイトショーで話題となって映画プロデューサーの目にとまり、その延長で2006年、富永監督作『バビリオン山椒魚』の撮影を務めたのが商業映画デビューです。就職氷河期と言われた卒業当時、映画作りの

定職は見つからず、アルバイトで暮らしながら30歳までは頑張ろうと思っていました。『バビリオン山椒魚』の撮影が29歳、30歳で公開になったので、ギリギリ間に合った感じですね。その後、青山真治監督に声をかけてもらって2011年『東京公園』の撮影を担当、ロカルノ国際映画祭で上映、評価されたことが映画業界の中で名前を知ってもらうひとつの転機にもなりました。

かつて20代の頃「自分で資金を出してでも映画を作りたい」という熱意が同期だけでなく先輩や後輩にもあり、自分も撮り続けることができました。多くの出会いのおかげで映画・ドラマ・CM撮影現場で現在も働くことができています。

1976年生まれ。映画『バビリオン山椒魚』(2006年、富永昌敬監督)、『東京公園』(2011年、青山真治監督)、『モリのある場所』(2018年、沖田修一監督)などで撮影を務める。『泣く子はいねぇが』(2020年、佐藤快磨監督)でサン・セバスティアン国際映画祭オフィシャルコンペティション部門最優秀撮影賞。『ケイコ 目を澄ませて』(2022年、三宅唱監督)で毎日映画コンクール撮影賞。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか?

「アルバイトをしながら手弁当で撮影をしたり、友人と自主制作映画を作ったりしていました」

表現にまつわる多様な視点と 経験を得た学生時代。

日比野絵美さん(版画家)

2009年卒(版画コース 版画専攻)



日比野絵美さんの作品から/
左:《山並図》
技法:銅版画(カーボランダム)
素材:和紙、油性インク
制作年:2025年
右:《Dance II》
技法:銅版画(カーボランダム)
素材:和紙、油性インク
制作年:2025年

とにかく思いきり絵を描きたい、制作に集中できる環境に身を置きたいという思いから日藝を受験しました。版画を専攻した理由は、版画の持つ偶然性とコントロールの両方を内包した表現に惹かれたからです。

在学中は、技術や表現方法を学ぶと同時に「作品をどのように見せるか」という点を強く意識するようになりました。

授業では銅版、木版、リトグラフなど複数の版種に取り組み、版画ならではの工程や時間の使い方、素材との向き合い方を基礎から学びました。また、それぞれの専門分野の先生方から指導を受けることで、表現に対する多様な考え方に触れることができました。

先生方の展覧会の搬入を手伝わせていただいたことも大きな経験となりました。そこで、作品が展示空間の中でどのように立ち上がり、観る人とうどう出会うのかを間近で体験したことが、作家としての意識を大きく変える転機となりました。この経験をきっかけに、版画という平面表現を軸しながら空間全体を含めて作品を構成するインスタレーション表現に興味を持つようになり、現在も空間性を意識した作品制作を行っています。

卒業後は、美術とは別の仕事をしながら制作を続ける道を選びました。その中で自分に課した目標が「一年に一度、必ず個展を行うこと」

でした。時間や体力に限りがある中で制作を続けることは簡単ではありませんでしたが、版画で培った「少しずつ積み重ねる姿勢」が、継続する力となり発表の機会にも繋がっていったのではないかと思います。結果的に、このペースが自分にとって無理のない制作環境をつくってくれました。

近年は制作に軸を置き、東京以外の地域で発表する機会やアーティスト・イン・レジデンスへの参加など、活動の場も広がってきました。環境が変わることで視点が変わり、自分の表現を見直すきっかけにもなっています。今後も、生活と制作を両立させながら表現活動が続けたいと考えています。版画は時間のかかる技法ですが、その分、長く向き合える表現でもあります。日々の生活の中で感じたことを丁寧にすくい取りながら制作を続け、様々なかたちで作品を発表していくことを目標としています。

1986年生まれ。神奈川県出身。2009年日本大学芸術学部長賞受賞。主な展覧会に2024年「版画と生活」ギャラリー川船、2025年あきる野市アーティスト・イン・レジデンス事業に参加、他、展覧会多数。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

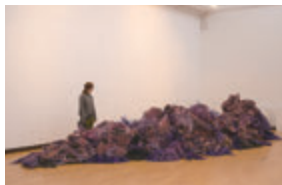
「『画廊からの発信 新世代への視点』(藍画廊)にて個展を開催しました」

Fine Arts

大切なのは、 作ることに没頭できる環境。

植松美月さん(彫刻家)

2018年卒(彫刻コース 彫刻専攻)



植松美月さんの作品から/
《咲きひらいて》2022 紙、インク
W7200 D2300 H1330 (mm)
サイズ可変
《雨だれにひそむ。》2024 コピー用紙、インク、釘
W9121 H1189 (mm) サイズ可変
(ART IN THE OFFICE 2024 受賞作品
撮影:吉田武)

私が日藝に入学したきっかけは、高校3年生の時に鉄を切るワークショップに参加したことでした。実際に自分の手を動かすことで変化する鉄を見て衝撃を受けたのです。もともと、映画を見たり、小説を読んだりすることも好きだったので、日藝に入ってから、自分が選んだ学科以外の授業も受けることができたのが、刺激的でした。もちろん、制作をする環境も、学校にさえ行けば揃っていたので、朝から晩まで学校にいた記憶があります。学部1、2年生の間は様々な素材に触って、課題に取り組みました。正直、いつ鉄を切らせてくれるのだろうと、もやもやした時期もあったのですが、3年生の自由課題になってからは、鉄を切りまくっていました。

今は、主に紙を使って作品制作をしています。紙が重なっている様子を見た時に、鉄の塊のように動かし難いものに感じたことがきっかけでした。私は鉄を切りたい衝動で日芸に入学したのですが、どんなきっかけでも、何が今の自分に繋がっていくのかはわかりません。学校を卒業してからはアルバイトをしながら、時間を見つけては作品を作っています。今思うのは、大学生活ほど好きなことを目一杯できる時間はないということです。どう時間を使っても自由ですが、やりたいことを実現できる設備や、周囲のサポートがあるうちに、好きなことに取り組めることを大切にしたいです。

私は日常的に使用する素材が、反復する行為によって全く違う景色を

見せてくれることを大切にしています。様々な情報が飛び交う多忙な社会の中で、自分の身体が置いていけぱりになっているような感覚に陥ることがあります。反復行為は、そういった感覚に陥る私が、正気を保つためのものです。私の制作活動はそういった地道な日々の積み重ねです。毎日鉄を切って、紙を切っていたら、私にとって美術は切っても切り離せないものになりました。

今後は、より作品のクオリティを上げていながら、作家としてステップアップできるような展示をしたいです。まだまだ考えることも多いですが、手を動かすことも忘れなければ、また新しい作品が生まれていくと思います。これからもできるだけたくさん作品を作って、悩むことがあっても強く、作品と共に生きていきます。

1995年生まれ。兵庫県出身。2023年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。2018年日本大学芸術学部学部長賞受賞。近年ではマネックスグループ主催のART IN THE OFFICE 2024 受賞。主な展覧会に2025年個展「さゆらぎ」aploit 他、展覧会多数。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「紙を切って、切って、切りまくっていました」

一流の演奏家に学ぶ贅沢な時間と、
多様性あふれる仲間から得た刺激。

大津日菜子さん

(サントリーパブリシティサービス株式会社 公演マネージャー)

2021年卒(弦管打楽コース フルート専攻)

私は千葉県出身ということもあり、小学校の頃から音楽が身近にある環境で育ちました。吹奏楽部で始めたフルートが大好きで、高校までの9年間は部活に没頭していたのですが、志望大学を考え始めたときに「“好き”をとことん学んで、自分の可能性が広がる大学に行きたい」と思うようになりました。でも、かと言って音大に行きたいかという音楽だけになるのは視野が狭まる気がして、そこから日藝を目指すようになりましたね。

1~2年次は、専科のレッスン以外にも音楽学やソルフェージュなど基礎的な座学を身につけ音楽への教養を深め、3~4年次では作曲や指揮法、より実践的な演奏技術を学ぶことが出来ます。レッスンや室内楽、オーケストラの授業では、一流の演奏家である高木綾子先生と、萩原貴子先生からその高い演奏技術を熱心指導いただき、本当に贅沢な経験だったと感謝しかありません。

学科以外の活動でいうと、2年次から演奏会を企画するNPO法人で活動したり、3年次は中国留学したりと、学内外問わず経験を積むことができ、充実した大学生活だったと思います。こうして思う存分チャレンジできたのも、どんな選択も尊重してくださり、助言や万全のサポートをしてくださった先生方がいたからだだと思います。

またこれは日藝ならではのようですが、興味のある他学科の授業も履修で

Q. 卒業から4年、いまどんなことをされていますか？

「新しくオープンする劇場の立上げで、スタッフの研修や、ご案内業務のオペレーション設計を担当しています」



大津日菜子さんの仕事から/
全国各地の音楽ホールの運営や
ご案内業務に携わっています。
大学で学んだ多方面の知識が
活きていると感じます。

きるため、そこでも大事な出会いがありました。同じ授業を履修したことをきっかけに、文芸学科の友達に演奏会のチラシをデザインしてもらったり、写真学科の友達の作品撮りに参加したことで、今度は逆に演奏会でのカメラマンをお願いしたり… 学科を超えた繋がりができ、おもしろい人ばかりいるなぁと刺激をもらっていました。

今は“多様性の尊重”という言葉をよく耳にするようになりましたが、日藝ではそれが当たり前。皆さんご想像の通り、個性溢れる仲間たちが熱意を持ってチャレンジし、無条件に認め合うことができます。そんな空気が当然のようにあります。

今後の目標は、より時代に沿った芸術文化施設の運営を探ること、それによってコンサートや美術展がもっと生活に溶け込む文化となるように力を尽くしていきたいです。

これから日藝に進まれる皆さん、ぜひ
どこかでご一緒しましょう！

1997年生まれ。大学卒業後、サントリーパブリシティサービス(株)に入社。全国各地の音楽ホールや美術館などの芸術文化施設の運営に携わる同社で、主に Bunkamura のご案内業務に関わる。その後、山形、大阪、札幌など各劇場で公演業務を担当。イベントのチケットデザインや、座席・販売枚数などの票券管理の経験を経たのち、現在は、新規劇場のオープン業務を担当している。



Music

コロナ禍でも
学び続けた大学生活。

鈴木和佳奈さん

(株式会社オリエンタルランド ステージマネージャー)

2024年卒(情報音楽コース)

幼少期から音楽教室に通い、中学・高校では管弦楽部に所属するなど、音楽に囲まれた学生生活を送ってきました。進路を考え始めた際、楽器を極めたい気持ちとは少し違う一方で、音楽のない大学生活は考えられず、進学先に迷っていました。そんな高校3年の夏に母の勧めでオープンキャンパスに足を運んだのが日藝でした。その際、直感的に「ここだ!」と感じ、ここなら自分の可能性が広がり、なりたい自分を見つけれられるのではないかと思います。急遽2か月後に迫った総合型選抜での受験を目指すことになりました。

入学が決まった矢先、想像もしなかったコロナ禍に突入。思い描いていた大学生活とはかけ離れた日々で、対面授業が制限され、ほとんどキャンパスに通うことなく1・2年生はあっという間に過ぎ去りました。制限も緩和され始めた3年生では、地方の芸術祭に出展する作品作りに没頭。初めての合宿にも参加し、学科内の学生とも交流を深めることが出来ました。パソコンでの楽曲・映像制作やスタジオでのレコーディング、実技に教職まで、幅広い分野を学び、どれも興味深く楽しい授業でした。

もっとたくさんの学生と交流したかった。他学科との共同制作に挑戦したかった。正直に振り返ればそんなタラレバは尽きませんが、それでも卒業した今、日藝で学べてよかったと思えるのは、好きな分野をとことん学べる環境、それぞれが専門分野に対して熱意を持って向き合い、互いに切

Q. 卒業から5年後、何をしたいですか？

「リハーサルチーフや立ち上げ中核メンバーとして活躍していきたいです」



鈴木和佳奈さんの仕事から/
東京ディズニーリゾートのエンターテイメントに携わる。
ステージマネージャーとして、
ショーの本番運営やリハーサル、
新規ショー立ち上げに携わっています。

磋琢磨し合える友人たち、学生の個性を尊重し、常に背中を押してくれる先生方がいたからです。コロナ禍で始まった大学生活でしたが、自分なりに興味の赴くままに主体的に学び、実りある4年間を過ごすことが出来たと自信を持って言えます。日藝で過ごされる皆さん、有意義な学生生活を送れるよう応援しています！

話は変わりますが、私は小学生の頃にディズニーのショーを観たことがきっかけでエンターテイメントを裏方で支える仕事に憧れを抱くようになりました。大学1年の時、大学内説明会でステージマネージャーという職種を知り、今の仕事に繋がっています。ショーを観に来てくださったゲストの歓声や笑顔が私の日々の原動力になっています。今後は、公演に携わる様々な立場の人に寄り添いながら、チーム全体の力を引き出せるステージマネージャーとして、ディズニーのエンターテイメントが生み出す感動を、より多くのゲストに届けていきたいです。

2001年生まれ。大学卒業後、株式会社オリエンタルランドに入社。ステージマネージャーとして、ショーの本番運営やリハーサル、新規ショー立ち上げに携わる。企画陣をはじめ、出演者や技術スタッフなどと連携し、安全かつ円滑に現場全体の進行を統括している。



子どもの本の世界が、
楽しく豊かな場所であり続けるように。

沖本敦子さん (子どもの本の編集者)

2000年卒



沖本敦子さんの仕事から/
左から『ねむねむ こうさぎ』(麦田あつこ・文、森山標子・絵)、
『だるまんが』(かがくいひろし・作、
『りんごかも しれない』(ヨシタケシンスケ・作) いずれも
プロンズ新社刊

子どもの頃から本が好きでした。『ロボット・カミイ』や「ぼくは王さま」シリーズ、「おぼけのアッチ」のシリーズなど、思い出の本はたくさんあります。私の子ども時代は、福音館書店や岩波書店などから数多くの良書が生まれた、いわば児童書の百花繚乱期。先代の作家、編集者の方々が生み出してくれたいいものを、たくさん吸収して育つことができました。

文芸学科を選んだ理由は、作家やイラストレーター、デザイナーなど、本まわりの職業にぼんやりと憧れを抱いていたから。大学3年で編集者という仕事を知って、子どもの本の編集者を目指すようになりました。印象に残っているのは、故・藤井正弘先生の編集実習の授業です。学生たちが取材に行って雑誌を作るのですが、私は「暮しの手帖」の編集長・大橋鎮子さんに取材をお願いしました。大橋さんが電話口で「それなら私が話してあげましょう」と即答してくださって、後日たっぷりインタビューさせていただきました。編集部で試作中のおやつをご馳走になったことも含めて、思い出に残っています。

4年の夏には、掲示板でバンドメンバーでも募集するような感覚で有志を募り、「JACKPOT」という雑誌も作りました。巻頭特集は「編集者の肖像」。先生方に相談すると、「この人たちに会いに行くといい」とマガジンハウスや小学館、日経BP社などの編集者を紹介してくれて、インタ

ビューすることができました。文芸学科の学生が取材・執筆を、写真学科の学生が撮影を担当するなど、学科を越えた仲間とひとつのものを作れたのも貴重な経験でしたね。できあがったものは芸術祭(現在の日芸祭)で売りました。学生時代の友人とは、今も付き合いがあります。

児童書業界は門が狭く、新卒採用では全敗したのですが、白水社で編集雑務の経験を積み、中途採用でプロンズ新社に入社しました。現在はフリーの子どもの本の編集者として活動しています。私は子どもの本の世界から本当にいろんなものを与えてもらったので、今度は子どもの本を世に送り出す側の一員として、児童書業界が豊かな場所であり続けられるよう、力を尽くしていけたらと思っています。

1978年生まれ。大学卒業後、語学書などを手がける白水社での編集アシスタントを経て、2004年にプロンズ新社に入社。子どもの本の編集者として、『だるまんが』(かがくいひろし・作、プロンズ新社)をはじめ数多くのヒット作の編集を担当する。2019年より、フリーの子どもの本の編集者に。麦田あつこのペンネームで文章の仕事も手がける。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか?

「編集者になったものの、企画が通らず悩む日々。ボツ企画をファイルにいっぱいためていました」

Literary Arts

大学時代に楽しんだ「回り道」の経験が、
現在の仕事につながっている。

額賀滯さん (作家)

2013年卒



額賀滯さんの仕事から/
右から『タスキメシ』(小学館)、
テレビドラマ化もされた『転職の魔王様』シリーズ(PHP 研究所)、『風に恋う』(文藝春秋)、
『ラベンダーとソプラノ』(岩崎書店)

文芸学科の存在を知ったのは高校1年生のときです。10歳の頃から趣味で小説を書いていて、創作をちゃんと学んでみたいと考えていたので、自然と日藝をめざすようになりました。

学生時代を振り返ってみると、ひたすら小説を書いている新人賞に応募していた思い出ばかりですね。高校までと違って、小説を書いている人が周囲にたくさんいるのが当たり前だったので、親しい友人と小説を見せ合って合評したり、1冊の本についてとことん意見をぶつけ合ったり、そういう時間がとても楽しかったです。

印象に残っている授業はたくさんありますが、作家になった今でも活きていると思うのが、連句の授業でしょうか。先生と学生達で、「五・七・五」の長句と「七・七」の短句を交互に連ねていく授業だったのですが、「限られた文字数の中でいかに情景を見せるか」「風景描写だけでなく、五感を活用した描写をいかにやるか」ということに苦心した記憶があります。作家デビュー後の私の文章を、担当編集者がよく「情景がよく見える」とか「色彩豊か」などと言ってくださるので、当時の連句の授業が役立っているのだろうと思います。

すぐには役に立たなそうな経験が、ふとした瞬間に意外な形で活きているのが創作の面白いところです。大学の側のパン屋さんでアルバイトしていたこととか、他学科の授業に潜り込んで聴講したこととか。大

学4年のときにゼミの先生に「就職活動しなさい。会社員経験が君の書くものの説得力になるから」と助言され、嫌々ながら就職活動をしたのですが、作家になった今、やはりやってよかったと思います。小説で描く会社員や企業や労働というものに説得力が出たなと思いますし、お仕事小説が自分の得意分野にもなりました。

日藝は「社会と直結する学び」と「すぐには役に立たなそうな経験」の両方がたくさんある場所だと思います。「無駄になるかもしれないことなんてしたくない」と思ってしまう自分にブレーキをかけて、大学の中にある〈余白〉や〈ゆとり〉や〈回り道〉といったものを、ぜひ楽しんでください。

1990年生まれ。大学卒業後、広告代理店に勤務。2015年に『屋上のウインドノーツ』で第22回松本清張賞を、「ヒトリコ」で第16回小学館文庫小説賞を受賞しデビュー。2016年、『タスキメシ』が第62回青少年読書感想文全国コンクール高等学校部門課題図書に。2023年7月に『転職の魔王様』シリーズがフジテレビ系列「月10」枠でテレビドラマ化。その他に『風に恋う』『競争王』『ラベンダーとソプラノ』『夜と跳ぶ』『願わくば海の底で』など。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか?

「駅伝を題材にした『タスキメシ』のヒットのおかげで依頼が増え、会社を辞めて専業作家になりました」

未だに燃ることない熱。 その発火点と信念。

横原由祐さん (舞台照明家 フリーランス)

2002年卒(照明コース)

中学、高校の学校生活は部活とクラスメイトとのたわいもない会話が学校生活のすべてでした。話題の中身はまだTVの世界で満ち溢れており、漠然と育った憧憬が自分の大学の選択の岐路の上で改めて可視化した時の驚きは今でも覚えています。元来の集団生活での共同作業と物づくりの愉しさに興を感じている性格もあり、「演劇」の世界での「照明」という表現方法が自分の考える自己表現に最も近く、挑戦したい気持ちを奮い立たすのに十分な魅力を感じ、様々な芸術系の大学の中での日本大学芸術学部の門を叩く決断に至りました。

学生生活の4年間はほぼ創作活動に明け暮れた時期だったと記憶しております。仲間たちとの趣味の延長線上での創作、課題を伴う学校内での発表。学校での活動が社会生活へ直結することに疑いを持たず、何の迷いなく踏み込んだものこの充実した大学生活のおかげと言っても過言ではありません。何か大きく間違っていたのでしょうか、当時の自分には絶対譲れないこだわりが強くあり、何度も感情をぶつけ合うなどして、未熟な熱を十分に燃え上がらせておりました。何かになりたい。何かを発信したいその思いだけが、あの灼熱の4年間であり、私の芸術への発火点でした。「こだわること」これは20年近く照明業界に身を置いている今でも当時と変わらず強く持っている信念で「表現とは自己のフィルターを透過して世界に照射する」という私の照明への「こだわり」は、当時の客席が40席しかない小劇場の中で共に培ってあります。大学時代に得たもう一つの大きな財産

Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「より深く創作に関わり始め、現在の下地になる出会いを経験し始めました」



横原由祐さんの仕事から／劇場に入り、現場で照明を確認。細かい調整は本番まで続きます。

は、「未熟だけれども決して折れない情熱」を持ち続けるための同志をたくさん得たことでしょうか。正直、一人で続けていくことは本当に難しく共に走っている仲間の姿が唯一の支えの時期は多くありました。今でもSNSを通じてひそかに自分の燃料と換えさせてもらっております。

そして2003年に卒業をしてから20余年、日藝の名前には今でも助けられております。先輩たちの足跡はいかなる場面でも一歩を踏み出す勇気をくれて、後輩に対しての指針としての役目を思い起こさせてくれます。

「日藝」という矜持がここ何年間の創作活動の基礎であったことは間違いありません。

たくさんの方の期待を抱き入学式を迎えてください。たくさんの方の間違いを経験しながらもその想いを疑わずに進んでください。本音をぶつけ合ってください。ぶつけ合った仲間と共に走ってください。

充実した4年を過ごしたのち、是非共に作品を創作していきましょう。

1979年生まれ。照明会社シアタークリエイションに9年間所属後、2012年からフリーでの照明デザイナーとして独立し、活動中。近年の照明デザイン作品として『WOYZECK』『リア王』『花と龍』『リンスリビート』などがある。



技術や知識だけではない 「繋がり」が得られた場所。

門田宗大さん(俳優)

2017年卒(演技コース)

演劇の「え」の字も知らない、ズブの素人が、演劇学科演技コースに合格しました。

当時の僕は、それだけで将来は安泰だと思っていました。この大学に通えば、俳優として売れるのだと。

無知であるがゆえの、見事な勘違いでした。

結論から言えば、日藝に受かったからといって、べつに売れません。

同期の俳優は百人近くいましたが、今もこの世界に残っているのは、ほんの少数です。

大学が仕事を斡旋してくれるわけでも、マネージメントしてくれるわけでもありません。

ここはあくまで、「演劇の学舎」です。

そりゃそうです。考えてみれば当然の話なのですが、当時の僕にはそれが見えていませんでした。

僕ほどの勘違い人間は、そう多くはないと思います。

それでも、もし過去の僕がこの記事に出会っていたら、「この先どうなるのだろう」という余計な杞憂を、少しは減らせたのではないかと。

そんな記事になればいいな、と思っています。

大学で学んだことは、数えきれないほどあります。

ただ正直に言えば、座学の内容は、ほとんど覚えていません。忘れてしまいました。

演技のレッスンで触れた様々なメソッドも、真剣に取り組みはしましたが、



門田宗大さんの仕事から／「舞台 ハリー・ポッターと呪いの子」舞台写真。人生で最も濃い二年間を味わった。ここが再起であり、原点になった。

「やり方」としては、今はもう残っていません。

それらは我流と混ざり合い、形を変え、今のパフォーマンスの血肉になっています。

そして、大学で得た一番大きなものは、「繋がり」でした。←ここ大事。知識や技術、学生時代ならではの青春も確かに得られます。

けれど社会に出て、最も助けられたのは、同期や先輩、後輩との関係性が仕事に繋がっていったことでした。

先に社会へ出た先輩たちの背中からは、進むべき道を考察できる道標にもなります。

それらを頼りにしながら、僕も自分なりの道を探してきました。

僕は、まだ途中です。

一段一段、階段を上っています。

エスカレーターに乗って楽ができることは、ないと思ったほうがいい。

それほどに、夢への道は遠くて、世知辛い。

けれどだからこそ、

生きていると実感できる毎日を、

今も歩き続けています。

それって幸せ。

ドラマ、映画、演劇と幅広く活動し、2022年から2024年まで「舞台 ハリー・ポッターと呪いの子」で、物語の主軸を担うスコピウス・マルフォイ役を務めた。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか？

「人生で初めて挫折を味わった直後、大きな商業舞台のメインキャストに合格した」

場所を変えるのではなく、 問いを研ぎ澄ます進路選択。

内矢舜さん

(株式会社電通 第7ビジネスプロデュース局 ビジネスプロデューサー)

2019年卒 (CM専攻)

私は一度、進路選択において、大きく立ち止まる経験をしています。高校時代は医学部を目指して勉強していましたが、結果は不合格。センター利用で進学できる大学もありましたが、「普通の大学」に進む自分の姿がどうしても想像できず、浪人を選びました。

浪人中、私は「日本の大学に受からなかった以上、もう日本に自分の居場所はないのではないかと感じていました。当時熱中していたDJや音楽活動を理由に、ロンドンの大学への進学を本気で考えるようになります。しかし今振り返ると、それは海外に行くこと自体が目的になり、本当に向き合うべき問いから目を逸らしていた選択だったように思います。

その考えを母に伝えると、「行くなら自分で資金を稼がなさい」と突き放され、私はアルバイトで短期間にまとまった資金を用意しました。再度その覚悟を示したとき、返ってきた言葉が、私の考えを大きく変えました。

「それは、自分で自分の可能性を狭めているだけじゃない?」

その一言で、はっとしました。

問題は海外か日本かではなく、「自分は何をしたいのか」を突き詰められていなかったことにあったのです。場所を変えることで答えを得ようとするのではなく、自分自身の中にある本質的な問いを研ぎ澄ます必要がある——そう気づいた瞬間でした。

Q. 卒業から5年後、何をしていましたか?

「大阪の地でTVスポット業務を通じて全国の放送局さんと仕事をしていました」



内矢舜さんの仕事から/
左: NY 2025年は海外での初撮影も経験しました!
右: 東京ドーム 普段入ることのできない場所でも頑張って仕事をしています。

行き着いた答えは、「自分の作ったもので、誰かの役に立ちたい」という想いでした。人を助ける方法は医学だけではない。モノづくりを通して、誰かの行動や気持ちを動かすことも立派な「人助け」だと気づき、その価値観に最も近い場所が、日本大学芸術学部でした。

日藝で印象的だったのは、常にチームで制作する環境です。企画会議では、自分より面白いアイデアが次々と出てきて、自信を打ち砕かれることもありました。その経験から、自分はゼロから生み出す立場よりも、全体を見渡し、最適な形に整える役割に適性があると知ります。

放送学科では、企画から撮影、編集、納品まで制作工程を一貫して経験しました。このプロセス理解は、現在広告代理店でビジネスプロデューサーとして制作進行を担う上で、大きな武器になっています。

日芸は、「好き」を肯定するだけの場所ではありません。「その好きは、誰にどう届くのか」を問い続ける場所です。遠回りをしたからこそ見えた自分の適性と価値観が、今の仕事へと確かに繋がっています。

1995年生まれ。2019年株式会社電通へ入社。
新卒から5年間、大阪の地でメディアTVスポット業務に従事した後、東京本社営業へ異動。現在では企業の広告・コミュニケーション施策における制作進行・プロデュースを担当し、数々のTVCMの制作に携わっている。



Broadcasting

日芸は夢の原点。 現場の熱量を声に乗せて届ける今。

大野紘乃さん

(北陸放送株式会社 アナウンサー)

2021年卒 (映像技術専攻)

小学生の頃から将来の夢は「アナウンサー」になることでした。中学生になったある日、日藝を紹介するテレビ番組を目にし、その中で日本でも数少ない「放送学科」があることが紹介されていました。「ここに行けば私の夢が叶うかもしれない!」そこから私は動き始めました。どんな手段を使っても日芸に行きたい! 私は苦手な勉強にも励みました。日藝の切符を手にした日の喜びは、今でも忘れません。

入学してからは座学の他に、多くの実習に取り組む日々が始まりました。アナウンス実習では、基礎的な発声や現場を想定したリポートを学びました。中でも印象に残っているのは映像技術の実習です。実習のテーマに合わせて、内容やセットまで1から作り上げます。

目指していたのはアナウンサーでしたが、スタジオカメラや音声機材に触れて、照明を吊るす機会もありました。様々な役割を担ったことで、出演者としてだけでなく、制作者としても多くの経験を積むことができました。

このような実習を通して1時間の音楽番組でも3分間の中継でも、与えられた時間に関係なく多くの人が関わっていて、たくさんの時間をかけて作り上げられているものだと感じました。

アナウンサーは放送の中で最終表現者「アンカー」と表現されることによくありますが、多くの人の思いを背負って務める役割だと感じ、改めて覚悟を持って目指したいと思いました。

Q. 卒業から5年後、何をしていましたか?

「地域の今を伝える仕事をしています。日芸で得た初心を糧にこれからも挑戦し続けます」



大野紘乃さんの仕事から/
左: ロケでは、様々な人やモノと出会いいつも新たな体験ができます。右: 収録は常に緊張しますが、楽しい瞬間でもあります。

就職活動では、アナウンサー試験1本に絞りに100社以上にエントリーシートを出すなど、順風満帆ではありませんでしたが、日藝での学びを活かし、夢であったアナウンサーとして仕事をする機会を得ることが出来ました。

私は現在、夕方のローカルニュースのキャスターや、朝のラジオの3時間生放送、またTBS朝の情報番組『THE TIME.』の石川県からの全国中継を担当しています。それぞれの番組、コーナー、そして伝える言葉の表現ひとつをとっても、その全てに放送を作り上げる仲間たちの思いや考えが込められていると感じています。

アナウンサーだからできたこと、行くことのできた場所、出会えた人。多くの貴重な経験に日々感謝し、ニュースが作られるまでに込められた思いも乗せて伝えられるアナウンサーとなれるよう、日々、仕事に全力で向き合い続けています。

1998年生まれ、神奈川県出身。2021年にNHK沖縄放送局で契約キャスターとしてキャリアをスタートし、スポーツ取材や情報番組を担当。2024年北陸放送株式会社へ入社。現在は夕方のローカルニュースのキャスターを務めるほか、TBS『THE TIME.』のお国じまん中継では、石川県の担当リポーターとして全国へ情報を発信している。



まだ「ないモノ」を創り出す。
だからデザインは、難しく楽しい。

藤ヶ谷友輔さん
(三菱電機株式会社 統合デザイン研究所)

2011年卒 (インダストリアルデザインコース)

子どもの頃からモノづくりは好きでしたが、大学で学びたいことが見つからないまま高校3年生を迎えました。そんなときに芸術学部デザイン学科ではモノづくりを「勉強」として学べることを知り、ここしかない!と、進学をすぐに決意しました。そこで大学見学に行ったのですが、在学生作品のクオリティが高く諦めかけました。しかし、美術予備校に急いで入学し必死で勉強して、なんとか合格できました。

日藝を志したのが同級生に比べて遅かったこともあり出遅れていたもので、授業はもちろんのこと、同級生や先輩に制作のコツを教わったり、夏休み中も自身に課題を課したり、われながらよく勉強した4年間でした。なかでも印象に残っているのは、遊具をデザインする授業です。子どものためのデザインを経験することで、デザインするその先には自分ではない誰かがいると実感できました。また、皆でアイデアを出し合い議論するうちに、想定していたものと大きく異なる作品になったのも新鮮でした。日藝で過ごした時間は、憧れの先輩やモチベーションの高い仲間と刺激し合い、高め合える素晴らしいものでした。

デザインを通して生活を便利に、楽しくしたり、より良い社会にしていきたいと考えていたので、家電製品のプロダクトデザインやソリューションデザインは自分にピッタリのフィールドです。構造やユーザビリティ、安全性の確保にコストなど制約の多い仕事ですが、難しいから



藤ヶ谷友輔さんの仕事から/
左:海外向け片吹きジェットタオル「ジェットタオルスマート」
右:日本国内向けエアコン「霧ヶ峰Sシリーズ」

こそ面白く、課題の解決方法を見つけたときの喜びは大きいです。日藝で身につけたデザインの考え方は、広く応用が利くものだと実感しています。ひとつの正解に満足せずさらに突き詰めて考えると、革新的な解決案が見つかることもあります。日藝時代に徹底的に考え抜く姿勢を学んだことは、今後も私の強みであり続けると思います。

この仕事を始めて10年以上経ちますが、つまらないと思ったことはありません。これからもずっとモノづくりを続けていきたいし、このメチャクチャ楽しい仕事を、昔の自分のようにまだ気が付いていない人がいるのであれば知ってもらいたい。そのためにもっと世の中に広めたい、広められる存在になりたい。それが今後の目標です。

1989年生まれ。大学卒業後、三菱電機統合デザイン研究所勤務。
家電製品のプロダクトデザインをはじめ、鉄道や宇宙など社会インフラ領域におけるソリューションデザインを担当。現在はソリューションデザイン部のグループマネージャーとして、デザイン業務と組織マネジメントを担う。



Q. 卒業から5年後、何をしていましたか?

「海外向け製品をデザインする機会が増え、様々な国で調査・プレゼンしていました」

Design

視界を広げ、自由な表現を糧にする。
日藝での学びと財産。

小野鼓乃さん
(株式会社電通デジタル AD・プランナー)

2025年卒 (グラフィックデザイン専攻)



小野鼓乃さんの作品から/
左: 歯蓋(かさぶた)ドロイング
右: コマにわ

物心ついた時から、私の中心には常に「ものづくり」がありました。ジブリ映画のセリフを暗唱するほど繰り返し鑑賞し、学校行事のポスター制作には誰よりも情熱を注ぎました。父に買ってもらったiPadで絵を描く時間は、何にも代えがたい癒しのひとときでした。

しかし中学生になり現実的に将来を意識し始めると、「自分の実力で仕事にするなんて無理だ。苦勞するだろう」と、漠然とした不安からものづくりが好きな自分に蓋をするようになりました。そんな私を変えたのは、高校3年生の体育祭です。50人の仲間と3メートルの巨大マスコットを制作し、最優秀賞をいただいた経験が、「自分の『好き』を大切にしないことのほうが、よほど辛い」という気づきをくれました。人生で一度だけ、自分に全力で集中したい。その一心で、美大受験を決意しました。

当初は別の大学を検討していましたが、母から「日藝」の名を教わったことが転機となりました。8学科が1つのキャンパスに集まり、多角的な視点を養える環境は、プロを目指す私に不可欠な「多くの人の視点でものを見る力」を授けてくれると感じたのです。

AO入試への道のりは平坦ではありませんでした。美術予備校経験がなく基礎知識も乏しかった私は、夏休みに毎日10時間以上のデッサンを猛特訓し、思考を形にする練習を繰り返して、なんとか合格を掴み取りました。入学後は遅れを取り戻そうと、あらゆる講義を貪欲に吸収し

た。コロナ禍という制約もありましたが、オンラインを駆使して先生方と交流し、移動時間がない分制作に没頭できたのは、逆境を逆手に取った収穫でした。

日藝の素晴らしさは、アウトプットに規制がないことです。イラストやグラフィックを基盤に、アニメーション、装丁、空間設計から広告まで幅広く展開できました。そして何よりの財産は、初めて出会えた「ものづくり」を志す仲間です。彼らと切磋琢磨し、新たな視点を得た経験は、今も私を支える大きな力となっています。

何もわからなかった私が、日藝での5年間を経て、自信を持って「これが私の好きなものだ」と言えるようになりました。現在はアートディレクターとして、壁にぶつかりながらも奮闘しています。大学で学んだ多角的な視点と粘り強さを武器に、人の心に届くクリエイティブを生み出せるよう、これからも努力を積み重ねていきたいです。

2001年生まれ。東京出身。大学卒業後2025年電通デジタル入社
AD・プランナーとして、デジタル広告を起点としたディレクションとプランニングを行っている。



Q. 卒業から1年後、いまどんなことをされていますか?

「デジタル広告会社で世の中の動きを鮮明に捉えたADになれるよう奮闘中!」



片渕須直さん

アニメーション映画監督 / Director

1983年卒 映画学科 映像コース

アニメーションが動くのは“魔法”ではない・原理を理解する

2歳のときに見た『わんぱく王子の大蛇退治』という作品を起点に、幼いころに東映動画(現・東映アニメーション)の長編アニメーションをかなりの数見ていました。高校3年生になると『わんぱく王子〜』のアニメーターだった大塚康生さんが作る“動き”に憧れて、自分でも何かを動かしてみたいという気持ちが高まっていました。

進学先として日藝の映画学科映像コースを選んだのは、映画そのものの体系をきちんと理解しながらアニメーションを学びたいと思ったからです。さらにそこは、高畑勲さんと同期で東映動画に入社して活躍された池田宏さんが教えておられた。大塚さんと組んで『わんぱく王子〜』で作画を担当されていた月岡貞夫さんも、私が入学した年から教壇に立たれるようになり、このお二人からアニメーションを学ぶことになりました。

池田先生はよく、「ここまで教えるから、あとは自分で考えて」とおっしゃいました。ヒントは与えられるけれど、最終的には学生自身が自分で考えて答えを得ることを期待がされる。自分で見つけ出した答えは、一生のものになります。

自分が教壇に立つようになって考えたのは、映画学科でアニメーションを学ぶというのは、美術学科やデザイン学科とは根本的に違うのかもしれない、ということでした。まず、絵を描くところから始めない。なぜ映像は動いて見えるのか、という原理の理解から始め、それをアニメーションの動きの様々な場面に

応用して、もしも絵を描けなくても動きが作れる人になってもらいたい。

池田先生から影響を受けたひとつが、人間の認知の不思議さでした。人間の視野は左右に180度くらいありますが、その中で「色」を認識できる視細胞があるのは実は6度くらい。あとの景色は脳の中で着色してフルカラーにしているんです。映像は一般的に、1秒間に24コマとか30コマの静止画から出来ているのですが、それがなぜかなめらかに動いているように認知される。これも脳の中の働きです。でも、日本のアニメーションは1秒間に8枚の画でも動きを作ることが出来ている。それはなぜなんだろう。1秒間24枚の画でできている映像と、1秒間8枚のものは同じなのか、それとも違うのか。実際、1秒24枚の海外作品の動きには「ぬるぬる」した違和感があって、普段見ている日本のアニメーションの動きとは違う感じがする、という人が多いです。なぜ違って見えるのか。これらは、それぞれ別々の原理によって動いて見えているのだと考えています。特性も違います。その違いを使いこなせるようになってほしい。こうしたことは日藝映画学科ならではの、と思います。

本物の作り手たちの横で気づけば即戦力に

大学3年次には、宮崎駿監督の『名探偵ホームズ』で脚本家募集があると池田先生に教えてもらい、それをきっかけに在学中から制作会社のテレコム・アニメーションフィルムで宮崎さんや高畑勲さん、大塚康生さんと働く機会を得ました。カメラワークを指定する仕事を任されたときにも、経験はないのにやり方がわかっていました。それは、平面の絵で出来ているアニメーションの画面の中に、撮影機材の使い方ひとつで立体的な空間を画面にもたらす方法を、学生の間に自分で考えていたからでした。気づいたら即戦力みたいになっていました。

実写の映像も、アニメーションも、そこに映し出そうとしているものは何なのか、やはり作り手である自分自身が理解することが大事です。調べる。ひょっとしたら、他の人が知らない秘密にまでたどり着けるかもしれない。私は、自分が体験したわけではない戦時中の時代を描いた『この世界の片隅に』を作るときに、その時代の肌触りが自分の中に得られるまで、いろいろなことを知ろうとしました。出来上がった作品は、戦時中を実際に体験した人たちから「あの時代の空気に一番近い」といっていただけました。今、映像表現理論コース全体で、そうした「調べる」というアプローチを大事にもらっています。

2026年4月からは映画学科にアニメーション専攻が創設されます。ぜひ一緒にアニメーションを作ったり、研究してくれる方をお待ちしています。

【プロフィール】

1960年生まれ。映画学科卒業。在学中から宮崎駿監督作品『名探偵ホームズ』に脚本家として参加。『魔女の宅急便』(89) 演出補。監督作として、TVシリーズ『名犬ラッシー』(96)。TVシリーズ『BLACK LAGOON』(06)では監督・シリーズ構成・脚本。長編映画、『アリーテ姫』(01)。山口県防府市に暮らす少女・新子の物語を描いた『マイマイ新子と千年の魔法』(09)は異例のロングラン上映とアンコール上映を達成。さらに2016年、広島・呉を舞台にした長編映画『この世界の片隅に』が公開されると、幅広い世代からの支持が大きな反響を呼び、日本アカデミー賞《最優秀アニメーション作品賞》、アヌシー国際アニメーション映画祭長編部門《審査員賞》を受賞するなど、国内外にて高い評価を得て数々の映画作品賞・監督賞を獲得。



©2019 この世の片隅に・コアミックス / 『この世界の片隅に』製作委員会

2019年12月には新しいシーンを追加して別の観点からの作品とした『この世界の(さらにいくつもの)片隅に』を公開。現在、『枕草子』をベースに疫病の中に生きる千年前の人々を描く新作『つるばみ色のなご子たち』を制作中。2006年から日本大学芸術学部非常勤講師。2018年からは同大学特任教授。2013年からは東京藝術大学大学院でも非常

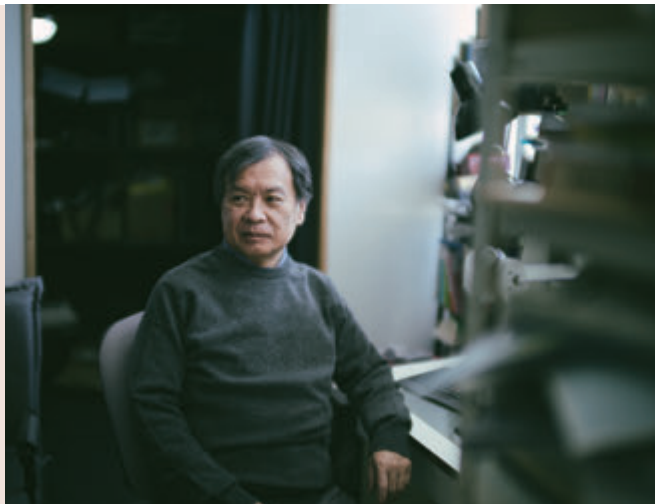


写真: 末長真 / Photo by Makoto Suenaga

Vaundyさん

マルチアーティスト
2023年卒 デザイン学科
グラフィックデザイン分野専攻

日藝を選んだ

きっかけはありますか。

やりたいことってものづくり以外になかった
ので、高校生の頃にはもう芸術系の大学に行く
だろうなって決めていました。音楽の学校も
いろいろと見たんですけど、あまりそそれ
なくて。自分が中学生、高校生の時にやって
いたようなことをただ勉強するのしょうが
ない。だったら音楽以外の仕事にも就けるよ
うにしたいなと思って日藝のデザイン学科を
選びました。デザイン学科を受験するまでが
日藝に入って一番良かったところだと僕は
思っています。ものづくりとは何かということが
受験に全部詰まっていたんですね。

仕事と学業の両立で大変だと

感じたことはありますか。

あるんだろうけど、忘れちゃいました(笑)。
1年ごとに記憶がリセットされてしまうので。
両立で苦しいと思ったことはないです。元々
は25歳くらいから音楽の仕事が入って来れば
いいなと思っていたのですが、ありがたいこと
に大学1年生の頃からいただいていたので、む
しろ授業は仕事を休むための理由にしていま
した。「その日授業があるので……」と言って
(笑)。

最初にものづくりが楽しいと

思ったのはいつですか。

母の話によると、幼少期にはみんなに頼まれ
てものを作っていたみたいです。ものを作る
以外に遊びがなかったので、段ボールででき
た、中身を変えると違うゲームにできるDSを
作っていました。何か足りないものがあれば
自分で作るということをやっているうちに、好
きだけでなく、生きる義務というか、生
物ってものづくりしなきゃいけないだなんて
強く思うようになりましたね。その中でも人間
は知恵をものづくりの中に入れるという能力
があるから、それをやらなきゃ人間じゃないな
と思って。だから当たり前のようにものづくり
をしています。逆にやっていないと落ち着か
ないんですね。それをやるための口実として仕
事をしています。

最後にメッセージをお願いします！

大学在学中にできることって大人になったら
もうできないので、最後のチャンスだと思っ
て自分に投資をしてください。自分に有り得
るもの全てを自分のやることに注がないと、仕
事には絶対にできません。自分が思うよう
な仕事をするには、学生の間にとれぐらい全

力で自分に投資できるかということが大事だ
と思います。お金を稼ぐことも大事ですが、た
だ稼ぐだけではなく、何か目的を持ってちゃん
とお金を稼いで、またそのために使うみたい
な。何か自分のために時間を使わないとこの
学校にいる意味はないということです。学生
のうちにどれぐらい失敗作を作るかで大人に
なってしまうのことが決まるから、学生の間
にいろいろなものをいっぱい作りましょう。

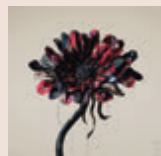


【プロフィール】

マルチアーティスト25歳。作詞、作曲、アレンジを全て自分でこなし、デザインや映像のディレクション、セルフプロデュースも手掛ける。2019年春頃からYouTubeに楽曲を投稿開始。「東京フラッシュ」「不可幸力」など、耳に残るメロディーを持つ、幅広いジャンルの楽曲を発表すると、瞬間にSNSで話題に。サブスク令和時代の象徴的な存在として注目を集めており、18曲が1億回再生を突破、日本男性ソロアーティスト1位の記録を打ち出している。2026年春現在、YouTube・サブスクリプションのトータル再生数は、100億回以上を突破。リリース配信楽曲は長期にわたりチャートイン。CM、ドラマ、アニメなど各方面で、タイアップ曲に多数起用されている。開催したライブは全て即日完売。2026年には自身最大規模男性ソロアーティスト史上最年少記録となる4大都市ドームツアーも全公演完売、約35万人を動員。2026年秋より自身初のアジアアリーナツアーと自身最大規模の国内アリーナツアーの開催も決定している。

【主な作品】

- CDシングル
『タイムパラドックス』(2024)、『ホームクルス/Gift』(2024)
- 配信シングル
『東京フラッシュ』(2019)、『不可幸力』(2020)、『怪獣の花唄』(2020)、『踊り子』(2021)、『そんなbitterな話』(2023)、『呼び声』(2025)ほか多数
- フルアルバム
1st『strobe』(2020)、2nd『replica』(2023)
- 楽曲提供・プロデュースなど
『おもかげ』(milet×Aimer×幾田りら)(2021)、『感う糸』(菅田将暉)(2022 ミュージックビデオの監督も務める)、『逆光 (ウタ from ONE PIECE FILM RED)』(Ado)(2022)。



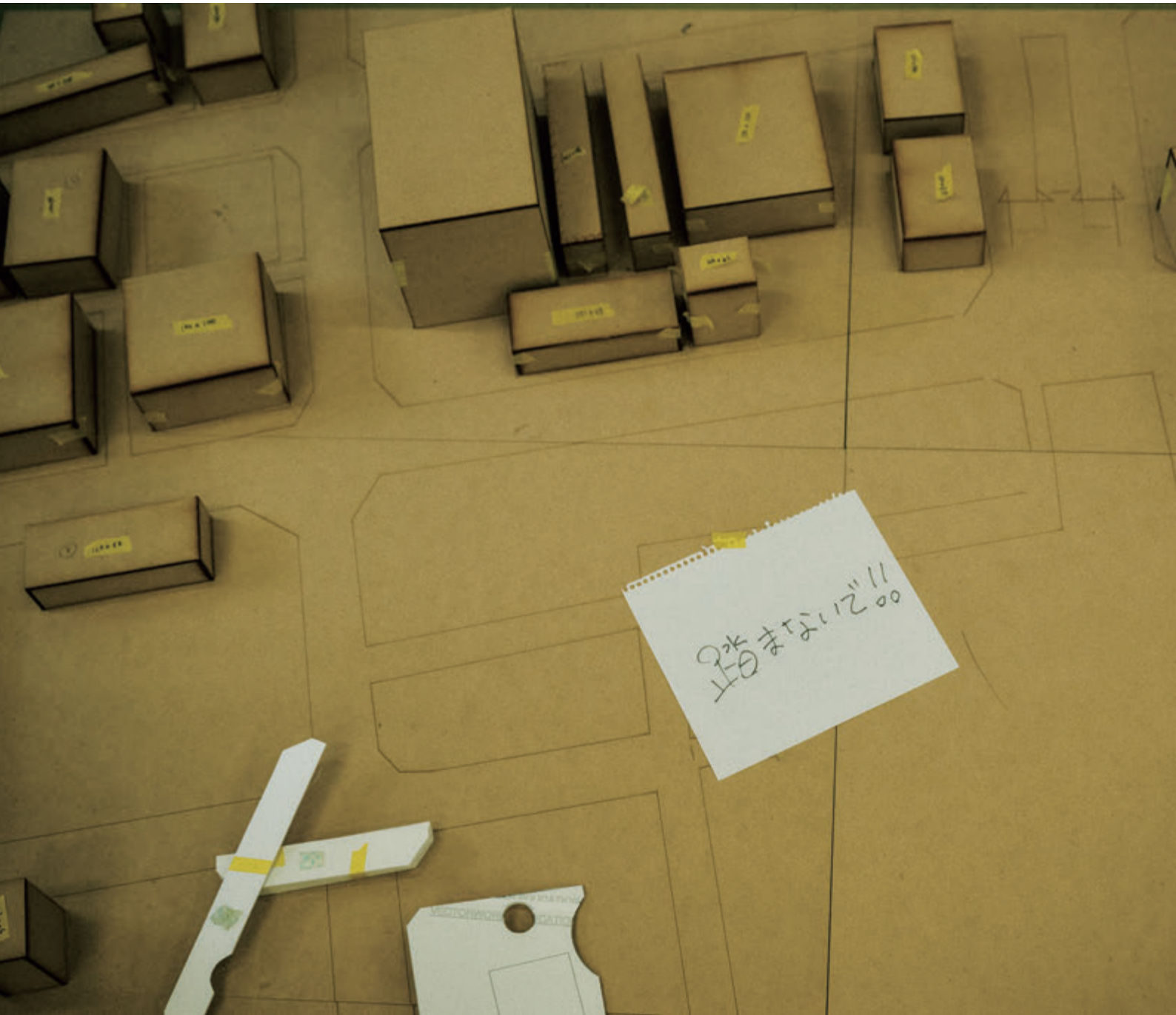
『strobe』(2020)
『傷生人』(2025)
『呼び声』(2025)





NOU
Nihon University College of Art
Art





日本大学芸術学部 2027

発行：日本大学芸術学部

〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1

TEL.03-5995-8200

発行日：2026年5月8日

アートディレクション・デザイン：中村至男（美術学科卒）

デザイン：山下ともこ（美術学科卒）

撮影：岡本充男（文芸学科卒）

齊藤幸子（写真学科卒 p.10）

編集：上條桂子

印刷：株式会社シナノパブリッシングプレス

※取材・執筆、一部 2025 年度版を更新しています。

※本冊子に掲載している学生の学年表記は、

2026年3月時点のものです。

就職支援

学生の希望進路に応じた個別面談や就職指導講座の開講、就職支援ページによる各種情報提供など、一人ひとりを丁寧にサポートするきめ細やかな就職支援を目指しています。

専門性に磨きをかけると同時に、学科を越えて広く芸術領域を学んできた学生の進路は多岐にわたり、企業に就職する人や、カメラマンや俳優、アーティスト、デザイナーなどとしてフリーランスで活躍する人もいるのが本学部の大きな特徴です。

主な就職サポート

1 個別面談

進路に関する相談や、エントリーシートなどの書類添削、模擬面接など、学生の希望に応じて対応しています。



2 就職指導講座

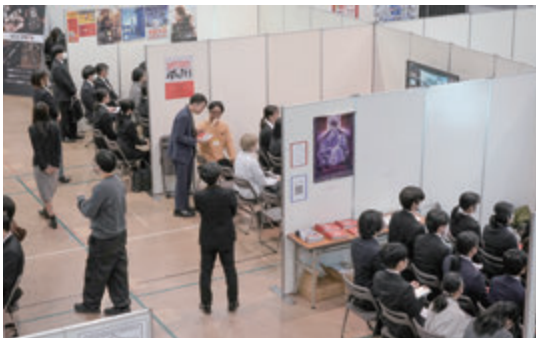
就職活動を進める上で必要な知識やノウハウを習得するための課外講座を順を追って開講しています。1年生を主な対象として、卒業後の進路を考える方法を解説する「キャリアガイダンス」や、主に2年生向けに様々な業界を広く紹介する「業界研究講座」の他、インターンシップや就職活動に備えて概要や対策を解説する主に3年生を対象とした「就職指導講座」の、3段階に分けて講座を設けています。

主な就職指導講座名

就職活動スタートアップ講座
インターンシップ講座
教員採用試験対策講座
筆記試験対策講座
ポートフォリオの作り方・添削講座
マスコミ業界対策講座
履歴書／エントリーシート書き方講座
面接／グループディスカッション基礎・実践講座
マナー・身だしなみ講座
公務員・公益法人等紹介講座
生成AI活用就職活動講座
動画(自己PR等)対策講座
フリーランス・起業家入門ガイダンス

芸術学部合同企業セミナー

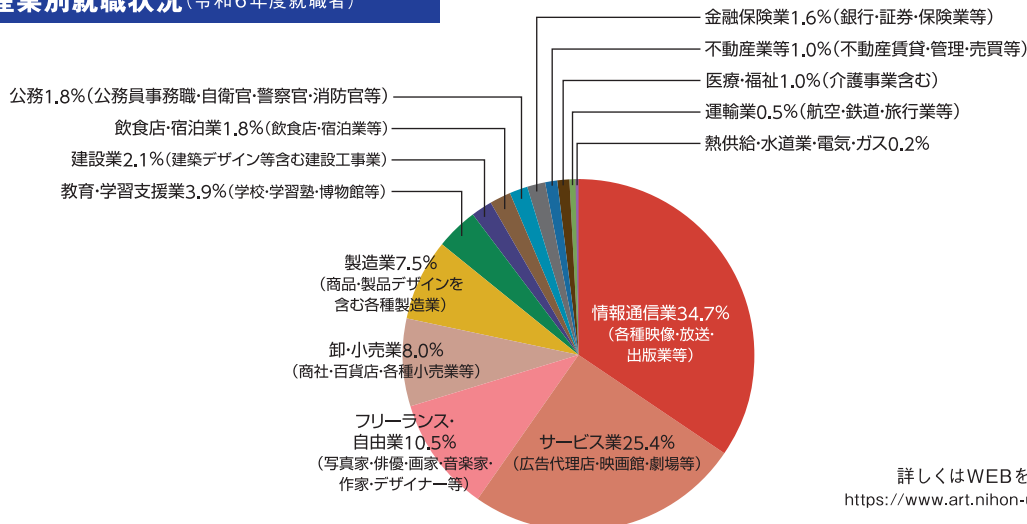
マスコミやエンターテインメントなど多くの芸術学部生が志望する企業を芸術学部へ招いて、毎年1月下旬に開催しています。卒業生が活躍している企業も多く参加しています。



3 就職支援ページ

学生ポータルサイト内の就職支援ページでは、大学に届いた企業からの求人情報や、就職指導講座、インターンシップ、学内企業セミナー、個別相談会など幅広い就職情報を発信しています。

産業別就職状況(令和6年度就職者)



詳しくはWEBをご覧ください。
<https://www.art.nihon-u.ac.jp/career/>



奨学金制度・授業料減免制度

奨学金は、学業生活を充実させるための経済的支援です。

向学心があるにもかかわらず経済的な理由により修学が困難な場合や学業成績優秀者に奨学金を給付・貸与しています。

日本大学の奨学金制度や芸術学部独自の奨学金制度、また、学外の日本学生支援機構や地方公共団体・民間育英団体の奨学金制度も活用することができます。

なお、高等教育の修学支援新制度に採用となった場合、各奨学金制度との併給ができない可能性があります。

日本大学の奨学金制度

■ 日本大学創立130周年記念奨学金(第2種)

成績・人物ともに優良な資質を持っているにもかかわらず、経済的理由により学費等の支弁が困難である在学生(外国人留学生を除く)に30万円を給付します。

■ ロバート・F・ケネディ奨学金(大学院生対象)

アメリカ合衆国元司法長官故ロバート・F・ケネディ氏の寄付によるもので、大学院に在学する学生で学業及び人物ともに優秀で、健康な者に年額20万円を給付します。

■ 古田奨学金(大学院生対象)

本大学の興隆発展に寄与された故古田重二良先生の功績を顕彰して、大学院に在学する学生で学業及び人物ともに優秀で、健康な者に年額20万円を給付します。

■ 日本大学創立100周年記念外国人留学生奨学金

私費外国人留学生を対象とした制度で、学業成績・人物が優秀で、特待生その他の本学の奨学金を受けていない学生に授業料相当額の半額を給付します。

■ 日本大学私費外国人留学生授業料減免制度

私費外国人留学生を対象として、授業料の一部(20%)減額を行い、その経済的負担を軽減することによって、学業が継続され、留学の実を上げることを目的とする制度です。

芸術学部の奨学金

■ 芸術学部奨学金

本学部が学生の有為な人材育成を目的に設置した奨学金です。

奨学金の種類	対象	給付額	人数
第1種	修学の意志があり、かつ優良な資質を持ちながらも経済的な事情で学業に専念できない学部生(外国人留学生を除く)	30万円を限度	若干名
第2種	芸術・文化に係わる創作活動において、専攻分野に関連した国際的又は全国的規模のコンクール・発表等で高い評価を受けるなど、優秀な成績をあげたと認められる学部・大学院生	50万円を限度	若干名
第3種	学費支弁者が災害に罹災し、甚大な被害を受けた、もしくは不慮の理由で家計が急変し学費等の支弁が困難である学部・大学院生(外国人留学生を除く)	授業料を限度	—
第4種	本部又は学部が設ける留学制度、海外研修制度等により海外に渡航する学部・大学院生(外国人留学生を除く)	20万円を限度	—

(人数は2025年度採用予定数)

日本大学芸術学部校友会奨学金

基礎的学習を終え、専門的実習に向かう2年生(若干名)を対象として、年額10万円を給付する奨学金です。学内外における個性的で創造豊かな活動を評価し、奨学金を給付することにより、学生生活の活性化を促進することを目的としています。

日本大学特待生制度

本学では学業成績優秀、品行方正な学生を学部で選考し、特待生としています。特待生には、次の奨学金を給付しています。選考された学生には、6月頃郵送及び掲示にて通知します。(2年生以上対象) ①甲種(授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円) ②乙種(授業料1年分相当額の半額)

資格取得

教職課程

教員免許状を取得するための課程です。基礎必修科目、教職に関する科目、教科専門科目があり、所定の単位数を取得することにより免許状を授与されます。(下表参照)

学科	美術	音楽	文芸	デザイン
中学校一種	美術	音楽	国語	美術
高等学校一種	美術・工芸	音楽	国語	美術・工芸

一級建築士、二級建築士及び木造建築士受験資格

デザイン学科在籍者は、所定の建築士試験指定科目を修得することにより、卒業時に一級及び二級・木造建築士試験の受験資格を得ることができます。

高等教育の修学支援新制度(授業料減免と給付型奨学金)

高等教育の修学支援新制度は、しっかりとした進路への意識や進学意欲があれば家庭の経済状況に関わらず大学等に進学できるチャンスを確保できるよう、文部科学省が実施する「給付型奨学金の支給及び授業料・入学金の免除または減額」の制度です。支援区分は世帯所得等により表の通り4段階になります。なお、多子世帯支援の授業料等の減免部分については、所得制限はありません。

● 第I区分(住民税非課税世帯)

授業料等の減免	給付型奨学金	
	自宅通学	自宅外通学
上限約70万円/年	38,300円/月	75,800円/月

● 第II区分

授業料等の減免	給付型奨学金	
	自宅通学	自宅外通学
上限約47万円/年	25,600円/月	50,600円/月

● 第III区分

授業料等の減免	給付型奨学金	
	自宅通学	自宅外通学
上限約23万円/年	12,800円/月	25,300円/月

● 第IV区分(多子世帯のみ)

授業料等の減免	給付型奨学金	
	自宅通学	自宅外通学
上限約70万円/年	9,600円/月	19,000円/月

☆多子世帯支援(所得制限なし) ※令和7年度から拡充

授業料等の減免	給付型奨学金	
	—	
上限約70万円/年	—	

※多子世帯支援:扶養する子の数が3人以上である世帯が対象

日本大学は高等修学支援制度の対象校です。詳しくは、高等教育の修学支援新制度(文部科学省)のホームページをご確認ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm



日本学生支援機構奨学金(貸与)

返済する際、利子の付かない第一種奨学金と、利子の付く第二種奨学金があります。これらとあわせて入学時の一時金として貸与する入学時特別増額貸与奨学金(利子付)があります。採用には学力基準及び家計基準があります。

詳しくは日本学生支援機構のホームページをご確認ください。

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>

地方公共団体・民間育英団体奨学金

募集の時期は3~5月が最も多く、募集があったものについては日芸奨学金サイトなどで告知します。ただし、地方公共団体奨学金は大学に奨学生募集の通知がないものがあるので、出身地の教育委員会などに問い合わせてください。

学芸員課程

芸術学部各学科の学生は所定の単位数を取得することにより学芸員の資格を取得することが可能です。

司書課程・司書教諭課程

芸術学部各学科の学生は所定の単位数を取得することにより司書及び司書教諭の資格取得が可能です。司書教諭の資格を有効にするには、併せて教員免許の取得が必要となります。

資格取得について詳しくはWEBをご覧ください。

<https://www.art.nihon-u.ac.jp/campuslife/registration/licence/>



